事項一七　「シベリア」出兵関係一件

五七二　一月三日　在仏国松井大使ヨリ内田外務大臣宛（電報）

シベリアヨリノ日本軍ノ減兵決定ヲ仏国政府ニ内告ノ件

第二号

貴大臣発在米大使宛電報第六五四号[註]ニ関シ一月三日「ピション」氏ニ会見昨年日本軍西比利亜派遣ノ当時其兵数多寡ニ関シ米国政府ニ於テ文句ノアリタルコトハ已ニ御承知ノ通ナルガ去ル十一月中大統領及「ランシング」氏ヨリ石井子爵ヘ再ビ談話ノ次第モアリ一方西比利亜出兵ノ目的モ大部分達セラレタルニ付帝国政府ニ於テ減兵スルコトニ決定シ其ノ旨米国政府ヘ内告アリタルニ依リ仏国政府ヘモ其旨内告スル次第ナル旨ヲ述ベ在米大使宛貴電第六五三号[註]ノ写ヲ手交シタルニ「ピション」氏ハ是ヲ一読シタル後甚ダ失望ノ体ニテ米国政府ノ意見アリタルニセヨ日本政府ガ減兵セラルルハ甚ダ遺憾ナリ露国モ西比利亜モ未ダ秩序全ク完成シタリトモ（脱）人民ニ如何ナル感覚ヲ与フ可キヤ是ヲ予想シ難キモ今後如何ナル事態発生スルヤモ計リ難ク今日ノ現勢ハ実ニ遺憾ナリト二度モ三度モ繰リ返シ述ベラレタリ本使ハ「ピション」氏ノ下院ニ於ケル演説ニテ仏国ガ目下深ク露国内地ニ遠征スルノ意ナキコト又斯ル遠征ガ四年以上モ戦役ニ服シタル当国士卒ノ好マザル所ナルコトヲモ了解スルガ他方ニハ露国ヲ此ノ儘ニ傍観ス可カラズ聯合与国（脱）シテ何トカ方法ヲ講ゼザル可カラズトノ意見モ又有力ナルヤニ見受ケラルルガ何分露国人自ラ今少シク奮励努力セザレバ与国トテモ如何トモ為シ難カル可ク近来露国名士ノ来仏セル者鮮カラザル様子ナルガ何等カノ名案ニテモ無カリシヤト尋ネタルニ「ルボウ」公「ココフツォフ」其他数名ニ面会シタルガ別ニ是ト云フ案モ無ク又東南露西亜ニハ「デニキン」其ノ他ノ輩アルモ今ノ処何レモ強固ナル政府ヲ樹立スル迄ニ至ラズ仏国ハ「オデッサ」「セバストポール」方面ニ三師団外ニ希臘師団英国ハ「ノボリスク」ヨリ高加索ニ掛ケ若干ノ軍隊ヲ有シ夫レ夫レ露国人ノ奮起スル者ヲ援ケントスルモ尚今後財政兵器物資上ノ幾多ノ援助ヲ要スルコトトナル可ク講和会議ノ際ハ露国問題ハ必ズ重要問題トシテ討議セラルルニ至ル可シ同国民ノ七、八分迄ハ「ボルセビック」ノ為ニ苦シメラレ居ルモノナレバ其ノ救助ニ赴ク者アラバ彼等ハ喜ンデ是ヲ迎フ可シト言ハレタリ

本使ハ更ニ話頭ヲ進メ独乙モ近来ハ益々「ボルセビク」ニナリツツアル様ノ新聞報道ナルガ所見如何ト尋ネタルニ「ボルシェビズム」ハ独乙ニハ蔓延セザルベク「シャイデマン」氏目下外相ナリトノコトナルガ同氏ハ最初ヨリ前帝国政府ト結ビ合ヒ戦争費ニ投票シタル人ナレバ其裏面ニハ従来ヨリ帝国外務省ノ役人タリシ者依然事務ニ執掌シ居ルモノノ如ク中々油断ハナリ難シト言ハレタリ

右在英米伊各大使ヘ転電セリ

註　内田外務大臣発在米大使宛電報第六五四号ハ外交文書大正七年第一冊七二一文書、同ジク第六五三号ハ同ジク第一冊七二〇文書ノ別電

五七三　一月十日　在浦潮松平政務部長ヨリ内田外務大臣宛（電報）

黒竜州ヨリノ日本軍減兵ヲ延期スル様在ブラゴヴェシチェンスク郡司書記生ヨリ意見具申ノ件

第一七号

一月九日郡司発本官宛電報第一号

閣下発哈爾賓総領事宛電報第五三三号[註]及第五三四号[註]減兵ノ件ハ追テ黒竜州守備ノ日本兵数ニモ影響ヲ及ボス可キ義ト存ゼラルル処当地方過激派首領「ムーヒン」ニ関シテハ政務部長宛拙電第二号ノ通リ風評アルト同時ニ一方一般住民ハ「ガモフ」ニ対スル信任薄ク加フルニ数日前ヨリ過激派当地襲来ニ関スル流言蜚語頗ル盛ナルガ為メ人心戦々兢々タル有様ニシテ山田少将ハ万一ヲ慮リ昨今監獄並市内ノ要地ニ衛兵ヲ派シ警戒ヲ厳ニシ居ルガ如キ状態ナレバ若シ此際当地方ヨリ多少ナリトモ減兵スルニ於テハ一般人心ニ動揺ヲ来シ住民ハ不安ノ念ニ駆ラレ安ンジテ其業ニ就ク事ヲ得ザルベク且対岸支那領各地ニハ今尚多数ノ過激派党員潜伏シ居リテ武器ヲ集メ再興ノ準備ヲ為シ徐ニ其時機ヲ待チツツアルヤノ情報モアルノミナラズ七日小官ガ「コミッサール」ヲ訪問シタル際日本ノ撤兵問題ニ言及シ当地方ヨリハ当分ノ間減兵ヲセラレザル様希望スル旨ヲ申述ベタル次

第モ有之尚又山田少将ニ於テモ此際減兵セラルルトモ勿論州内ノ秩序維持ニハ充分堪ヘ得可キ見込ナルモ目下ノ状況ニ鑑ミ今直ニ減兵スルハ頗ル面白カラザル様思考セラルル旨ヲモ語ラレ居ルニ付客年当地ニ於ケル騒動ガ二月ヨリ三月ニ亘リ勃発シタル事情ヲモ考量シ此際当地方ヨリノ減兵ハ少クモ解氷期迄延期セラルルカ若シ軍隊ノ編成上是非トモ当地方ヨリ駐在兵士ノ帰還ヲ必要トスルニ於テハ他ヨリ補充セラルル様特ニ其筋ト御協議相仰度ク此段事情具申旁旁卑見申進ス

註　大正七年十二月二十七日内田外務大臣発在哈爾賓松島総領事代理宛第五三三号及第五三四号ハ十二月二十五日外務大臣発在米大使宛第六五二号及第六五三号ノ反訳文（外交文書大正七年第一冊七二〇文書）ヲ電報セルモノナリ

五七四　一月十五日　在浦潮松平政務部長ヨリ内田外務大臣宛（電報）

「ハバロウスク」ニ於テ日本海軍ノ押収セル露国船艦ノ処分ニ関スル日本政府ノ意向問合ノ件

第二四号

一月十五日「オルストン」来訪「エリオット」ヨリノ電報ニ依レハ「ハバロウスク」ニ於テ日本海軍カ押収シ居ル露国船艦ハ日本政府ニ於テ早晩露国政府ニ返サルル旨声明セラレタルニ拘ラス近来露国人ヲ傭入レテ同艦隊ノ操縦ニ当ラシメ近ク日本ノ勢力ヲ編成セントシツツアル噂「オムスク」ニ伝ハリ居リ「コルチャク」ニ於テ反対ノ意ヲ有シ居ル由ニテ事情確メ方訓令ニ接シタル旨述ヘタルニ付本官ハ右艦隊ノ保管上露国人ヲ使用スルコトハ有リ得ヘキコトト思考スルモ右艦船ヲ以テ日本ノ一勢力ヲ組織スル計画ニ関シテハ本官ニ於テ何等聞知セサルモ念ノ為メ取調ノ上回報スヘキ旨答ヘ置キタリ右艦隊ノ処分問題ニ関シテハ是迄種種稟申シタルモ直接何等御回訓ニ接セス帝国政府ノ明確ナル御意図判明セサルニ付右「オルストン」問合セニ対スル回答振リト共ニ政府ノ御意向（往電第二六四号及第三〇〇号参照）至急御指示ヲ請フ

五七五　一月十七日　在浦潮松平政務部長ヨリ内田外務大臣宛（電報）

オムスクニ於テ英仏露軍憲ガ東露及バイカル以西ノ軍事行動統一ノ為協議決定セル内容ニ関スル情報報告ノ件

第二八号

一月十七日「オルストン」ガ内密本官ニ示シタル「エリオット」発電報ニ依レバ「オムスク」ニ於テ英仏露軍憲ノ間ニ長時間ニ亘リテ相談アリ未ダ正式ニ調印セザルモ大要左ノ通決定セル由

軍事行動ノ統一ヲ期スル為「ジャナン」[註1]将軍ハ東露及貝加爾以西ノ西比利亜ニ在ル聯合軍及露軍ノ総指揮権ヲ執ル事

「ジャナン」ハ軍ニ対スル命令ヲ其都度露軍最高指揮者ニ通知シ後者ヨリ露軍ニ命令ヲ伝達スル事

「ノックス」[註2]ハ「ジャナン」ノ同僚トシテ後方ヨリ戦線ニ送ル軍需品ノ供給、軍ノ編成訓練ニ従事スル事（電文不明ノ点多シ）

「オルストン」ハ右電報ヲ在日本英国大使ヘモ転電スル筈ニ付同大使ヨリ日本政府ヘ通報アルベキ乎トモ思考スルカ右個人トシテ内報スル旨申居リタリ

註1　「ジャナン」ハ仏国人陸軍中将ナリ

2　「ノックス」ハ陸軍少将英国派遣軍司令官

五七六　一月二十四日　在浦潮松平政務部長ヨリ内田外務大臣宛（電報）

東露及西部西比利亜ニ於ケル聯合国軍隊ノ総指揮官ニ「ジャナン」将軍就任ノ件

第四三号

往電第二八号ニ関シ

一月二十四日「オルストン」ヨリ「オムスク」電報トシテ「コルチャック」命令第九十九号ヲ入手セリ左ノ通

㈠最高聯合指揮権ノ代表者トシテ聯合国政府ヨリ委任セラレタル「ジャナン」将軍ハ露国ト聯合セル国ノ軍隊ニシテ東露及西部西比利亜ニ行動スル者ノ総指揮官ノ職ニ就ケリ

㈡戦線ニ立テル露軍及聯合軍間ノ統一ヲ計ル為余ハ最高指揮官（「コルチャック」ヲ意味ス）ノ参謀長ニ策戦指導上「ジャナン」将軍ノ幕僚ト協同動作ヲ取ルヘキコトヲ命ス

㈢聯合国政府ニ依リ派遣セラレタル「ノックス」将軍ハ海外ヨリノ軍需品供給及後方ニ於ケル軍隊ノ編制訓練ニ関シ聯合国援助ノ統一ヲ計ル職務ニ就ケリ余ハ第三項ニ掲クル事務ニ関シ「ノックス」将軍ノ幕僚ト協力スヘキ旨陸軍大臣ニ命令ス

右ニ関シ本官ノ問ニ対スル「オルストン」ノ話ニ第一項最高聯合指揮権トハ「ベルサイユ」ノ最高指揮権ヲ意味スルモノト思考スルモ「ジャナン」カ右ノ如キ権限ヲ有スルヤ否ヤ疑ハシキニ付直チニ「オムスク」ニ電報シ右ノ点ヲ確ムヘキ旨申居リタリ往電第二八号ニハ「ジャナン」ニ於テ露軍ノ指揮権ヲモ掌握スル如ク記載シアリシガ露国側ニ於テハ反対多カリシモノノ如ク結局前記ノ如ク決定シタルモノト思ハル

五七七　一月二十八日　在浦潮松平政務部長ヨリ内田外務大臣宛（電報）

在「ハバロフスク」「カルミコフ」支隊ノ大部分ガ隊長ニ叛キ約三百名米国司令部ニ逃込ミタル旨報告ノ件

第四七号

第十二師団参謀長ヨリ軍司令部ニ達シタル電報左ノ通

在「ハバロフスク」「カルミコフ」支隊ノ大部 ataman（註）ニ叛キ二十八日午前一時ヲ期シ蹶起シ騎兵聯隊ハ其聯隊長ヲ傷ツケ約三百名ハ米軍司令部ニ至リ投降セリ目下「カルミコフ」ニ好意ヲ有スルモノ歩兵中隊技術中隊アルノミ砲兵バ右脱走兵ヲ「カルムイコフ」ニ返ストキハ直ニ殺戮セラルベキニ付本問題ハ人道ト常識ヲ以テ判断処理スルコト至当ナルベク従テ彼等ヲ「カルムイコフ」又ハ「ホルワット」ニモ引渡サス彼等ノ自由意思ニ任セ各自其郷里ニ帰リタキモノハ帰還セシムルコトトスル方然ルベシトノ意見ナル由ナリ

五七九　二月十三日　在満第七師団長ヨリ参謀総長宛（電報）

中国第十九旅ノ西比利亜派遣駐剳計画ニ対シ反対意見具申ノ件

作号外　（二月十七日写外務省接受）

支那政府ハ近ク奉天第二十九師ヨリ混成一旅ヲ北満洲地方ヘ派遣シ北満洲ニ現在スル混成第十九旅ヲ西伯利ニ派遣駐剳セシメントスル由ナルモ元来同国軍ハ日支協約ノ方針ニ基キ過激派及独墺俘虜軍ヲ駆逐スヘキ緊要ノ時機ニ於テハ共同防敵ノ名ノ下ニ境ヲ越エテ出動スルコトヲ欲セサリシニ拘ラス既ニ敵ヲ剿討シ得タル今日兵力増遣ヲ敢テセントスルハ不合理ニシテ奇怪ニ堪ヘス恐ラク在西伯利自国民保護ノ名ノ下ニ単ニ東清鉄道沿線竝ニ東部西伯利ニ於ケル自

中隊ノ向背不明ナリ我軍ハ一部ヲ警急集合セシメ変ニ備フ未タ戦闘ヲ加フル如キ状態ニ至ラス

註　ataman ハコサック隊長ノ意

五七八　一月二十九日　在浦潮松平政務部長ヨリ内田外務大臣宛（電報）

在「ハバロフスク」「カルムイコフ」支隊ヨリ離反シ米軍司令部ニ逃込ミタル騎兵百、砲兵二百ノ処置ニ関スル件

第五二号

往電第四七号ニ関シ其後第十二師団参謀長ヨリノ報告ニ依レバ米国司令部ニ至リタル「カルムイコフ」ノ部下ハ騎兵百、砲兵二百ニシテ彼等ハ「カルムイコフ」ノ圧迫ニ堪ヘズ離反シタル旨申居ル由ニテ当地米国派遣軍隊長ハ彼等ヲ米国軍ノ監視ノ下ニ置キ「カルムイコフ」ニハ引渡サス寧ロ「ホルワット」ノ派遣将校ニ引渡シ新軍編成ノ内ニ加ハラシメントノ意思ヲ有シ居ルモノノ如ク右ニ対シ第十二師団参謀長ハ「カルムイコフ」ニ返還セシメタキ希望ヲ有シ居レリ第十二師団長旅行中。本件ニ関シ一月二十九日米軍司令官「グレーブス」少将ガ稲垣少将ニ語リタル所ニ拠レ国勢力ヲ向上スルカ為ニ外ナラサルヘシ果シテ私見ノ如クンハ今回ノ増遣ハ偶々露支葛藤ノ源泉ヲ為シ就中「セミヨーノフ」トノ紛争ヲ惹起シ却テ日支共同出兵ノ本旨ヲ没却スルニ至ルノ恐レアリ当局ノ注意ヲ望ム為念

（東京、浦潮、関東、北京スミ）

五八〇　二月十四日　由比浦潮派遣軍参謀長ヨリ参謀次長宛（電報）

黒竜江州「セミヤノフカ」附近ノ討伐戦ニ於ケル米軍ノ協力拒否ノ回答ニ関スル件

浦参第二五三号

一昨十二日夕刻米軍参謀長来リ「セミヤノフカ」附近ニ於ケル戦闘ニ米軍歩兵一中隊増援ノコトニ関シ同軍司令部ノ意見トシテ同地附近ノ敵ニシテ純然タル過激派ナラハ米軍ヲ増援セシムルコトヲ敢テ辞セスト雖モ現時黒竜州ニ於テハ「アタマン」「ガモフ」ノ虐政ノ為良民モ化シテ暴徒ノ群トナルノ情況ニ於テ右ノ敵カ此種ノモノナリトセハ米軍ハ之カ討伐ニ参加スルヲ欲セス従テ此敵カ果シテ何レニ属スルモノナリヤ明瞭トナル迄ハ増援ニ関スル日本軍ノ要求ニ応スル能ハスト拒絶シ来レリ要スルニ米軍ハ過激派ニ対

スル従来ノ政策カ露骨トナリ来リタルハ別電「カルムイコフ」ノ逃亡事件ニ対スル彼ノ態度ニ依リテモ想像スルニ難カラス従テ当部ハ右米国ノ政策ニ対スル我方針ノ決定迄ハ敢テ増援ヲ要求セサルコトトセリ

五八一　二月二十日　在米国石井大使ヨリ内田外務大臣宛（電報）

在露米軍撤退問題ヲ繞ル米国議会ニ於ケル論議報告ノ件

第一四〇号

在露米国軍撤退ヲ請求スル上院決議案曩ニ共和党議員ニ依リテ提出セラレタルガ最近「ロイド、ジョージ」氏ガ英国議会ニ於テ露西亜問題ニ関スル質問ニ対シ米国ハ今後露国干渉ノ為出兵其他一切援助ヲ為サヾルベシト答ヘタル旨ノ報道当地ニ達スルヤ十三日ノ議会ニ於テ又々露国問題再燃シ共和党ノ重立チタル議員等ハ上院外交委員会ガ前記「ジョンソン」案ヲ握リ潰シタル事及政府ガ国民ニ向ッテ何等対露方針ヲ説明セズ却テ英国首相ヨリ説明ヲ聞クノ矛盾ヲ責メ延テ渡仏以来大統領ノ議会及国民ニ対スル緘黙主義ヲ攻撃シ在露米国兵ノ即時撤退ヲ主張シタルガ外交委員長ニ於テハ沿海州自治会カ其代表者派遣ニ賛同シタルカ如キハ或ハ米国ノ使嗾ニ依ルナキヤヲ疑ハシメ又現ニ「イワノフリーノフ」将軍ノ実行シツヽアル社会党並ニ過激派首領連ノ逮捕ニ対シテ極力反対シ「グレーブス」少将ハ屢々聯合軍司令官ノ名ヲ以テ右逮捕禁止ヲ要求セントシ聯合軍代表武官会議ニ於テ日本カ右提案ヲ否決スルヤ「グ」少将ハ単独武力ニ訴フルモ「イワノフ」ノ行為ヲ中止セシメサルヘカラストノ意アルコトヲ仄メカセリ是レ「イワノフ」将軍ノ逮捕予定者中有力ナル親米社会主義者アルヲ以テナリ前市長「アカリヨーフ」ノ如キモ其ノ一人ニシテ彼ハ米軍司令部ト緊密ナル関係アルモノヽ如ク「バウロフ」ナル匿名ノ下ニ当地社会党新聞「ダリョーカヤオクライナ」紙上ニ於テ盛ニ排日親米論ヲ提唱シツヽアリ、其他最近米国陸軍大臣ハ春季解氷期ト共ニ北露米軍ノ撤退ヲ宣言セリ、加之曩日「モーリス」大使ニ随行セル駐日大使館一等書記官ハ軍司令部一幕僚ニ対シテ左ノ如ク語レリ

現今西比利ノ無秩序ハ過激派思想ニ加ヘタル残忍ナル圧迫ノ反動ナリ武力ニ依ル過激派ノ討伐ハ却テ彼等ヲ激セシメ過激主義ヲ伝播セシムル因タルヘシ吾人ハ宜シク先

「ヒッチコック」氏ハ之ニ答ヘテ政府ハ聯合諸国ト協議ヲシ且「ボルシェヴィキ」政府ヨリ反対派ノ殺戮ヲ為サヾルベキ旨ノ保障ヲ得タル上ニ非ザレバ撤兵シ難シト述ベタリ（在仏大使ヘ転電セリ）

五八二　二月二十七日　由比浦潮派遣軍参謀長ヨリ幣原外務次官宛

西比利亜派遣ノ米国軍ガ露国社会党及過激派支持ニ偏向シツツアル状況ニ付報告ノ件

浦軍謀二第七四号

大正八年二月二十七日

浦潮派遣軍参謀長　由比光衛（印）

外務次官　幣原喜重郎殿

左記諜報為参考及送付候也

左記

極東ニ於ケル米国ト露国社会党トノ関係

大正八年二月二十六日

浦潮派遣軍参謀部

近時米国ノ対露国社会党並ニ対過激派政策ハ頗ル露骨トナリ来レリ曩ニ過激派代表者「プ」島招致問題提議以来当地ヲ彼等ヲ懐柔シ徐ニ説破指導スルヲ良シトスト然ルニ過日当浦潮ニ開催セラレタル極東三州自治会聯合大会ニ於テ西比利自治会長「ヤクーシェフ」ハ全ク前記米大使館書記官ト同一意見ヲ開陳セリ事或ハ偶然ナルヤ知ルヘカラスト雖モ尠クモ彼等思潮ノ著シク相近接シアルコトヲ察スルニ足ルヘシ

更ニ最近武市東方及沿海州「オリガ」郡ニ於ケル過激派蜂起ニ関シ「グレーヴス」少将ハ大谷司令官ニ向ヒ目下暴動シツヽアル露民ハ過激派ニ非ス彼等ハ軍隊ノ圧迫暴戻ニ基キ止ムナク蜂起セルモノナルヲ以テ米軍ハ勿論之カ討伐ニ加入スルヲ欲セサルノミナラス「ホルワット」ニ対シ其部下軍隊ノ監督ヲ厳ナラシムヘク要求セントスト提議セリ尚曩ニ黒竜江州ニ於テ過激派ノ暴発スルニ際シ第十二師団長ノ哈府駐屯米兵援助請求ニ対シテモ之ヲ以テ「ガモフ」等ノ圧制ニ基因スルモノナレハトテ之ヲ拒絶シタルカ如キ是レ明カニ米国ノ対露方針カ著シク左偏シアルヲ認ムヘキ確証タリ

之ヲ要スルニ米国カ終始「オムスク」政府ニ好意ヲ有セズ時ニ之ヲ圧迫シテ其政策ノ遂行ヲ妨害シ反ッテ社会党ニ気

脈ヲ通シ或ハ秋波ヲ過激派ニ送リツツアルハ注目ニ価スヘシ

五八三　三月七日　由比浦潮派遣軍参謀長ヨリ参謀次長宛（電報）

グレーヴス米国派遣軍司令官ガ対過激派政策ニ関シ稲垣少将ニ語レルヲ在浦潮参謀長ヨリ報告ノ件

浦参第四七八号

米軍「グレーヴス」カ対過激派政策ニ関シ稲垣少将ニ語リタル所左ノ如シ

米国ハ西伯利出兵ノ当時大谷司令官ニ声明セシ如ク米国ノ政策ト一致スル場合ニ於テ協同作戦ヲ為スモノニシテ米国ノ政策カ内政不干渉ナルコトハ従来モ亦今日ニ於テモ変化ナシ而シテ過激派ハ露国内ノ一政派ニシテ之ヲ討ツノ意思ハ元ヨリ無ク烏蘇里戦場ニ於テハ聯合軍協同ノ敵タル独墺捕虜ト共ニ行動シタル過激派ニ対シテコソ作戦ヲ為シタレド今日独墺ノ捕虜ナク単ニ過激派ノミガ如何ナル行動ヲ取ルモ是レ露国ノ内争タルニ過キズシテ米軍ハ之ヲ討ツノ意無キナリ之ニ反シ「イワノフ」ノ最近浦潮ニテ行ヒタル逮捕ノ如キハ直チニ之ヲ「オムスク」ニ送レルハ不都合ナリトス濫リニ政敵ヲ何等理由ナクシテ捕縛シタルノ感アリ元ヨリ罪アリシモノハ正当ノ手続ニ依テ拘禁セラレ正当ナル裁判ノ下ニ処断セラルヘキモノニシテ「イワノフ」ノ行動カ全然無法ノモノナリト認ム然レトモ之ニ対シテハ干渉スルコトヲ欲セズ唯此意見ハ最近大ニ変化アリ始メ「イワノフ」カ「オムスク」ヨリ帰リテ二、三ノ政敵ヲ捕ヘタルトキハ大ニ干渉的態度ヲ示シ聯合武官会ニ之カ中止ヲ勧告スヘキモノナリトノ意見ヲ発表シタリシカ今日ハ此点ニ於テ大ニ変化シ来レリ恐ラク米国政府ヨリ訓示セラレタルニアラサルカ

現ニ彼等ノ内一、二ノ者ハ米軍ニ其保護方ヲ願出デシモ内政不干渉ノ主義ニ依リ政派ノ何レヲモ援助セサルノ意ニ於テ之ヲ拒絶セリ唯過激派ト雖無辜ノ民ヲ殺生掠奪ヲ行フカ如キ場合ニ於テハ之ヲ鎮定スルコトヲ辞セサルヘシト然ラハ浦潮ニ過激派ノ起リタル場合ハ如何ニスヘキヤノ問ニ対シ米軍ハ何レニモ援助若ハ攻撃スルコトナク全然中立ノ態度ヲ取リ過激派カ若シ自己ニ向ヒ攻撃的ニ出ツル場合アラハ之ヲ撃退スヘシ従テ「ホルワット」「イワノフ」等ヲ襲撃スル場合ニ於テハ全然之ニ関係セサルヘシト是レ最近「イワノフ」等ノ行動ハ反対派ヲシテ立ッテ之ニ向フノ已ムヲ得サルニ至ラシメタルモノニシテ彼等カ武器ヲ取テ「イワノフ」等ニ向フモ米軍ハ其何レヲモ援ケサル理由ニ依リテ傍観スルノ他ナシ然ラハ之ヲ放任セハ秩序ノ維持ニ任スル吾人トシテハ適当ノ手段ヲ取ラサルヘカラス之ヲ傍観スルコト能ハサルヘシトノ問ニ対シ彼ハ其故ニ斯ノ如キ事件ノ発生ヲ未然ニ防カシムヘキ手段アルヘシ其ハ「イワノフ」等ヲシテ無益ナル政敵ノ捕縛等ヲ為サシメサルニ在リト云ヘリ

彼ハ近来「スーチャン」「オリガ」等ノ烏蘇里地方ニ蜂起シタル過激派ニ対シテモ亦同一ノ意見ヲ有シ彼等良民ハ「ホルワット」、「イワノフ」等ノ部下ノ不法ナル行為ニ対シ防禦者ニシテ其罪ハ全然「イワノフ」一派ノ責任ナリト断定セリ之ニ対シテハ英国ノ「ノックス」ハ此種ノ報告ハ或ハ過激派等ノ虚報ニアラサルヘキヲ確ムル為去ル五日当地ヨリ「チチユヘ」ニ過激派討伐ニ向ヘル「イワノフ」隊ニ其実地ヲ確ムル為ニ連合軍ヨリ将校ヲ派遣セント提議シタルモ「グレーヴス」ハ之ニ同意セスシテ事止ミタリ稲垣ハ「グレーヴス」ニ向ヒ将来黒竜地方ニテハ過激派ハ米軍カ其味方ナリト信シ若シ破レタラハ我等ハ「ハバロフスク」ノ米軍ニ至リ其保護ヲ受クルコト「カルムイコフ」隊ノ如クナルヘシト自信シアリトノ風説行ハルト揶揄シタルニ彼ハ頗ル不快ノ顔色ニテ大ニ弁解ヲ試ミテ曰ク予ノ立場ハ頗ル困難ナリ予ハ政府ノ訓令ニ依リテノミ行動シ得ヘシ黒竜州ノ日本軍ニ加担セサリシハ先ニ述ヘタル内政不干渉ノ主義ニ於テ過激派ヲ敵トシ能ハサルノ主義ニ外ナラス

近来頻リニ普伝行ハレテ米軍ニ不利益ナル評判行ハルルハ遺憾ナリ「カルムイコフ」隊ヲ保護シタルハ彼等ヲ部隊ト認メサルコト且「カルムイコフ」従来ノ行動ニ徴スルトキハ殺戮等ヲ為スヘキヲ恐レ其不法殺戮ヨリ免レシメタルノミ日本軍ニ敵シタル過激派ニ至ッテハ是レ全ク別問題ニシテ日本軍ノ敵ヲ保護スルカ如キコト決シテナシ此点大ナル了解ヲ求ムヘキヲ繰返シ繰返シ述ヘタリ稲垣ハ更ニ鉄道守備ノ問題ニ移リ米軍ガ過激派ニ対シテ何等為ス所ナシトスレハ鉄道守備区域内ニ若シ過激派起リタル場合ニハ米軍ハ如何ニスルヤトノ問ニ対シ彼ハ苟モ鉄道ニ妨害ヲ与ヘントスル者ハ誰レ彼レヲ論セス之ヲ討伐スヘシ過激派ニテモ何

ンテモ問フ所ニアラスト云ヘリ

稲垣ハ過激派ハ今日迄ノ行動ハ単ニ露政府ニ向ヒ反抗スルノミナラス聯合軍ニ対シテモ敵意ヲ有シ機ノ乗スヘキモノアラハ之ニ向テ攻撃ニ出ツルコト今回ノ黒竜事件ニテモ明カナリ之ニ対シテハ鉄道守備上大ナル考慮ヲ要スヘシ鉄道線近クニ来リテ鉄道ヲ破壊シタルトキ始メテ之ヲ討伐センハ時既ニ遅ルルコトトナルヘシト結ヒ置ケリ要スルニ鉄道ノ守備及治安維持ノ為ニ米軍ニ一定ノ区域ヲ与フルコトハ好マシカラス鉄道沿線ノ広大ナル地区ヲ委任スルトキハ此地ハ軈テ過激派ノ給養地トナルノ虞アリト信スルカ故ニ鉄道守備ノ区域ヲ定ムルニ当リ此事モ考慮ノ内ニ置ク考ナリ

五八四　三月十二日　閣議案

西比利亜ニ於ケル日本軍隊ノ露国過激派ニ対スル態度ニ関スル日本政府ノ方針ノ件

最近西比利亜ニ於ケル帝国軍隊対過激派衝突事件ハ稍重大ニシテ此際事体ノ影響ヲ考察シテ将来ノ砭針ト為ス必要アルヲ認ム惟フニ西比利亜ニ於ケル露国ノ政情乃至与国ノ関係等ハ頗ル紛糾錯綜セルノミナラス与国殊ニ米国側ノ如キハ出来得ル限リ過激派トノ衝突ヲ避クルノ方針ナルモノノ如クニ付我方独リ過激派討伐ノ衝ニ当ルカ如キハ啻ニ西比利亜ニ於ケル過激派ノ怨恨ヲ買フニ止マラス気脈相通スル全露ノ過激派ヲ怒ラシメ或ハ延テ善良ナル露国民ヲ駆テ拭フヘカラサル誤解ニ陥ラシメ永ク両国民ノ間ニ一大溝渠ヲ築クノ虞アルト同時ニ強烈ナル復讐心ヲ有スル過激派ヲシテ憤懣ノ余西比利亜ト相接壊セル我朝鮮ニ於テ暴民ヲ煽動シ禍乱ヲ激生セシムルニ至ルナキヲ保セス依テ過激派ニ対スル徹底的方針聯合国間ニ確立セサル今日ノ情態ニ於テハ我国家ノ前途ト大局ノ利害トニ顧ミ過激派ニシテ乱ヲ作シ地方ノ治安ヲ紊ス場合ノ外之カ討伐ヲ避クルノミナラス右ノ如キ場合ニ於テモ出来得ル限リハ露国軍ヲシテ之ニ当ラシメ又深ク与国側ノ態度ヲ稽ヘ可成我方単独ニテ之カ討伐ニ従事スルカ如キコトナキ様措置スルト共ニ常ニ各地方ニ於テ実権ヲ有スル健全分子トノ親密関係ヲ増進シ以テ統一政府ノ確立ヲ図リ露国ノ復興ヲ促進セムコトヲ努ムルヲ要ス

註　本文書冒頭ニ左ノ記載アリ
大正八年三月十二日閣議ノ際田中陸相ヘ内示シタルモ閣議ヘ提出ハ追而協議スルコトトナセリ（内田康哉印）

五八五　四月十六日　内田外務大臣ヨリ在瑞典国日置公使宛（電報）

西比利亜政策ヲ続ル日米間ノ対立関係ノ実際ニ付訓電ノ件

第四五号

貴電第二〇三号[註]ニ関シ

一、最近在西比利米国軍憲ハ著シク過激派ニ対スル態度ヲ緩和シタルモノノ如ク為ニ我軍憲トノ間ニ一、二意見ノ相違ヲ来シタルコトアルモ日米兵衝突ノ事実ナシ即チ去ル一月中我軍ニ於テ援助セル「コサック」隊長ノ部下三百名逃亡シテ米軍ニ投シタル際我軍憲ヨリ右逃亡兵ノ武器ヲ所属隊長ニ返還センコトヲ求メタルニ対シ米国側ハ該「コサック」隊ヲ軍隊ト認メズ本件ハ逃亡兵ヲ以テ律スヘカラストテ我要求ニ応ゼザリシコトアリ又月中黒竜地方ニ於テ過激派蜂起ノ際我軍ヨリ米軍ニ対シ派兵ヲ求メタルニ対シ米国側ハ右ハ過激派ニアラズトノ理由ヲ以テ協同動作ヲ拒ミタルコトアリ右ニ関シ在本邦米国大使ハ過般西比利出張ノ際我官憲ニ対シ米軍ハ西比利出兵当時ハ独墺俘虜ノ指揮下ニアル過激派トハ戦フ方針ナリシカ休戦条約調印後同地方ノ過激派ヲ如何ニ取扱フヘキヤハ大問題ナリ尚又「ホルワット」側ノ官憲ハ自治団体ノ運動ヲ過激派ニ聯絡アリトシテ圧迫ヲ加ヘ居ルモ米国ハ西比利ニ於ケル自治団体ノ運動ニ同情ヲ表シ居ル旨語リ尚米国国務卿代理ハ西比利ニ於ケル米国ノ態度ニ関スル石井大使ノ質問ニ対シ米国ハ目下鉄道保護ヲ主眼トスル旨答ヘタリ

二、英米ノ「レーニン」政府接近ニ付テハ諸方面ヨリ情報アルモ未タ確報ニ接セズ英米其他聯合諸国ノ対露政策モ未タ徹底的方針確定セサルモノノ如シ

三、我対露方針ニ付テハ在英大使館ヨリ貴方ヘ転電スヘキ本大臣発在英代理大使宛第五五[註2]号ニヨリ御承知アリタク尚西比利方面過激派ニ対シテハ地方ノ治安ヲ紊ス場合ノ外之カ討伐ヲ避クル方針ナリ

註1　四月六日日置公使発内田外務大臣宛第二〇三号ハ西比利亜ニ於ケル日米兵衝突ノ新聞報道、英米ノ対露政策ノ真相及日本ノ対過激派方針ニ付問合セノ電報ナリ

2　前掲四三四文書

五八六　四月二十六日　在本邦米国大使ヨリ内田外務大臣宛

西比利亜ニ於ケル日米軍隊ノ協力問題ニ関シ

田中陸相ヨリ在本邦米国大使ヘノ申出ニ付同大使カ本国政府ト往復セル電報写提示ノ件

附　記一　右文書訳文

二　四月二十五日田中陸相ヨリ内田外相ヘノ伝言

EMBASSY OF THE
UNITED STATES OF AMERICA
Tokyo, April 26, 1919.

STRICTLY CONFIDENTIAL

Copies of confidential telegrams exchanged between the American Embassy, Tokyo, and Department of State, Washington, in reference to the policy to be adopted by the military forces in Siberia.

(1)—American Embassy to Department of State, March 31, 1919.

This afternoon General Tanaka, the Minister of War called on me. He alluded to the conflict of policy between our respective forces in Siberia and the embarrassing position in which he was placed because he was

held responsible for the activities of the Japanese troops and yet lacked any agreed policy to guide him. He admitted that the Cossack military commanders were oppressing the population, which oppression had led to unrest and disorder. He said that the Japanese troops were being changed and new divisions substituted for the old ones, and that the present was the time to define our future joint policy. He expressed his own conviction that military activities hereafter should be confined generally to the guarding of the railway. This, however, was a diplomatic question, and his only reason for seeking this confidential talk with me was to urge upon me the importance of a frank exchange of views with Viscount Uchida and of a speedy understanding between our two governments.

(2)—Department of State to American Embassy, April 16, 1919, communicating instructions of Secretary Lansing (now in Paris).

Now that General Tanaka expresses his purely personal and confidential opinion that military activities should hereafter be devoted to the guarding of the railway, the President desires you to urge upon the Japanese Foreign Office the desirability of adopting General Tanaka's advice. This frank expression of opinion by General Tanaka seems to make the proposal entirely feasible, and it is suggested that a policy be formulated confining the use of military forces to the preservation of order in the immediate vicinity of the railway, its stations and trains, when those in charge so request, and to use inter-allied forces to suppress violence by conflicting Russian forces only when such conflicts affect the despatch of trains or the operation of the railway,—and even then, only to the extent necessary to protect the railway and those engaged in its operation.

(欄外註記)

八年四月二十六日米大使来リ曰ク去月三十一日田中陸相ハ貴大臣ノ内諾ヲ得テ来訪シタル旨ヲ述ベ本件ニ談及セラルルトコロアリタルニ依リ自分ノ心得迄ニ之ニ対スル本国政府ノ意向ヲ第一電ノ通リ問合セタルトコロ第二電ノ通リ在仏国務卿ヨリ回訓アリタリ就テハ本大臣ノ意見ヲ承知シタシトノコトニ付大体ニ於テ異存ナキカ或ハ河川ニモ同様ノ規定ヲ要スルコトモアルベク今一層具体的ニ陸軍当局トモ相談ノ上何分ノ回答ヲ為スベキ旨答ヘ置ケリ(内田伯爵記)

(**附　記一**)

大正八年四月二十六日米国大使ヨリ内田外務大臣ニ手交ノ右文書仮訳文

四月二十九日閣議ニ報告

田中陸相第一電記載ノ始末確認

(内田康哉印及花押)

西比利亜ニ於ケル軍隊ノ採ルベキ方針ニ関シ在京米国大使館ト在華府国務省トノ間ニ交換セラレタル機密電報写

一、米国大使館発国務省宛一九一九年三月三十一日電報

本日午後田中陸軍大臣本使ヲ来訪シ西比利亜ニ於ケル日米両国軍隊間ニ方針ノ抵格アリ同大臣ハ日本軍隊ノ行動ニ対スル責任者タルニ鑑ミ何等依ルベキ一致ノ方針ヲ発見スルニ至ラサル為頗ル当惑シ居ル旨並哥薩克隊長等ハ民衆ヲ抑圧シツツアルモ其抑圧ノ為却テ不安ト不秩序トヲ招致セルコトヲ認ムル旨及日本軍隊ハ目下交代中ニシテ新師団ヲ以テ旧師団ニ代ユルノ時ニ当リ方ニ両国将来ニ亘ル共同ノ方針ヲ決定スルハ最モ時機ヲ得タル旨説明セリ陸相ハ尚向後

軍隊ノ行動ハ原則トシテ鉄道守備ニ限ルヘキモノナリト信スル趣申添ヘタリ

乍去右ハ外交問題ニシテ陸相カ本使トノ内談ヲ求メタル理由ハ唯本件ニ関シ内田外相ト隔意ナキ意見ノ交換ヲナシ速ニ両国政府間ニ了解ヲ得ルコトノ緊要ナルヲ勧説セムトスルニ在リ

二、国務省発米国大使館宛一九一九年四月十六日電報（在仏国務卿「ランシング」訓令通告）

田中陸軍大臣カ其ノ全然個人的且内密ノ意見トシテ今後軍事行動ヲ専ラ鉄道守備ニ限定スヘシトノ意見ヲ述ヘラレタルニ就テハ大統領ハ貴官ニ対シ日本外務省カ田中大臣ノ意見ヲ採納スル様勧説セムコトヲ希望ス斯ノ如ク田中大臣ニ於テ腹蔵ナク意見ヲ発表セラレタル為此ノ提議ハ全然実行可能トナリタルモノノ如シ而シテ管理者ノ請求ニ基キ鉄道線路ノ隣接地区、停軍場及列車内秩序維持ノ為ニ兵力ヲ使用スルニ制限シ且露国諸党派ノ惹起スヘキ擾乱ノ為列車ノ発着若クハ鉄道ノ運転カ妨害セラルル時ニ限リ此等団体ノ暴行ヲ鎮圧スル為鉄道及其ノ運転ニ従事セル者ヲ保護スルニ必要ナル範囲内ニ於テ聯合兵力ヲ使用スルノ方針ヲ定メムコトヲ提議ス

（附記二）

四月二十五日田中陸相ヨリ内田外相ヘノ伝言

西比利亜ニ於ケル米国ノ露国過激派ニ対スル態度及方針ニ関シ田中陸相在本邦米国大使モリス氏ト会見ノ顛末通報ノ件

（大正八年四月二十五日夜陸相官邸ニ於テ広田秘書官聴取）

西比利亜過激派ニ関シ過日自分ト「モリス」大使ト面会ノ次第ハ先般外相ヘ内話致シ置キタルカ其後重ネテ米大使ト面会シ自分ハ素ヨリ外交事項ニ容喙スル次第ニハ非ザルモ西比利亜過激派ニ対スル日本其ノ他与国ノ方針ト米国ノ方針トノ間ニ相違アリ具体的ニ謂ヘハ米国ノ為ス所ハ恰モ過激派ニ同情ヲ有スルモノノ如ク又現ニ露国人側ニ於テモ米国ハ過激派ニ同情ヲ寄スルモノト了解シ居ルモノノ如ク此ノ如キハ共同軍事行動ノ上ニ於テ明カニ齟齬ヲ来タシ現ニ先般日本軍ノ過激派討伐ニ際シ米軍ノ共同動作ヲ求メタルニ米軍ニ於テ之ニ応セサリシカ如キ実例アリ此ノ如キハ共同出兵上甚タ憂慮ニ堪ヘサル次第ナル処抑モ本件ニ対スル米国政府ノ意向如何ト極メテ率直ニ質問ヲ発シ且本件ニ関シ日米間ニ了解ヲ得ルノ目的ヲ以テ「モリス」大使ト内田外相トノ間ニ意見ヲ交換セラレテハ如何ト述ヘタル処米国大使ハ孰レ大統領ニモ電報ノ上何分ノ儀挨拶スヘシト答ヘタリ

次テ本日（四月二十五日）需ニ応シ米国大使ニ面会シタル処大統領ヨリ返電ニ接シタリトテ其ノ内容トシテ語ル所ニ拠レハ大統領ハ本問題ニ付米国大使ト内田外相ト意見ヲ交換スルコトニ同意シ且米国政府ノ意見ニテハ在西比利亜軍ノ任務ハ鉄道及鉄道ノ運行ヲ保護スルニ在リト申来レル由ニテ右大統領ノ回電ニ対シ米国大使ヨリ田中陸相ノ意見如何ト尋ネタルニ付陸相ハ自分ノ意見ハ孰レ外相トモ協議ノ上申述フヘキモ自分限リノ個人トシテノ意見ヲ述フレハ米国政府ノ言フカ如クンハ鉄道ニ危害ノ加ハリタル時ニ及ンテ初メテ軍隊ノ力ヲ借ルト云フカ如キ結果トナルノ虞アリ勿論露国内地各地ニ亘リ兎狩リノ如ク過激派ヲ捜索討伐スルハ日本軍ノ為スヘキ所ニ非ス右ハ露国軍自身之ニ当ルヘキモノナルカ米国大統領来電所載ノ如ク単ニ鉄道ニノミ限ラルルニ於テハ不十分ナルヘシト述ヘタル処然ラハ如何致セハ可ナリヤト反問セルニ付例ヘハ砲弾ノ著弾距離ヲ標準トシ鉄道線路ノ両側各十吉米突即線路ヲ中心トシ二十吉米突ノ間ニハ過激派ノ立入ルコトヲ許ササル方針トシテハ如何而シテ右ハ鉄道以外ト雖モ日本人ノ集団セル地点ニ対シテモ同様ナルヘシト答ヘタル処米国大使ハ大体同感ノ意ヲ表シ孰レ内田外相ト協議スヘシト答ヘタリ

次テ米大使ヨリ日米共同出兵ノ成行ニ顧ミ本問題モ先ツ日米間ニ協議ヲ纏メ然ル後関係与国ト商議シ同一歩調ニ出テシムルコトト致シタシト述ヘタル処陸相ハ同感ナリト答ヘタリ

（陸相曰ク右談話ノ際河川ニ関シテモ同様ノ原則ヲ適用スヘキ旨ヲ申添フルヲ失念シタルニ付外相米大使ト会見ノ際右ノ談ニ及ヒタル節ハ外相ヨリ河川ニ対シテモ鉄道ト同様ナル旨申添ヘラレタシ）

尚米国大使ヨリ先般本件ニ付同大使ト田中陸相ト談話ノ次第ハ内田外相承知ナルヤト尋ネタルニ付陸相ヨリ外相ニ内話シ置キタル旨答ヘ置キタリ

右ニテ過激派問題ニ対スル談話ヲ終リタル後田中陸相ヨリ近来兎角日米間ニ意思ノ阻隔ヲ生セルハ洵ニ遺憾ニ堪ヘス何トカシテ斯ル事態ヲ一掃シタシ米国政府ニ於テモ先般「ステートメント」ヲ以テ日米間ニ何等誤解ナキ旨ヲ発表セラレタルカ自分モ陸軍ノ関スル限リ同様趣旨ノ発表ヲナ

シタキ考ナリト語リタル処「モリス」大使ハ頗ル同感ナリ是非左様致サレタシト述ヘタルニ付何レ近日取計フヘク其節ハ写ヲ米国大使ニ送付スヘシト答ヘ米大使ハ右写ハ早速聯合通信社ヲシテ米国ニ電報セシムヘシト述ヘタリ

最後ニ雑談トシテ陸相ヨリ近来日米間ニ兎角誤解ヲ生スルカ其ノ多クハ貴我軍隊ニ関スルモノナリ是レ畢竟スルニ貴我軍人間ノ交際未タ親密ナラサルモノアルニ拠ルカ例ヘハ我軍人ニアリテモ英仏等ノ軍人トハ往復頻繁ナルモ貴国軍人ニ対シテハ未タ然ラス仍テ今後ハ成ルヘク接触ノ機会ヲ求ムルコトニ努メタク先ツ其ノ手初メトシテ近日「多分五月八日」後楽園ニ米国大使以下文武館員ヲ招待シ午餐ヲ差進シタシ御都合如何ト尋ネタル処大使ハ至極満足ノ意ヲ表シタリ

（陸相ハ当日ハ外相ニモ御来会ヲ煩ハシタシト附言セラレタリ）

尚新任英国大使館附武官「ウードロフ」少将先般陸相ニ面会ノ節陸相ヨリ過激派ニ対スル米国ノ態度不可解ナル旨ヲ語リタル処少将モ同感ニシテ同少将モ此点ニ関スル米国大使館側ノ意見ヲ尋ネタキ旨ヲ語リ居タリ多分何等内話セルナルヘシ

（欄外註記）

田中陸相ハ本大臣ノ紹介ニ依リ先般米大使浦汐行前ニ一度、同大使帰任後二回会見セルモノナリ

五八七　四月二十九日　閣議決定

西比利亜ニ於ケル鉄道及水路ノ守備ニ関スル件

西伯利亜ニ於ケル鉄道及水路ノ守備ニ就テ

西伯利亜ニ於ケル聯合軍行動ノ協調ヲ保持スル為鉄道及水路ノ守備ニ関シ左ノ如ク関係列国間ニ於テ協定スルヲ要ス

一、鉄道ノ守備地域ハ線路ノ両側（沿線上市街ニ在リテハ其外側）ニ於テ各露国火砲ノ最大射程ニ若干ノ距離ヲ加ヘタル一帯ノ地域トス（例ヘハ日本軍ノ野砲ニ付テ謂ヘハ其ノ最大射程ヲ八吉米トシ更ニ二吉米ヲ加ヘ計十吉米ヲ以テ地域ノ限界ト為スカ如シ）

二、鉄道守備地域内ノ治安維持ハ列国軍隊之ニ任シ武装セル過激派団体ノ存在ヲ許ササルノミナラス若シ此種団体ニシテ進入スルモノアルニ当リテハ之ヲ撃退シ該地域外ノ治安維持ハ露国軍之ヲ担任ス但シ守備地域外ニ

在ル自国人ノ居住ハ必要ニ応シ当該国軍隊之ヲ保護ス

三、守備地域ノ劃定ハ在西伯利亜列国軍憲ニ於テ之ヲ協定ス

四、前諸項ハ之ヲ一般ノ交通ニ利用セラルル水路ニ適用ス

五、露国ニ於ケル穏健派政治団体現在ニ於テハ「オムスク」政府ニ対シ精神的及物質的ノ援助ヲ与ヘテ西伯利亜ノ秩序恢復ニ任セシム

六、第一項ノ地域外ノ治安維持ニ任スル露国軍隊ノ威力足ラズシテ列国軍ノ応援ヲ乞フ場合ニハ列国軍憲協議シテ支援ヲ与フルコトアルヘシ

註　本件ハ陸軍省請議ノ形式ヲ採リタリ尚欄外ニ「四月三十日外交調査会議決」ト記載アリ又二ノ項末尾ノ「必要ニ応シ」ハ外交調査会ニテ挿入ノ旨ノ記載アリ

五八八　五月一日　在ハルビン佐藤総領事ヨリ内田外務大臣宛（電報）

イルクーツク方面ヘノ米軍配置ヲオムスク政府ハ好マザル旨ノ外相代理談話ヲ在オムスク松島総領事ヨリ報告ノ件

第四二六号

松島ヨリ閣下ヘ第五八号電報左ノ通リ

露国政府ハ米国軍隊赤十字社派遣員等ガ民衆ノ間ニ過激主義ニ近キ思想ヲ鼓吹スルコトヲ恐レ居ルコトハ御承知ノ通リナル処四月二十三日外務大臣代理ハ本官ニ対シ大谷司令官ガ鉄道守備ノタメ「ウェルフネウージンスク」「イルクツク」間ニ米国軍隊ヲ配置セラレタルハ「オムスク」政府ノ好マザル所ナリト云ヘルニ付極東ニ米軍ノアル以上之ヲ鉄道守備ヨリ排斥スルコト能ハザルベシト答ヘタルニ同代理ハ浦潮方面ハ兎モ角中央政府ニ近キ「イルクツク」方面ニ於テ米国軍隊ガ過激派煽動ニ類スル行動ニ出ヅルコトハ政府ノ忌ム所ニシテ事宜ニ依リテハ露国領土内ヨリ米軍全部ノ撤退ヲ要求スルコトトナルヤモ知レズト云ヘルニ付米国政府ハ右要求ニ応ゼザル様ノコトナキヤト質問セルニ最後ノ手段トシテ事実ノ真相ヲ新聞ニ発表スルニ於テハ米軍ハ遂ニ撤退ヲ余儀ナクセラル可シ尤モ此際公然米国ト争議ヲ醸スハ不利益ニ付之ヲ避ケタキモノナリト答ヘ其口吻ニ依レバ「イルクツク」方面ノ米兵ハ之ヲ東方ヘ移スコトヲ希望シ居ルガ如シ

矢野ヘ転電済ミ

五八九　五月二日　日本外務省ヨリ在米国大使館宛

西比利亜ニ於ケル鉄道及水路ノ守備ニ関シ聯合国間ノ協定提議ノ件

Memorandum.

In order to ensure harmony in the operations of the Associated troops in Siberia, it is suggested that an understanding be reached among the Powers interested, on the line of action to be adopted for the protection of railways and of rivers and water-ways in that region :—

1. The zone for the protection of railways shall cover an area lying within the maximum range of Russian guns, plus a further distance to be defined, on each side of railway tracks. In the case of urban districts transversed by railways, such firing range shall be counted from the outer limits of the towns. (Taking, for example, 8 kilometres as the maximum firing range of Japanese field gun, and 2 Klm. as the further distance required, the zone is to extend

to 10 Klm. on each side of railway tracks).

2. The maintenance of order within the limits of the said zone shall be undertaken by the Associated troops. No armed Bolshevik bands shall be allowed to exist in that zone, and in the event of an invasion by such bands, the Associated troops shall forthwith expel them from the zone.

Outside the limits of the zone, Russian troops shall be solely responsible for the maintenance of order, it being however understood that the Associated troops may, in case of necessity, assume the protection of their respective nationals residing outside the zone.

3. The limits of the zone shall be defined in common accord by the military authorities of the Associated Powers in Siberia.

4. The foregoing clauses respecting the protection of railways shall be applied to all rivers and waterways available for general traffic.

5. Political bodies formed in Russia to conduct an orderly administration, and, in particular, the Government at Omsk, which is at present the representative organization of this kind, shall be given moral and material support by the Associated Powers in their efforts for the re-establishment of peace and security in Siberia.

6. In case Russian troops find their strength inadequate to maintain order in regions outside the specified zone and seek the Allied assistance, the military authorities of the Associated Powers may, upon consultation, extend to them necessary assistance.

Ministry of Foreign Affairs,
Tokyo, May 2, 1919.

註　右覚書ハ五月二日内田外相ヨリ米国大使ニ手交セラレタリ

五九〇　五月十七日　日本外務省ヨリ在米国大使館宛

日米両国ハ西比利亜鉄道ノ復旧ニ全力ヲ傾注スベク軍隊ハ只聯合国委員会ヲ援助スル為ニノミ使用セラルベシトノ米国政府ノ見解表明ノ件

EMBASSY OF THE
UNITED STATES OF AMERICA
MEMORANDUM

The American Government begs to call to the attention of the Imperial Japanese Government that, in its opinion, the situation in Siberia has changed with the adopttion of the Railway Plan, from that which was inaugurated by the two countries with the idea of sending assistance to the Czecho-Slovak troops, and that all efforts should now be directed towards the complete rehabilitation and restoration of the railways, which is a peaceable and economic undertaking, calling only for military activity in cases of actual necessity of policing and protection. It is the opinion of the American Government that the military forces are subordinate in importance not only to the working of the railroads

but should be employed exclusively in assisting the Inter-Allied Committee. This interpretation emphasizes the purely economic and practical character of the assistance being rendered and it is for this reason among others that the idea of a military zone was abandoned by the American Government and it is hoped that the Minister for Foreign Affairs and the Minister of War of the Imperial Japanese Government will both agree upon the advisability of now laying stress on the non political and non-military character of its efforts.

It is the opinion of both the American and British Governments that the Inter-Allied Committee should have preeminence in all matters affecting policies, so that the technical and military boards may act on lines consistent with the action of the Committee and the American Government would be glad if the Japanese representative of the Inter-Allied Committee would join the Americna representative in making a statement to this effect to the Committee.

It is hoped in this way that any military activities at variance with the expressed purposes of our governments may be hereafter avoided.

Tokyo, May 17th 1919.

（欄外註記）

米国大使本件ニ関スル本国政府ノ電訓持参、大正八年五月十五日来談ノ折右電訓ノ「パラフレーズ」ヲ請求シ置キタル処同月十七日他用ニテ来談ノ節本文手交（内田康哉印）

（右和訳文）（註　仮訳文ナリ）

対西比利政策ニ関スル米国覚書

米国政府ノ見ル所ニ依レハ西比利亜ニ於ケル状態ハ日米両国カ「チェック、スロウバック」軍隊ノ救援ノ目的ヲ以テ創設シタル所ニ比シ鉄道案ノ採用ト共ニ変化シ来リ今ヤ鉄道ノ完全ナル復旧、回復ニ全力ヲ尽スヘキ時期トナリ而シテ其ノ鉄道ナルモノハ元来平和的、経済的事業ニシテ唯其ノ警備及保護ノ為事実必要アル場合ニノミ軍事的活動ヲ要スルモノナルコトニ付日本政府ノ注意ヲ喚起セント欲ス米国政府ハ軍隊ナルモノハ其必要ノ度ニ於テ啻ニ鉄道作業ニ従属スルモノナルノミナラス専ラ聯合国委員会ヲ援助スル為ニノミ使用スヘキモノナリトノ見見解ヲ有スルモノナリ

此ノ見解ハ純然タル経済的、実際的性質ノ援助ヲ与フヘキモノナルコトヲ高調セルモノニシテ米国政府カ軍事地帯ノ考案ヲ抛棄セルモ主トシテ此ノ理由ニ基クモノナレハ日本外相及陸相ニ於テモ非政府的、非軍事的方面ノ努力ニ重キヲ措クノ得策ナルコトニ一致セラレムコトヲ希望スル次第ナリ

聯合国委員会ハ政策ニ関スル一切ノ事項ヲ主宰シ従テ技術部及軍事部ハ右委員会ノ行動ト牴触セサル方面ニ行動スヘシトナスコト英米両国政府ノ所見ニシテ若シ右委員会ニ於ケル日本代表者ニシテ該委員会ニ対シ米国代表者ト共ニ右趣旨ノ陳述ヲ為スヲ得ハ米国政府ノ欣幸トスル所ナリ

如此ニシテ今後ハ両国政府ノ表明セル趣旨ト背戻スル軍事行動ヲ避止セムコト希望ニ堪ヘサル所ナリ

五九一　五月十九日　在米国石井大使ヨリ内田外務大臣宛（電報）

オムスク政府ヨリ米国派遣軍司令官ニ対シ米国軍隊ヲ現在以上ニ西比利亜内地ニ送ラザル様申入レタル旨ノ新聞報道報告ノ件

第三六九号　（五月二十一日接受）

五月十九日ノ諸新聞ニ左ノ如キ五月七日「オムスク」発聯合通信掲載セラル

当地外務大臣代理ハ「グレーヴス」少将ニ対シ現在以上ニ米国軍隊ヲ西比利亜内地ニ送ラサル様極メテ友好的ニ申入レタリ、大臣代理ハ右申入レハ「ボルセビズム」ニ対スル米国政府ノ不確定ナル態度カ米国トノ親密ナル関係ヲ害スルニ至ルヘキヲ懸念シ右親密関係ヲ持続スルノ希望ニ出テタル次第ナルコトヲ述ヘ且米国政府ノ態度ハ或ル政治団体ニ依リ露国人民間ニ不和ヲ醸成シ従テ政府ノ地位ヲ薄弱ナラシムルコトニ利用セラレ居リ而モ其影響ハ従来極東方面ニ限局セラレ居リタルモ追々当地方ニ伝播センコトヲ慮リ今回ノ措置ニ出テタル旨ヲ説明セリ尚大臣代理ハ露国人民ハ英米両国カ「ボルセビズム」ノ影響ヲ受ケ居ルコトヲ伝ヘ帝国主義ノ国民ト結フノ得策ナルコトヲ努メツツアルモ全露政府ハ英仏ノ同情及援助ニ信頼シ決シテ之ニ動カサレサルヘキコトヲ確言セリ

英仏伊ニ転電ス

五九二　六月二日　在本邦米国大使館ヨリ日本外務省宛

西比利亜ニ於ケル鉄道及水路ノ守備ニ関シ聯合国間ノ協定ヲ我方ヨリ提議セルニ対シ米国政府ヨリ回答ノ件

EMBASSY OF THE
UNITED STATES OF AMERICA
MEMORANDUM.

The Government of the United States agrees with the suggestion contained in the memorandum of the Ministry for Foreign Affairs dated May second (註) that in order to ensure harmony in the operations of the associated troops in Siberia an understanding should be reached and a policy formulated by the powers interested for the protection of the railways in Manchuria and Siberia now operated under Allied supervision. The Government of the United States seriously doubts however the wisdom or expediency of attempting to establish any definite zone of military action or of including at present any rivers or water ways. It would appear

to the Government of the United States wiser simply to define such a policy in the following terms:

"The Governments interested in the protection of the Chinese Eastern and trans-Siberian Railways and having military forces in Siberia agree that the use of these military forces shall be limtited to the preservation of order in the immediae vicinity of the railway, its stations and trains, when those in charge so request and in the suppression of local violence by conflicting Russian forces only when such conflicts affect the despatch of troops or operation of the railway and even then only to the extent necessary to protect the railway and those engaged in its operation".

The Government of the United States believes that such a statement of general policy will be sufficient to guide the military commander swho will be authorized to take the necessary steps to put the policy into effect.

Tokyo, June 2, 1919.

註　右覚書ハ六月二日米国大使持参セリ

(右和訳文)　(註　仮訳文ナリ)

覚　書

米国政府ハ西比利ニ於ケル聯合軍行動ノ協調ヲ保持スル目的ヲ以テ目下聯合監督ノ下ニ運転セラルル満洲及西比利ニ於ケル鉄道守備ノ為関係国間ニ了解ヲ遂ケ右ニ関スル政策ヲ決定スヘシトスル五月二日附帝国外務省覚書記載ノ提議ニ同意ス然リト雖モ米国政府ハ一定ノ軍事行動地域ヲ設定シ又ハ此際之ニ河川其他ノ水路ヲ包含セシメントスルコトノ果シテ賢明且得策ナルヤ否ニ付衷心疑義ヲ有スルモノニシテ同政府ノ見ル所ニ依レハ単ニ前記政策ヲ左ノ如ク定ムルヲ可トスヘキカ如シ曰ク

東支及西比利鉄道守備ニ利害関係ヲ有シ且西比利ニ軍隊ヲ派遣セル諸国政府ハ該軍隊ノ使用ヲ以テ鉄道当事者ノ要求アリ且鉄道及停車場並列車ノ附近ニ於ケル秩序ヲ維持スル為メ必要ナルカ又ハ相反目セル露国諸部隊ノ行フ地方的乱行ガ軍隊ノ派遣若クハ鉄道ノ運行ニ影響スル場合ニ限局スヘク此ノ場合ニ於テモ其ノ行動ハ鉄道並其運行従事員ヲ保護スルニ必要ナル範囲内ニ之ヲ限ルヘキコトニ同意ス

米国政府ハ如上一般政策ノ宣明ハ同政策ヲ実行スル為必要ナル措置ヲ執ル権限ヲ有スル軍隊司令官ヲ指導スルニ充分ナルヘキヲ信スルモノナリ

五九三　六月五日　田中陸軍大臣ヨリ内田外務大臣宛

満洲及西比利亜鉄道守備ニ関スル六月二日附米国大使覚書ニ対スル陸軍省ノ見解表示ノ件

大正八年六月五日陸軍省

六月二日附西伯利鉄道守備ニ関スル米国大使覚書ニ対スル意見

一、六月二日米国大使ノ提出セル満洲及西伯利ニ於ケル鉄道守備ニ関スル覚書ニ就テハ帝国政府ハ主義ニ於テ同意ヲ表ス而シテ此主義ヲ実行センニハ屢々鉄道線路ニ対シ危害ヲ加ヘントスル過激派団体ノ企図ニ対シ鉄道ノ守備勤務ヲ正確容易ナラシムル如ク之ヲ予防セサルヘカラス之カ為取ルヘキ手段ハ出先軍憲ノ協定ニ委スルヲ適当ナリト信ス但シ軍隊遠ク鉄道線路ヲ離レ過激派団体ニ対シ攻勢ヲ取ルコトハ事態ヲ紛糾スルノ因ヲ為スヲ以テ其ノ行動地域ヲ最小限度ニ制限スルノ必要アルコトヲ指令セ

サルクカラス

二、軍隊ノ行動地域内ニ於ケル一般ノ秩序ヲ維持スルハ独リ鉄道及其ノ従業員ヲ保護スル為ノミナラス軍隊ノ生存ヲ安固ニシ且自国臣民及露国民ノ安寧ヲ保持スル為必要アルモノトス

又鉄道ノ運行ニ直接必要ナル需品ノ資源（例ヘハ石炭鉱ノ如キ）ノ保護ハ鉄道ノ守備ト共ニ緊要ナリト認ム

三、鉄道保護ノ為ニスル軍隊ノ使用ハ鉄道当事者ノ要求アル場合ニ限ルハ実際ニ適セス

四、水路ノ保護ニ就テハ黒竜及烏蘇里両鉄道輸送力ノ不足ヲ慮リ軍需品ヲ黒竜江ニ依リテ輸送スル日本軍隊ニ在リテハ鉄道ト同様保護ヲ加フルノ必要アリト認ム

（欄外註記）

六月五日陸相来談本文ノ趣旨ニテ可然米国側ニ回答ヲ煩ハシタシトノコト（内田康哉印）

五九四　六月七日　在日本邦米国大使館宛外務省ヨリ

西比利亜ニ於ケル鉄道及水路守備地域設定計画ノ放棄等ニ関スル五月十七日附米国大使館覚書ニ対シ回答ノ件

They are however unable to appreciate clearly the meaning of the suggestion made by the American Government that the Inter-Allied Committee at present sitting at Vladivostok should have pre-eminence in all matters affecting policies. By the railway arrangement recently concluded, the Inter-Allied Committee is charged only with the general supervision of the railways in the zone in which the allied troops are now operating. It has evidently no authority to deal with any questions of general policy involving issues of a wider significance than those which properly relate to the supervision of the railways. Such political questions falling outside the defined functions of the Inter-Allied Committee might, in the opinion of the Japanese Government, be made the subject of discussion and adjustment among the representatives of the Associated Powers in Siberia, apart from the session of that Committee. Nor is the Committee in a position, consistently with the terms of the existing arrangement, to control measures for the protection of the railways, which is expressly placed under the allied military forces. In this situation, if it should now be the intention of the American Government to extend in any way the competence of the Inter-Allied Committee beyond what is prescribed in the arrangement, such a modification does not appear to the Japanese Government to be either necessary or appropriate.

Ministry of Foreign Affairs,

Tokio, June 7th, 1919.

註　右ハ六月七日米国大使ニ手交セラル

（**附記**）

五月十七日附米国大使館覚書ニ対スル我回答ノ覚書案文

対西比利政策ニ関スル対米回答覚書案

帝国政府ハ西比利ニ於ケル鉄道及水路守備地域設定計画ノ放棄ニ関シ五月十七日附米国大使館ノ覚書ニ記載セル同国政府ノ決定ヲ領承セリ

帝国政府ハ強イテ該計画ノ採択ヲ勧説セントスルモノニアラス帝国政府カ特ニ重キヲ置ク唯一ノ点ハ聯合軍行動ノ完全ナル協調ヲ保持シ相互援助ノ精神ヲ発揮セントスルニ

附記　右回答ノ覚書案文

Memorandum.

The Japanese Government have taken note of the decision of the United States Government contained in the Memorandum of the American Embassy of May 17, respecting the abandonment of the proposed plan of establishing a zone for the protection of railways and of rivers and waterways in Siberia.

They have no intention of urging the adoption of that plan. The only point on which they place particular importance is that the complete harmony shall be maintained, and the spirit of mutual helpfulness displayed, in the action of the allied military forces. Sharing as they do, with the American Government the belief that the allied forces are available and should be employed only in cases of actual necessity of policing and protection, and not for any offensive undertakings, they feel that they can confidently look forward to the realizatoin of the desired unity of action and of purpose.

アリ帝国政府ニ於テハ聯合軍ハ警察及守備ニ関シ事実上ノ必要発生シタル場合ニ於テノミ之ヲ使用シ得ベク且使用スベキモノニシテ何等政勢的企画ノ為メ用フベキモノニアラスト為スニ於テ米国政府ト所信ヲ同シクスルモノナリ従テ必スヤ所期ノ如ク其趣旨竝ニ行動ニ於テ一致協勠ノ実現ヲ見ルニ至ルヘキハ今ヨリ確ク期待シ得ル所ナリ

然リト雖モ帝国政府ハ政策ニ影響アル一切ノ事項ニ関シ現在浦塩ニ存在スル聯合国委員会ニ優越ノ地位ヲ与フヘシトスル米国政府提議ノ意味ヲ明瞭ニ了解スルコト能ハス過般締結サレタル鉄道取極ニ依レハ聯合国委員会ハ聯合軍カ目下策動セル地域内ニ於ケル鉄道ノ一般監督ニ任スルモノニシテ同委員会カ鉄道監督ニ関スル問題以外ニ亘リ更ニ広大ナル意義ヲ有スル問題ヲ包含スル一般政策問題ヲ当然処理スヘキ何等ノ権限ヲモ有セサルヤ明カナリ帝国政府ノ見ル所ニ依レハ聯合国委員会ノ既定任務外ニ出ツル此ノ種政治問題ハ同委員会ノ会議トハ別個ニ西比利ニ於ケル聯合国代表者間ノ討究整理ノ問題ト為スヲ可トスヘシ尚該委員会ハ現在取極ノ条件ニ背反スルニアラサレハ明カニ聯合兵力ノ下ニ置カレタル鉄道守備ノ措置ヲ左右スルコト能ハサルナリ

前記ノ事態ニ鑑ミ若シ米国政府ノ意思ニシテ聯合国委員会ノ権限ヲ現取極ノ規定以外ニ拡張セントスルニアリトセハ帝国政府ハ之レヲ以テ必要若ハ妥当ナル変更ナリト認ムルヲ得サルモノナリ

註　右我回答覚書案文ハ六月六日閣議ニ提出セラレ承認ヲ得タリ

五九五　六月七日　在日本邦外務省ヨリ米国大使館宛

西比利亜鉄道守備ニ関スル六月二日附米国大使館覚書ニ対スル回答ノ件

附記　右回答ノ覚書案文

Confidential.

MEMORANDUM.

The Japanese Government have carefully considered the suggestion embodied in the Memorandum of the American Embassy of June 2, on the subject of policy to be followed in the operations of the allied military forces in Siberia. They fully accept the underlying principle apparently implied in that suggestion that the allied forces are available only in cases of actual necessity for the preservation of order in the region immediately bordering the main routes of communication in Siberia. Referring, however, to the application of this principle, the Japanese Government desire to offer the following observations:

1. In their opinion, the object of military action should be no more or less than the preservation of order in such region, which is essential not only for the protection of the railway and those engaged in its operation, but also for the safety of the military forces themselves, as well as of their own nationals and the Russian population in the localities. All measures necessary for the attainment of this object should be left in the hands of the military authorities.

2. The region to be covered by the allied military activities should be as far limited as possible, but it should include mines and other establishments which have direct bearing upon the supply of material needed for the working of the railway. It is equally important to place under military protection the rivers and waterways by which the transportation of stores for the use of the allied troops is actually carried on.

3. The military forces should be authorized to act on their own initiative within the scope of the object above defined. It appears neither wise nor practicable to call upon them to withhold their action until a request for it is made by those in charge of the railway.

4. The military commanders shall be empowered to work out in common accord the details of the plan of military action to be taken in the discharge of their duties.

Ministry of Foreign Affairs,

Tokio, June 7th, 1919.

註　右ハ六月七日米国大使ニ手交セラル

(附記)

六月二日附米国大使館覚書ニ対スル我回答ノ覚書案文

六月七日附外務省回答覚書

帝国政府ハ西比利ニ於ケル聯合軍事行動ニ関シ採ルヘキ政策ニ関スル六月二日附米国大使館覚書中ノ提案ニ対シ慎重考慮ヲ加ヘタリ帝国政府ハ聯合軍隊ハ西比利ニ於ケル交通幹線ノ隣接地域ニ於ケル秩序維持ノ為実際必要アル場合ニ限リ之ヲ使用スヘキモノナリトスル該提案ノ根本主義ニ全然同意スルモノナリト雖モ該主義ノ適用ニ関シ左ノ意見ヲ開陳セント欲ス

一、帝国政府ノ見ル所ニ依レハ前示地域ニ於ケル秩序ノ維持ハ単ニ鉄道及鉄道運行従事員ノ保護ノミナラス軍隊自身竝同地方ニ於ケル自国民及露西亜人ノ安寧ニ必要欠クヘカラサルモノナルカ故ニ軍事行動ノ範囲モ亦該地域ノ秩序維持ヲ以テ其ノ目的トセサル可カラス而シテ此目的ヲ達成スル為メ必要ナル一切ノ措置ハ之ヲ軍事官憲ノ手ニ委スヘキモノナリ

二、聯合軍事行動ノ区域ハ能フ限リ局限セサルヘカラスト雖モ鉄道運行ニ必要ナル原料ノ供給ニ直接関係アル鉱山及其他ノ営造物ヲ包含セシメサルヘカラス現ニ聯合軍隊用軍需品ノ輸送ニ供セラルル河川及水路亦軍事保護ノ下ニ置クヲ要ス

三、軍隊ハ前記目的ノ範囲内ニ於テ自発的行動ノ権限ヲ有セサルヘカラス鉄道当局ノ請求アル迄其ノ行動ヲ抑止センコトヲ軍隊ニ要求スルハ賢明適切ノ措置ト云フヲ得ス

四、軍司令官ハ協議ノ上其ノ任務遂行ノ為メ取ルヘキ軍事行動計画ノ細目ヲ決定スル権能ヲ有セサルヘカラス

（欄外註記）
八年六月七日米大使ヘ英文訳手交同十日右閣議ニ報告
米大使ハ第三項ニ関シ日米間ニ根本的意見ノ相違アル旨ヲ指摘シタルニ付帝国ノ軍律上絶対ニ先方ノ意見ニ従ヒ難キ旨弁明シ置キタリ（内田康哉印）」

五九六　六月十八日　内田外務大臣ヨリ　在米国出淵臨時代理大使　在中国小幡公使　在浦潮松平政務部長　在ハルビン佐藤総領事　各宛（電報）

第五師団ノ一部ヲ浦潮ニ派遣スルコトニ閣議決定ノ件

第四四三号（米国宛）
第八二七号（中国宛）
第二六九号（浦潮宛）
第三八七号（ハルビン宛）

六月十七日左ノ通閣議決定アリタリ

極東露軍ハ微力ニシテ未タ恃ムニ足ラス過激派ノ跋扈跳梁ハ日ヲ逐フテ甚シク第三及第十四師団ハ鉄道沿線千五百里ニ渉リテ散在シ浦潮ノ兵力ハ銃数僅ニ三百五十ヲ算スルニ過キス今ヤ帰還ノ途ニ在ル第十二師団ハ交通線ノ支障ニ遭遇シテ輸送ヲ継続スル能ハサルノ状態ナリ而シテ後具加爾州ニ在ル第三師団ハ追テ之ヲ交代セシムヘキコトハ曩ニ閣議ニ於テ決定セラレタル所ニシテ之カ交代ノ任ニ当ルヘキ第五師団ノ内先ツ歩兵一旅団騎兵一中隊及工兵一中隊ヲ基幹トスル部隊ヲ急速ニ浦潮方面ニ派遣シ刻下ノ状勢ニ応セシメントス

第四四三号在米出淵代理大使宛末尾ニ（在欧各大使及丸毛ヘ転電アリタシ）
第二六九号在浦潮松平政務部長宛末尾ニ（菊池ヘ伝ヘラレタシ）
第三八七号在哈爾賓佐藤総領事宛ニハ末尾ニ（松島ヘ転電アリタシ）

五九七　七月四日　在仏国奈良中将ヨリ　陸軍省宛電報

在露チェック軍北方ヘ転進ノ場合同軍ノ西比利亜鉄道守備区域ヲ日本軍ニ於テ交代担任等ニ付請訓ノ件

奈良中将電報第百六十五号（七月八日陸軍省ヨリ外務省ヘ提示）

在露「チェック」軍ノ北進問題ニ関シテハ前電奈良媾第百六十四号既報告ノ如ク五国首相会議ノ通告ニ対スル「コルチャック」ノ回答到着スル迄其決定ヲ見ル能ハスト雖モ「コルチャック」ニシテ賛同セハ聯合国特ニ英国ハ「チェック」政府ニ其同意ヲ要求シ之カ実行ニ着手スルノ公算ナキニ非ス此計画ニシテ三国ノ賛同ヲ得ル場合之ニ反対スルノ必要ナク従テ「チェック」軍ノ西伯利鉄道守備区域交代担任ノ請求ニ対シテハ日本ノ利益ヲ害セサル限リ妥協的精神ヲ以テ之ヲ考案スルヲ適当ナリト思考ス本問題ハ或ハ実現ニ至ラスシテ止ム場合ナキヲ保シ難シト雖モ予メ御審議ノ上陸軍トシテノ意見ヲ御指示相成度シ

若シ前記ノ守備ヲ日本軍ニ於テ担任スル場合ニ於テハ左ノ諸条件ヲ高等軍事会議ニ提出シテ予メ各国代表ノ承認ヲ経置クノ必要アリト存ス尚他ニ御要求アラハ予メ御指示相成

度シ

一、日本軍ノ守備区域ヲ「トムスク」迄延長スル以上ハ同地以東西伯利ニ存在スル聯合国軍隊ハ総テ大谷司令官ノ指揮ニ隷属セシムルコト

二、新派遣日本軍隊補給ノ必要上鉄道ノ使用ニ関シ現今ヨリ一層大ナル便宜ヲ日本軍ニ附与スルコト

尚浦潮ヨリスル「チェック」軍ノ帰還船舶輸送ハ「チャーチル」ノ覚書ニハ米国之ヲ担任スルコトトナリアルモ六月二十三日五国首相会議ニ於テ「ロイド、ジョージ」ヨリ牧野全権ニ対シ日本ニ於テ担任セラルコト不可能ナリヤト問ヒタル由ニテ牧野全権其際何等明答セラルル所ナカリシモ将来再ヒ同一ノ要求ヲ受クル場合ヲ顧慮シ予メ御審議ノ上何分ノ御指示仰キ度シ

（参考）

欧発第五七八号

第一五九号答　英国ノ提案ハ事重大ニシテ目下慎重ニ考究中ナルモ帝国四囲ノ情況ハ英国ノ希望ニ応スル能ハサルヤモ図ラレサルヲ以テ貴官ハ之ヲ含ミテ深ク本問題ニ蹈ミ込マサル様注意セラルヘシ廟議決セハ速ニ通報スヘシ

政府ニ請求中ナルモ未タ回答ニ接セサルヲ以テ確答シ難シト答ヘタリ後刻五国会議ノ名ヲ以テ日本政府ニ本件ヲ依頼スヘキ交渉ヲ開クノ議出テタルモ英国「バルフォア」ハ事、軍事ニ関係スルヲ以テ「ベルサイユ」軍事会議ニ附センコトヲ提議シタリ当時臨席セル英米軍事代表者ハ政府当局ニ於テ本問題ノ方針ヲ決定セラルルニアラスンハ軍事代表者トシテ到底研究ノ余地ナシト申出タルモ結局近日ノ内再ヒ軍事会議ヲ開キテ審議スルコトトナレリ

「チェック」軍ノ「アルハンゲル」前進問題ハ以上ノ如ク立消トナリタルモ其交代及浦潮ヨリノ輸送問題ハ依然将来ノ懸案トシテ残ルヘク或ハ直接日本政府ニ対シ交渉シ来ル場合ナキヲ保シ難シ

本件ニ関シ軍事会議ニ小官列席スル場合ニハ欧発第五七八（註）号御指示ノ主旨ヲ含ミテ折衝致スヘシ

註　欧発第五七八号ニ就イテハ前掲七月四日発奈良中将電報第百六十五号ノ末尾参照

五九九　七月十三日　在オムスク松島書記官ヨリ内田外務大臣宛（電報）

オムスク政府援助ノ為イルクーツク以西二日

五九八　七月十一日　在仏国奈良中将ヨリ陸軍省宛（電報）

在露チェック軍ノ「アルハンゲル」転進計画取止及同車ノ西比利亜鉄道守備区域ヲ他国ニ於テ交代担任ノ問題ニ付報告ノ件

奈良中将電報第百七十号（七月十四日陸軍省ヨリ外務省ニ提示）

七月三日第百六十四号報告第五項首相会議ヨリ「チェック」軍帰還及招還ニ関シテ発シタル通告ニ対シ「コルチャック」将軍ノ回答二、三日前巴里ニ到著セルカ如ク松井全権ヨリ聞ク所ニ依レハ一昨日開催セル五国会議ハ該回答ニ基キ「チェック」軍ノ「アルハンゲル」前進計画ヲ断念スルニ決シタリ従テ「チェック」軍ノ現状ニ鑑ミ早晩浦潮ヲ経テ帰国セシムルノ外ナキヲ認メ其善後策ニ関シ引続キ審議セリ同軍ノ西伯利鉄道守備区域ヲ交代担任スルノ件ニ関シ米国「ランシング」ハ米国ハ此以上西伯利ニ出兵スルコト能ハサルハ勿論本来「チェック」軍援助ノ目的ヲ以テ為セルモノナルカ故ニ「チェック」軍帰国ノ後ハ米軍モ撤兵スルコトトナルヘシト述ヘ松井全権ハ日本軍ノ交代担任ニ関シ

本軍出動ヲ為シ得ザルヤ詮議方稟請ノ件

第一四九号　（七月十五日接受）

先頃来烏拉爾戦線ニ於ケル西比利亜軍ノ気勢頗ル揚ラズ「コルチャック」提督自ラ前線ニ赴キタルモ大勢ヲ挽回スルコト能ハズ「エカテリンブルグ」及「チェリヤビンスク」ノ前面ニ於テ塹壕ヲ築キ敵ノ進撃ヲ防グノ已ムナキニ至リタル模様ニシテ往電第一四八号ハ一昨十日「オムスク」ヘ帰還後急ニ大臣ヲ召集シテ会議シタル結果ト思考セラル「デニキン」軍及「ユデニッチ」軍ノ活躍ト共ニ東露ニ向ヘル過激派軍ノ一部早晩南露其ノ他ノ方面ヘ移サルルコトトナルベク聯合国ニ於テ今一層ノ援助ヲ「オムスク」政府ニ与フルニアラザレバ露国ノ統一ハ勿論秩序恢復ハ到底之ヲ望ム能ハザルベク而シテ西比利亜方面ニ於テ最モ急速有効ニ援助ヲ与ヘ得ル者ハ日本アルノミニ付東露戦況日ニ非ニシテ鉄道守備及背面守備ニ当リタル軍隊ヲ前線ニ送附セザル可カラザルニ至ルニ際シ日本援助ヲ期待スルハ自然ナリ

帝国政府ハ「イルクツク」以西ヘノ日本軍隊ノ出動ハ万已ムヲ得ザル場合ニ限ルノ御方針ナル処此際鉄道守備ノ目的

ヲ以テ幾分「イルクツク」以西ニ出兵スルコトハ右特別ノ場合ト解釈スルノ余地ナキヤ若シ「イルクツク」以西ノ出兵ハ事実上不可能ナリトセバ右理由ヲ明示スルト同時ニ少クトモ曩ニハ「ロマノフスキ」将軍ヲシテ又最近在日本露国大使ヲシテ日本政府ニ懇請セシメタル武器ノ供給ヲ速ナラシメ以テ「オムスク」政府援助ノ実ヲ挙ゲルヲ要スト信ズ縦令後日ニ至リ武器ノ供給ヲ承諾スルモ其ノ戦線ニ到着スルハ已ニ厳冬休戦ノ時期ナルベク来春戦闘開始ニ至ル迄其ノ用ヲ為サズ帝国政府ノ好意モ半バ其ノ効ヲ失シ本日ノ外電ニ見エタル英国政府供給ノ小銃五万挺弾丸五億（脱）遥ニ露国援助ノ実ヲ挙ゲベシ加之帝国政府ニ於テ出兵ニ関スル今回ノ懇請ヲ拒絶スル外急速武器供給ヲ承諾セザルニ於テハ極東ニ於ケル日本出兵ハ日本政府屢次ノ声明ニ係ラズ或野心ヲ包蔵スルモノト解セラレ従テ帝国ガ費シタル血ト財トハ何等酬イラレザルニ終ルノ虞ナシトセズ就テハ帝国政府ニ於テ本件ニ関シ慎重急速ニ御詮議アランコトヲ切望ス

猶本件鉄道保護ノ一部分米国軍ニ依頼スベシトアル処右ハ日本軍ノ出動ニ対シ米国ヲシテ反対セシメザル為ナルヤ将

露国政府ガ従来「イルクツク」以西ニ米国ノ進出ヲ好マザリシ関係ニ鑑ミ極東ニ於テ現ニ日本軍ノ守備シタル地方ヲ米軍ニ任セシメ依テ以テ現在東部西比利亜ニアル日本軍ヲ急速「イルクツク」以西ニ出動セシメントスル下心ナルヤ不明ナルモ突止メ次第電報スベシ

六〇〇　七月十六日　参謀本部派遣軍参謀長宛（電報）

日本軍二個師団ノ後貝加爾以西ヘノ進出方オムスク政府要請ノ件

浦参第一三一二号

昨十一日露国外務省ヨリ日本軍二個師団ヲ後貝加爾以西ニ進出セシメ「チェック」軍ニ代リ軍ノ後方地帯ノ警備ニ任セシメラレ度キ旨正式ニ申込ミ来レリ

詳細ハ松島書記官ヨリ関係ノ向キヘ報告セシ筈

六〇一　七月十七日　日本外務省宛在英大使館ヨリ

イルクーツク以西ニ日本軍二個師団派遣方要請ノ件

As a consequence of the evacuation from Siberia of the Tchecko-slovak troops which is now under consideration and of the possible transfer of the troops of General Rosanoff to the fighting front, the Russian Government is anxious to secure the safety of the Siberian railway to the west of Irkutsk and to maintain order in that region. It seems that, as it has been foreseen in the international agreement about the railway, foreign help will still be necessary for some time in the safeguarding of the line. Therefore the Russian Government entertains the hope that the Japanese Government guided by their amical (sic) feelings towards Russia, would be prepared to dicuss without delay the question of sending two Japanese devisions to the west of Irkutsk for the above mentioned purpose. The practical details as well as the conditions and the exact time of the enactment of that measure could be at once discussed by the proper Russian and Japanese military authorities on the spot.

In as much as, according to a communication of the French Government such a step has been under due consideration of the allied Powers which in principle have approved it, the Russian Government, in addressing their present demand to the Japanese Government, do refer themselves to the above mentioned decision of the allied Powers in the hope that not only that demand will be granted by Japan, but that the allied Powers, America includee, will give their help in safeguarding of at least a part of the railway.

Tokyo, July 17, 1919.

（欄外註記）
「七月十七日シェキン参事官持参（幣原次官）」

（右和訳文）（註　仮訳文ナリ）

露国政府ハ目下懸案中ナル「チェック、スロヴァック」軍ノ西比利亜撤退並「ロザーノフ」将軍麾下軍隊ノ戦線輸送実現セラルル場合ヲ考慮シ「イルクーツク」以西ニ於ケル西比利亜鉄道ノ警備並其ノ沿線ノ秩序維持ニ就キ苦心シツツアリ該鉄道ニ関スル国際協定中ニ予想セラレタル如ク該鉄道ノ警備ニ就キテハ猶暫ク外国ノ援助ヲ必要トスベシ之

ヲ以テ露国政府ハ日本政府ニ於テ露国ニ対スル親善ノ情誼ニ基キ遅滞ナク上記目的ノ為メ「イルクーツク」以西ニ二個師団派遣ノ件ヲ詮議セラルヘシトノ期待ヲ有スルモノナリ其ノ実行ニ関スル細目及条件竝其ノ確定的時期ニ関シテハ直ニ彼地ニ於ケル日露両国当該軍憲ニ於テ之ヲ協議スルコトヲ得ヘシ

更ニ仏国政府ヨリノ通報ニ拠レハ此ノ如キ措置ハ已ニ同盟諸国ノ協議ニ上リ各国トモ主義上之ヲ是認シタル由ナルヲ以テ露国政府ハ此懇情ヲ日本政府ニ致スニ当リ右決議ニ徴シ日本カ之ヲ応諾スルニ止マラス同盟諸国竝米国モ亦少クトモ該鉄道一部ノ警備ニ就キ其ノ援助ヲ提供スルニ至ラムコトヲ信スルモノナリ

千九百十九年七月十七日東京ニ於テ

六〇二　七月十八日　在仏国奈良陸軍中将ヨリ陸軍省宛（電報）

チェック軍ニ代リ西比利亜鉄道守備ヲ日米両軍ニ要請スルコトヲ外相会議可決ノ件

奈良中将電報第百七十七号（七月二十一日陸軍省ヨリ外務省ニ提示）

兵ノ場合ニハ日米両国ノ出兵ヲ求ムル意味ノ電案（別電講第一六九二号）ヲ報告シタルカ右ニ附加スル前文ハ各国代表者ニ於テモ異議ナカル可ク「バルフォア」氏ヨリ多少字句ノ修正ヲ提議シタルノミテ左記ノ通決定サレ最高会議議長ヨリ日米両国政府ヘ電報ヲ以テ交渉ス可シトノ議成立セントシタルヲ以テ牧野全権ハ本電ハ自分ヨリ日本政府ニ取次ク可シ且此際一言シ置キ度シトテ自分ハ先般首相会議ニ於テ決定シタル「コルチャック」ヲ援助スル目的ヲ以テ（脱）「オムスク」間ノ通路ヲ開ク為兵力ヲ要ス可ク「チェック」軍ヲシテ当ラシムル コトトシ而シテ従来「チェック」軍ノ執リ来リタル鉄道守備ノ任務ハ其当時政府ヘ電報シ置キタルモ（脱）行ヲ肯セス此ノ計画ノ実行不可能ナリトノ報道伝ハリタルヲ以テ日本ニ於テハ其決定ヲ見合セ其後成行キヲ注視シ居リタルコトト推測シ居ル次第ナルカ今回ノ要求ハ根本ノ事実変更シタル基礎ニ於テ提出セラルルモノナレハ日本政府ハ或ハ実地ニ就キ最近ノ状況ヲ問合ハセ現場出張員ノ意見ヲ徴スルノ必要上自然本件ニ関スル回電ヲ得ルニハ多少日時ヲ要ス可キ旨特ニ述ヘ置ケリ

右ニ付米国「ホワイト」全権ハ米国政府ニ対シテハ講和会

七月十一日奈良嬬第百七十号ヲ以テ報告ノ在西伯利「チェック、スロワック」軍帰還ノ為其守備交代ヲ直接日、米政府ヘ交渉ス出兵ノ件ハ愈々七月九日ノ外相会議ニ於テ可決セラレ「クレマンソウ」ノ名ヲ以テ日、米政府ニ申込ムヘキ右交渉ニ関スル電報案ノ起草ヲ高等軍事会議ニ命シ同会議ハ七月十一日附電報案ヲ起草シテ外相会議ニ報告セリ

在西伯利「チェック、スロワック」軍隊ニシテ帰国ノ暁西伯利ノ守備ヲ確実ナラシムル為之ヲ交代スル必要ヲ生ス日、米両国政府ハ必要ノ兵力ヲ派遣セラルヘキヤ

六〇三　七月十九日　在仏国松井大使ヨリ内田外務大臣宛（電報）

チェック軍ニ代リ西比利亜鉄道守備ヲ日米両軍ニ要請スルコトヲ五国会議ニ於テ決定ノ件

別電　同日松井大使発内田外務大臣宛講第一六九二号

講第一六九一号

七月十八日午後五国会議ニ於テ曩ニ「チェック、スロヴァック」軍撤兵後ニ於ケル西比利亜鉄道守備ニ関シ講和会議ヨリ日米両国政府宛電報案作製方ヲ命セラレタル「ベルサイユ」軍事会議（往電講第一五七八号）ハ「チェック」撤議ヨリ直接ニ照会アリ度シト述ヘ其ノ通リ決定シタリ

尚右会議後之ニ出席シタル米国全権「ブリス」将軍ト会談シタルニ同氏ハ自分一個ノ考トシテハ「ウィルソン」大統領ニ於テハ露国ヲ現状ヨリ救済スル為「コルチャック」将軍ニ援助ヲ与フル意嚮ニテ西比利亜ニ軍隊ヲ増遣スルニ賛成ナランモ米国輿論ハ既ニ強硬ニ西比利亜撤兵ヲ要求シ居ル故此際西比利亜増兵ハ困難ナラント思ハル尚自分ハ米国ハ船舶ノ貸与軍需品ノ供給等ニ依リ「コルチャック」ヲ援助シ得可シト思フ旨ヲ語レリ

左記

In view of the condition and wishes of the Czecho-Slovak troops in Siberia, the Council of the Allied and Associated Powers consider it urgently necessary that arrangements should be made for repatriation of these troops from Vladivostok.

This involves the replacement of these troops along the portion of the Trans-Siberian Railway which is at present guarded by them. Information is therefore required as to whether the Japanese Government will

furnish the necessary effectives or will co-operate with the American Government to this end.

A similar telegram has been addressed to the American Government.

在欧米各大使ヘ転電セリ

(右和訳文) (註　右講第一六九二号末段「左記」表文ノ仮訳文ナリ)

西比利亜ニ於ケル「チェック、スロヴァック」軍ノ現状並其ノ希望ニ顧ミ同盟及聯合国委員会ハ浦潮ヨリ之等軍隊ヲ帰還セシムル為準備スルノ急務ナルヲ認ム

右ハ目下同軍隊ノ守備シ居レル部分ノ西比利亜鉄道沿線ニ於テ之ニ代ル可キ軍隊ヲ配置スルヲ必要トスル処、日本政府ハ必要ナル兵数ヲ提供セラル可キヤ或ハ此目的ノ為米国政府ト協勠セラル可キヤ承知シ度シ

米国政府ニ対シテモ同様電報シ置ケリ

(別　電)

七月十九日松井大使発内田外務大臣宛講第一六九二号

西比利亜鉄道ノ守備ヲ日米ニ要請スル電文

講第一六九二号　別電

It was agreed to recommend the Council of Ministers to send the following telegram to the Governments of the United States of America and Japan.

In the event of the Czecho-Slovak troops in Siberia being repatriated, it will be necessary to replace them in order that the Trans-Siberian Railway may continue to be guarded. Will the Government of Japan furnish the required numbers.

在欧米各大使ヘ転電セリ

(右和訳文)

日米両国政府ニ対シ左記電報発送方大臣会議ニ慫慂スルコトヲ決ス

西比利亜ニ於ケル「チェッコ、スロヴァック」軍隊帰還ノ上ハ西比利亜鉄道ノ守備継続ノ為メ之ニ代ルヘキ軍隊ヲ簡派スル事必要トナルヘシ日本政府ハ所要ノ兵員ヲ提供セラルヘキヤ

六〇四　七月二十二日　在日本露国大使館宛本邦外務省ヨリ

イルクーツク以西ニ日本軍派遣方要請ニ対シ拒否ノ旨回答ノ件

附　記　バイカル湖以西ヘ日本軍派遣ヲ不可トスル陸軍省意見

Memorandum.

The Japanese Government fully realize the situation in which the request is made in the Memorandum of the Russian Embassy of July 17 for the disposition of two Japanese Divisions to the west of Irkutsk. They are well sensible of the efforts of Admiral Koltchak to secure the safety of the Siberian Railway in that direction. They however regret to have to state in complete frankness that they do not find it possible to undertake extension of their armed assistance in the direction now proposed. Believing that such an undertaking can not reasonably be expected, at the present moment, to commend itself to the general approval of the Japanese people, they feel compelled to hold to the decision, which they have on more than one occasion declared, to confine the sphere of their military activities to the east of Lake Baikal. At the same time, they remain unchanged in their determination to co-operate loyally with the Russian authorities in maintaining order and security in the region lying east of Irkutsk.

Ministry of Foreign Affairs,
Tokyo, July 22nd, 1919.

(欄外註記)

「七月二十二日午後五時外務省ニ於テ本覚書ヲ内田大臣ヨリクルペンスキー氏ヘ交付シタル処同氏ハ之ニ対シ左ノ通挨拶セリ

一、帝国政府カ坦懐ニ其ノ意思ヲ表明セラレタルハ感謝ニ不堪所ナリ

二、自分ハ本問題カ頗ル困難ナル事情ノ下ニアルコトヲ知ル、以前ノ増派問題ノ経過ヨリシテ此ノ如キ帰着ヲ見ンコトハ已ニ察知セル所ナリ

自分ハ良ク事情ヲ諒解セルヲ以テ事情ノ存スル所ヲ「オムスク」政府ヘモ通報シ置クヘシ」

(右和文)

覚　書

日本政府ハ露国大使館カ七月十七日附覚書ヲ以テ「イルクツク」以西ニ日本軍二個師団配備ヲ要望セラルルニ至レル事情ヲ十分諒トシ又同方面ニ於ケル西比利亜鉄道ノ安全ヲ保持セムトスル「コルチャック」提督ノ努力ヲ善ク認悉スルモノナリト雖今回提議セラレタル方面ニ日本カ其ノ武力

的援助ヲ拡張セムト企ツルノ不可能ナル次第ヲ坦懐ニ陳ヘサルヲ得サルハ日本政府ノ遺憾トスル所ナリ

日本政府ハ此ノ如キ企図カ目下日本国民全般ノ賛同ヲ博スル能ハサルヲ信スルカ為曾テ屢次声明セルカ如ク其ノ軍事行動ノ範囲ヲ貝加爾湖以東ニ限局セムトスル決意ヲ守持スルノ外ナシト思惟スルモ之ト同時ニ「イルクツク」以東ノ秩序ト安寧トヲ保持スルカ為誠意露国官憲ト協戮セムトスル日本政府ノ決心ハ毫モ渝ラサル所ナリ

（欄外註記）

「大正八年七月二十二日閣議決定（内田康哉印）

大正八年七月二十一日　外交調査会決定、寺内伯　元田氏　欠席（内田康哉印）」

（附記）

バイカル湖以西ヘ日本軍派遣ヲ不可トスル陸軍省意見

極秘　　七月二十一日　陸軍省

貝加爾湖以西ヘ出兵ノ件

「チェック、スロヴァック」軍ノ撤退ニ伴ヒ日本軍ヲ貝加爾湖以西ニ派兵スルコトハ絶対ニ拒絶スルヲ要ス

理　由

貝加爾以西ニ帝国軍ヲ派遣スルコトハ従来屢々唱導セラレシ著シク不良ニ陥リ恐ラク軍用トシテ一日一列車ヲ使用シ得ルニ過キサルヘキヲ以テ兵員ノ輸送ハ数字上不可能ナラサルヘキモ之カ給養ニ要スル輸送、現ニ西伯利ニ在ル「チェック」軍ノ輸送及其ノ給養ニ要スルモノヲ加算スルトキハ右兵力ノ派遣モ亦寧ロ危険ナル企図ナリト認メサルヲ得ス目下鉄道ハ過激派ノ妨害ノ為頗ル不安ノ状態ニ在ルニ於テ特ニ然リトス

抑帝国ハ大戦以来極東以外ノ派兵ニ関シ列強屢次ノ要望ヲ排シ終始一貫ノ態度ヲ持続シテ今日ニ及ヘリ然ルニ今ヤ講和成立シテ人心一転セルノ時期ニ際会シ而モ列強ノ対西伯利政策モ亦漸ク変潮ヲ見ントスルニ方リ遽ニ従来ノ態度ヲ一変シ軽々ニ他ノ提議ニ共鳴シ懸軍万里ノ異域ニ派兵シテ走狗ノ労ニ服スルハ甚タ取ラサル所ナリ加之現時西伯利ニ於ケル帝国ノ地位ハ著シク他ノ施設ニ落伍セサルニ於テハ他日優勝ノ地位ニ進ムヘキハ期シテ待ツヘク要スルニ成効ハ時ヲ俟テ之ヲ解決スヘシカリニ功ヲ急キ荒漠無限ノ境地ニ国軍ヲ駆使スルノ必要ヲ見ス須ク我国力及国情ニ顧ミ堅実持久ノ歩ヲ辿リテ進止宜シキニ適セサルヘカラス

タル問題ニシテ大正七年六月ノ交英国ノ提議ニ基クモノハ強大ナル兵力ヲ「ウラル」戦線ニ出動セシムルニ在リタリ当時ノ計算ニ依ルニ給養兵額ヲ三十師団トシ一日三乃至四列車ヲ軍用ニ供スルモ集中ノ為尚二十箇月ヲ要シ其ノ集中経費二十四億爾後毎年維持費五十四億ヲ算シ而モ如上ノ軍事輸送力ハ爾後ノ補給ヲ維持スルコト能ハサルモノトセリ

今次「チェック」軍ノ撤退ニ伴フ派兵ハ其ノ目的西伯利鉄道ノ警備ニ在リト称シ所要ノ兵力モ亦四五万ヲ以テ足レリト為スモ之ヲ「ウラル」戦線ノ現状ニ鑑ムルトキハ将来更ニ大軍ヲ出動セシムルノ基因ヲ為スモノト謂ハサルヲ得ス即チ最近ノ情報ニ依ルニ該戦線ノ状況頗ル不振ニシテ逐次重要ナル地点ヲ奪取セラレツツアリ斯クノ如キ事態ヲ持続センニハ遂ニ帝国軍ハ孤立無援ノ地ニ於テ強敵ト対抗セサルヘカラサル事態ヲ惹起シ延テ大兵ヲ動カシテ之ニ投セサルヲ得サルニ至ルヘク提案セラレタル兵力ノ大ナラサルヲ見テ直ニ之ニ与セントスルハ恐ルヘキ危険ヲ包蔵スルモノナリト謂フヘシ

若シ仮リニ出動兵力ヲ四五万ニ限リ何等他ニ増兵ノ必要ヲ生セサルモノト限定スルモ現時鉄道輸送ノ状態ハ往年ニ比

六〇五　七月二十二日　内田外務大臣ヨリ在米国出淵臨時代理大使宛（電報）

イルクーツク以西ヘ日本軍二個師団派遣方オムスク政府ノ要請ニ対シ拒否ノ旨回答シタル件

第五一五号

「オムスク」政府ハ「チェック、スローバック」軍ノ西比利亜撤退并「ロザノフ」将軍引率部隊ノ戦線ニ移送ノ場合「イルクツク」以西ニ於ケル西比利亜鉄道守備ノ為メ日本ヨリ二師団ノ増援隊派遣方在本邦露国大使ヲ経テ帝国政府ニ懇請シ来リタル処

第一、従来帝国政府カ常ニ貝加爾以西ニ於ケル軍隊ノ出動ヲ拒絶シタルガ爾来幾分事態ノ変遷セルモノアルモ其ノ主要ナル理由ハ今仍ホ存在スルコト

第二、露国復興援助就中「オムスク」政府支持ニ関スル英米仏伊諸国ノ方針極メテ不定ナル今日日本独リ進ミテ重大ナル犠牲ヲ供スルノ得失甚タ疑ハシキモノアルコト

第三、帝国ノ財政ハ右出兵ノ負担ニ堪フルカ如キ余裕ヲ存セサルコト

第四、昨年以来ノ実験ニ鑒ミ此上西比利亜ノ奥地ニ軍隊ヲ

増遣スルハ徒ニ国際間ノ紛争ヲ益々繁カラシムルノ虞アルコト

等ノ諸点ヲ考量シ政府ハ熟議ノ末七月廿二日別電第五一六(註)号ノ通リ露国大使ニ回答シタリ右回答ノ趣旨ハ貴官ヨリ適当ノ機会ニ於テ任国当局ニ説明シ置カレタシ

右別電ト共ニ本大臣ノ訓令トシテ在欧各大使ニ転電シ尚在英大使ヲシテ在瑞典瑞西両公使及丸毛ヘ転電セシメラレタシ

註　別電第五一六号ハ前掲六〇四文書（英文）ト同文ナルニ付省略ス

尚右往電第五一五号ト同趣旨ノ電報ハ同日在支小幡公使宛第九五八号、在浦潮松平政務部長宛第三〇五号、在哈爾賓佐藤総領事宛第四四五号ヲ以テ夫々発送セラレタリ

六〇六　七月二十三日　在英国田中陸軍少将ヨリ陸軍省宛

在西比利亜チェック軍ノ帰国ヲ英国ガ提案セル経緯ニ関スル件

陸媾第五号　（七月二十六日陸軍省ヨリ外務省ヘ提示）

小官帰英巴里不在中西伯利「チェック」軍ノ帰国問題五国会議ニ提出セラレ同会議ノ日本及米国ニ対スル要求条件ハ我全権ヨリ外務省ニ電報セラレタルヲ以テ既ニ御承知ノ事ト信ス抑々本件ハ先ニ奈良中将ヨリ報告アリシ通リ英国ノ主張ニシテ本案提出ノ動機ニ就テ之ヲ観察スルニ最近「コルチャック」軍ノ不成績ト陥落旦夕ニ迫レリト報セラレタル「ペトログラード」ノ運命今尚尽キサルトハ北方ニ孤立セル「アルハンゲリ」軍将来ノ命脈ニ対シ英国当局者ヲシテ不安ノ念ヲ起サシメ此情況ヲ以テ推移シ冬季ヲ迎フルニ至レハ「アルハンゲリ」軍ハ再ヒ危地ニ陥ラサルヘカラス事此処ニ至レハ英国ノ輿論ハ再ヒ沸騰シ政府ハ困難ノ立場ニ陥ルハ明カナルヲ以テ英国当局者トシテハ冬季結氷前ニ百方手段ヲ尽シテ之カ救済策ヲ講セサルヘカラス之レ英国今回ノ提案ヲ見タル所以ニシテ名ヲ「チェック」軍ノ帰国ニ藉リ実ハ「アルハンゲリ」軍救援ノ窮策ニ外ナラスト察セラル而シテ帰心矢ノ如キ「チェック」軍ヲ西伯利軍ノ右翼ニ増加シ「アルハンゲリ」軍ト連絡ノ目的ヲ達シ得ルノ見込ナキハ苟モ軍事智識ヲ有スル者ノ解セサル筈ナキヲ以テ英国ノ提案カ有邪無邪ニ葬ラレタルハ敢テ怪ムニ足ラス而シテ五国会議ハ「チェック」ノ哀願ヲ容レ彼帰国ノ後之ニ代リ鉄道守備ヲ日本及米国ニ仰クノ提議ヲ為スニ至レルモノト察ス

「チェック」帰国ノ実施ハ兎モ角単ニ五国会議ノ要求条件ニ就テ考フルニ吾人ハ他国ノ走狗タルハ勿論肯スル所ニ非ザルモ現在西伯利ニ出兵シアル兵力ニテ余力アリトセハ彼等ノ希望ニ応シ鉄道守備区域ヲ貝加爾以西ニ延長スルハ日本ノ勢力範囲ヲ西方ニ拡大スルモノニシテ得策ナリト信ス数日前「スマット」将軍英国ヲ辞シ南阿帰国ノ際露西亜干渉政策ニ公然反対ノ意見ヲ発表セルハ大ニ吾人ノ注目ニ値スコトハ独リ露人間ニ好感ヲ与ヘタルノミナラス当方ニ於テモ帝国ノ誠意ヲ徹底セシムルニ努力シ各国ノ政治家識者間ニ於テモ帝国ノ対露方針ヲ了解シ露国援助殊ニ「コルチャック」支持ニ付テハ日本ガ最モ適切可能ノ地位ニアリ又最近熱心ニ尽力センコトヲ期待シ居ル事情ナリ此故ニ「チェック、スロヴァック」軍帰国後ノ鉄道守備ニ付日本ニ依頼スルノ電報ヲ発スルコトニ五国会議ニ於テ決定シタル今日無下ニ之ヲ謝絶セラルルコトハ従来ノ行掛リ上或ハ日本ノ誠意ヲ疑ハシムルコトトナリ折角帝国ノ対露方針一般ニ歓迎セラレ居ル際面白カラサル影響ヲ及サスヤト懸念致ス次第ナリ

二、英仏両国カ戦後是非トモ米国ノ援助ニ依ラサル可カラサル関係ニアルコトハ累次報告致シ置キタル通ナルカ山東問題其他ニ関シ今後ト雖モ（脱）ニ提起セラルル場合英仏二国カ米国ニ気兼ネシテ容易ニ従来ノ如ク日本ヲ支持シ又ハ後援ヲ為スコト能ハサルニ至ル可シト思考セラル旁々今後ハ一層英仏両国ノ日本ニ対スル同情ト好意ヲ得ルニ努ムルノ要切ナルモノアリト信ス今ヤ「チェック、スロヴァック」軍帰国後ノ鉄道守備ニ付英仏両国ノ

六〇七　七月二十四日　在仏国松井大使ヨリ内田外務大臣宛（電報）

チェック軍帰国後ノ西比利亜鉄道守備ノ為日本軍増遣問題ニ付意見具申ノ件

講第一七一六号　（七月二十六日接受）

往電一六九一号「チェック、スロヴァック」軍帰国後ノ鉄道守備ノ任ヲ日米両国ニ依頼スルコトニ五国会議ニ於テ決定セル経緯ニ付テハ累次電報ニ依リ御承知ノ通リナル処右ニ関シ帝国政府ニ於テ折角御詮議ノコトト存スルモ一応愚見申進ス

一、帝国政府ニ於テ「コルチャック」承認問題ヲ提起セラレ「コルチャック」支持ニ付主動的態度ヲ執ラレタル

政治家ハ自己ノ力及ハサル結果熱心ニ日本ニ依頼セル処、此際彼等ノ首肯スルニ足ル理由無ク謝絶セラルルコトハ英仏両国ノ対日感情上ニ於テモ思ハシカラサル結果ヲ齎サスヤト存ス

三、軍備制限ノ問題愈々聯盟ノ議題タル可キ際ニ於テモ日本カ成ル可ク縮少制限ノ程度ヲ弱ムルノ必要アル可シト信スルカ若シ此際更ニ西比利亜方面ニ於テ秩序維持交通安全ノ為兵力増遣シ置キ列国之ヲ承認セル上ハ帝国ノ国際的地位、東亜ノ平和維持ノ必要上軍備制限ノ程度ニ付大ニ斟酌ヲ要スルモノナルコトヲ各国ヲシテ首肯セシムルニ有力ナル一材料タリ一理由タリ得可キニ非スヤト思考セラル

以上ノ三点ヨリ観テ西比利亜鉄道守備ノ為兵力ノ幾分ヲ増遣スルヲ無下ニ謝絶セラルルコトハ更ニ一考ヲ要スル儀ト思考ス、素ヨリ兵力及費用ノ点ニ鑑ミ将又米国側ノ思惑モ十分考量セサル可カラサル点ナルモ僅少ノ兵数ヲ以テ要処要処ヲ守備シテ足ルモノナルニ於テハ引受差支ナシトノ意味合ニテ一応快諾セラルルカ又ハ「チェック、スロヴァック」軍中ノ健全分子及強ヒテ帰国ヲ欲セサル部分ヲ残シ其

欠陥タケヲ少数ノ日本軍ニテ引受ケ専ラ鉄道守備ノミニ当ルコトノ如キ折衷案ニテモ提供セラレ得ルニ於テハ一層可ナリト信ス此際叙上ノ諸点ヲモ考量ニ加ヘラレ至急本件ニ関スル帝国政府ノ態度御決定ノ上聯合諸国側ニ回答セラルル様切望ニ堪ヘス

在英米大使ヘ転電セリ

六〇八　七月二十六日　在米国出淵臨時代理大使ヨリ内田外務大臣宛（電報）

米国兵ノ西比利亜駐屯理由、米国ノ対西比利亜政策等ニ付米国大統領書面ヲ以テ上院ニ説明ノ件

第五五九号　（七月二十七日接受）

客月二十三日上院ヲ通過セル西比利亜ニ関スル「ジョンソン」決議案（西比利亜出兵理由米国兵任務其撤退期其他一般西比利亜政策ニ付政府ニ説明ヲ求ムル案）ニ対シ二十五日大統領ハ書面ヲ以テ上院ニ回答ヲ与ヘ居ル処其大要ハ出兵当時国務省ノ公表セル理由ヲ繰返シタル後

総数一万人ノ軍隊ヲ送リタルコト、日本ノ提案ニ基キ鉄道管理委員会ノ設ケラレタルコト、

曩ニ臨時政府ノ要求ニ依リ「スチーヴンス」ノ下ニ米国技師ヨリ成ル鉄道班組織セラレタルガ「スチーヴンス」ハ米国兵ノ援助ニ依頼スルニ非サレバ其担当事務ヲ遂行シ難シト上申シ来レルニ依リ米兵ヲ要所ニ配置シ居レルコト、

西比利亜ノ混乱及窮乏ヲ救フハ鉄道交通ヲ改良スルノ外ニ途ナキコト、

在米露国官憲ハ之レ迄モ多量ノ物資ヲ米国ヨリ輸入セルガ陸軍長官ハ更ニ多量ノ物資供給ニ付関係筋ト契約シツツアルコト、

「コルチャック」政府ハ又医療其他赤十字材料ヲ米国ヨリ買入レントシツツアルコト、

米国赤十字モ西比利亜救済ノ為メ活動ヲ開始セルコト、

西比利亜各分子ハ総テ米国ノ援助ニ信頼シ其信頼ニ報ユルニハ鉄道恢復ハ絶対ニ必要ニシテ之レカ為メ米国兵ノ駐屯ハ欠クベカラザル要素ナルコト、

要スルニ米国軍駐屯継続ノ目的ハ鉄道交通ヲ確保シ以テ必要ナル経済的援助ヲ致サンガ為メニ外ナラザルコト等ヲ指摘セルモノナリ

回答書郵送ス

六〇九　八月九日　内田外務大臣ヨリ在仏国松井大使宛（電報）

西部西比利亜ヘノ日本軍派遣ノ要請ニ対スル措置振回訓ノ件

講第六六一号

貴電講第一七一六号ニ関シ

御意見ノ次第篤ト考量ヲ加ヘタル処西比利亜ノ現状ニ於テ過激派ハ正式ノ軍隊組織ヲ有スル集団ニ非ス各地ニ散布シテ無害ナル村民ノ姿ヲ装ヒ会々其ノ地ニ駐屯スル外国軍隊ノ兵カ寡少ナルヲ認ムルトキハ突然之ヲ襲撃スルヲ常トスルカ故ニ一旦西部西比利亜地方ニ我軍隊ヲ派遣スル以上其ノ目的ヲ徹底セムカ為ニハ結局多数ノ兵力ヲ該方面鉄道沿線ノ各地ニ増遣スルノ已ムナキニ至ルヘキヲ予想セサルヘカラス然ルニ我一般国民カ直接ノ利害ヲ自覚セサル遠隔ノ奥地ニ向テ我軍隊ヲ派遣シ多大ノ犠牲ヲ供スルカ如キハ到底国論ノ是認ヲ得サルヘク政府トシテモ国民ニ対シ此ノ犠牲ヲ強要スルノ責任ヲ執ルコトヲ得ヘキモノニ非ズト思考ス従テ此際我西比利亜派遣軍ノ出動区域ヲ「イルクーツク」以西ニ拡張スルノ提議ハ従来帝国政府ノ累次関係国政府ニ

通告セル既定ノ方針ニ依リ之ヲ拒絶スルコトニ決定セリ

曩ニ「オムスク」政府ヨリ貴電講第一六九一号ト同一ノ趣旨ヲ以テ日本軍隊ノ出動ヲ求メタルニ対シ帝国政府ノ与ヘタル回答ハ在米大使宛往電第五一五号及第五一六号ニ依リ既ニ貴官ヨリ仏国政府ニ説明セラレタルコトノ察セラレ又当方ニ於テモ英仏代表者ヘ夫々公然トナク内話シ置キタルニ付本件出兵問題ニ関スル帝国政府ノ態度ハ英仏両国政府ニ於テモ了解シ居ルコトト推測セラル従テ今回貴電講第一六九一号五国会議ノ問合ニ対シテハ或ハ特ニ正式回答ヲ発スルノ必要ナカルヘキカトモ思考セラルルモ貴官ハ必要ト認メラルルニ於テハ五国会議議長ニ対シ帝国政府ノ訓令トシテ前記趣旨ニ基キ可然回答セラレタシ

欧米各大使及日置公使ヘ転電アリタシ

六一〇　八月十四日　閣議決定

日本ノ対西比利亜政策ニ関スル件

極秘

対露政策ニ就テ

現在ノ状況ニ於テモ従来ノ対露政策ヲ変更スルノ必要ヲ認メス今後「オムスク」政府我守備区域ニ撤退シ来ル場合発生スルモ要スレハ之ヲ収容シテ後貝加爾以東ノ地方ヲ保持シテ治安ノ維持ニ任ス

将来状況ノ変化ニ処スル手段ハ其ノ都度之ヲ区処ス

註　右閣議決定ハ八月十五日外交調査会ニ於テ其冒頭「現在ノ状況ニ於テモ従来ノ対露政策ヲ」ヲ「現在ノ状況ニ於テモ従来ノ出兵方針ヲ」ニ修正決定セラレタリ

六一一　八月二十三日　在伊国今井臨時代理大使ヨリ内田外務大臣宛（電報）

伊国ノ西比利亜ヨリ撤兵ノ方針ニ付外務次官内話ノ件

第一三一号　（八月二十四日接受）

二十二日外務次官ノ内話ニ依レバ伊国ハ西比利亜ヨリ全部ノ撤兵ヲナス筈ナリ列国ノ態度特ニ米国ノ態度今日ノ如キ有様（即チ曩ニハ過激派ニ同情シ中頃ハ「オムスク」政府ニ与セントシ最近又過激派ニ同情セントスル形勢）ニテハ対露問題ニ関シ列強ノ歩調ヲ一ニスルコト難ク結局露国ハ「ソビエット」政府ノ支配ノ下ニ統一サルルニ至ル無キヤヲ危ムトテ頗ル悲観シ居レリ

六一二　九月五日　田中陸軍大臣ヨリ内田外務大臣宛

参謀本部ヨリ浦潮派遣軍朝鮮軍及関東軍ノ各司令官ニ与フル訓令案並参謀総長及陸軍大臣ヨリ浦潮派遣軍司令官ヘノ指示ヲ陸相ヨリ外相ニ提示ノ件

大正八年九月五日　参謀本部

浦潮派遣軍司令官
朝鮮軍司令官
関東軍司令官　ニ与フル訓令案

訓令

一、別紙部隊ヲ浦潮派遣軍司令官ノ隷下ニ属ス

二、北満洲派遣隊及歩兵第九聯隊ヲ一時浦潮派遣軍司令官ノ指揮ニ属ス

三、浦潮派遣軍司令官ハ沿海州、黒竜州及後貝加爾州ニ於ケル鉄道沿線及黒竜江系沿岸地方竝其他ノ要地ニ於ケル治安交通ノ維持ニ任ス

浦潮派遣軍司令官ハ必要ニ応シ東清鉄道沿線ニ於ケル帝国臣民ノ保護及交通ノ維持ニ任ス

四、朝鮮軍司令官ハ浦潮派遣軍ノ為朝鮮内ニ於ケル兵站業務ヲ担任ス

五、関東軍司令官ハ浦潮派遣軍ノ為関東軍守備管区内ニ於ケル兵站業務ヲ担任ス

六、浦潮派遣軍行動地域ト関東軍守備管区トノ境界ハ吉林、長春（寛城子ヲ含ム）、伏隆泉ヲ連ル線（関東軍守備管区ニ含ム）トス

七、細部ニ関シテハ陸軍大臣、参謀総長ヲシテ指セシム

註　右文書ノ冒頭ニ「陸相手交」ノ書入レアリ

（別紙）

浦潮派遣軍司令官隷下部隊

浦潮派遣軍司令部
浦潮派遣軍憲兵隊
第五師団
第十四師団
南部烏蘇里派遣隊
野戦交通部
野戦交通部長隷下部隊
臨時鉄道聯隊
臨時第一、第二電信隊

第一、第二軍楽隊
臨時自動車隊
浦潮派遣軍兵站部
浦潮派遣軍兵站部長隷下部隊
浦潮派遣第一乃至第四兵站司令部
第十六師団輜重監視隊
浦潮派遣軍兵器廠
浦潮派遣軍倉庫
第一乃至第六陸軍病院
臨時野戦防疫部
浦潮派遣軍病馬廠
臨時第一、第二測図部

大正八年九月五日　参謀本部

参謀総長ヨリ浦潮派遣軍司令官ヘ指示

作命第四十二号訓令ニ基キ左ノ指示ヲ為ス

一、浦潮派遣軍行動地域ニ在ル各国軍（北満洲ニ在ル支那軍ヲ除ク）ハ各其ノ本国政府ノ委任ニ依リ浦潮派遣軍司令官ノ指揮ニ属ス

二、外国軍ニ対スル軍司令官ノ指揮権ハ各国ノ委任ニ基クサル場合ニ在リテハ自ラ其ノ運行ニ干与スルコトヲ得但シ此場合ニ在リテハ予メ露国側及聯合国鉄道監督機関ノ諒解ヲ経ルヲ要ス

五、沿海州沿岸及黒竜江系沿岸ノ治安維持ニ関シテハ該方面ニ行動スル第三艦隊ト協同動作スヘシ
臨時海軍派遣隊司令官ハ黒竜江流域ニ動作スル帝国陸軍諸部隊トノ協同動作竝黒竜江系沿岸ノ治安維持ニ関シテハ浦潮派遣軍司令官ノ区処ヲ受ク

六、軍行動地域ニ於ケル兵力ノ大移動竝地域外ニ対スル派兵ハ予メ請訓スヘシ

七、諜報ハ直接作戦ニ関スルモノノ外左記事項ニ就キ実施スヘシ
イ、主トシテ軍行動地域ニ於ケル地理及資源ノ調査竝材料ノ蒐集
ロ、「イルクーツク」以西ニ於ケル鉄道ノ状態

八、補給通信衛生ニ関シ指示スルコト別冊ノ如シ

大正八年九月五日　陸軍省

陸軍大臣ヨリ浦潮派遣軍司令官ヘ指示

（記註外欄）
西伯利派兵以来既ニ一年今ヤ派遣軍ノ業務ヲ統帥ト行政トモノナルヲ以テ其ノ特殊ノ性質ヲ顧慮シ其ノ指揮ニ関シテハ左記方針ニ準拠スヘシ

イ、聯合軍ノ行動ハ各其ノ本国ノ政策ニ職由シテ其ノ軌ヲ一ニセス指揮権ヲ以テ之ヲ一致セシメ難キモノアルヲ以テ列国軍ノ意向ト軍事行動上ノ要求トニ稽ヘ機宜ノ処置ヲ講スルヲ要ス
ロ、支那軍ニ対シテハ東亜将来ノ大局ニ稽ヘ努メテ和親ヲ保ツヘシト雖之ヲ扶援持導スルニ方リテハ其ノ特性ト近来ノ傾向トヲ考慮スルヲ要ス
ハ、聯合軍ノ協同ニ関スル事項ハ随時協定ヲ遂ケ之ヲ報告シ事宜重大ナルモノハ決定前請訓スヘシ

三、治安ノ維持ハ露国政治団体竝軍隊ヲシテ之ニ当ラシムルヲ本旨トス
治安交通ヲ維持スル為兵力ヲ使用スルニ方リテハ必要ノ度ト軍ノ兵力トニ稽ヘ適宜其ノ行動ヲ律スヘシ

四、鉄道ノ守備ニ関シテハ列国軍トノ協定ニ基キ之ヲ処理スヘシ
鉄道ノ守備ハ外敵ニ対スル鉄道ノ防護ヲ本旨トシ其ノ経営ニ干与スルモノニ非スト雖軍事上ノ必要已ムヲ得ニ分チ各区処ノ系統ヲ立ツルニ方リ九月八日作命第（四十二）号訓令ニ基キ所管事項ニ関シ左ニ指示ス

一、対露政策ニ関シ閣議ニ於テ決定シタル事項ハ別紙（註）ノ如シ

（一箋附）
二、極東露領ニ於ケル過激派ノ跋扈ハ直ニ累ヲ満洲ニ及ボシ延テ東洋禍害ノ因ヲ為ス故ニ三州ノ秩序ヲ維持スルハ実ニ帝国自衛ノ為緊急ノ要件ナリト謂フヘク軍事行動地域内ニ於テハ武装セル過激派団体ニシテ苟モ治安ヲ紊乱スルモノアルトキハ露国軍ヲシテ之ニ当ラシメ要スレハ支援ヲ与ヘテ速ニ秩序ヲ回復スルヲ要ス特ニ後貝加爾地方ノ秩序ノ崩壊ハ延テ三州ヲ混乱ニ陥ラシムルコトニ注意スヘシ

三、極東露領ハ将来帝国臣民ノ満蒙ヲ根拠トシテ経済的発展ヲ企図スヘキ疆域ナリ派遣軍ノ各機関ハ帝国ノ外交官憲ト協調シテ邦人ノ通商企業ヲ保護シ所在ノ利源、列国ノ経済的施設ニ関スル資料ヲ適時報告スヘシ

四、西伯利鉄道ノ交通ヲ確保スルハ露国ノ復興及経済的援助上ノ関係深ク外交上殊ニ重大ナル意義ヲ有ス苟モ之カ保護ニ任スルモノハ鉄道業務ノ内容ニ干渉セサルト

共ニ鉄道業務監督機関ト密接ナル聯絡ヲ保持シ勉メテ其ノ業務ヲ援助シ何人タルヲ問ハス交通ヲ阻害スルノ結果ヲ生スヘキ行動ヲ為スモノアルニ方リテハ帝国ノ外交官憲ト協議ノ上速ニ右行動ヲ矯正スルノ方法ヲ講スルコトヲ要ス（但シ露国官憲ト鉄道業務監督員トノ意思ノ疎隔ニ基因スルモノニ対シテハ直ニ制裁ヲ加フルコトナク機宜ノ処置ヲ取ルヲ要ス）

（附箋二）

五、露国ノ復興ハ先ツ其ノ穏健分子ヲ保護シ露人ヲシテ自ラ奮起シテ之ニ当ラシメザルヘカラス徒ニ他ノ援助ニ依頼シテ自利ヲ図リ或ハ党同伐異ヲ事トスルハ甚タ執ラサル所ナリ宜シク之ヲ指導シテ一致結合穏健ナル発達ヲ遂ケシムルヲ要ス

軍事行動地域内ニ於ケル露国官憲ノ行政ハ民意ト旧慣トヲ顧慮シ要スレハ同官憲ヲ支援シテ施政ヲ容易ナラシメサルヘカラス而シテ将来「オムスク」政府カ其ノ勢力ヲ保持シ得ルト否トニ拘ラス或ハ極東露領ニ同政府ヲ収容シ若ハ新勢力ノ樹立ヲ見ルニ至ルト雖露国ノ民心ハ逐次民主主義ニ赴クハ争フヘカラサル傾向ナルニ顧ミ常ニ人心ノ趨向ヲ察シ之ニ順応シテ措置宜シキ

ニ適セサルヘカラス

六、露国軍隊ノ健全ナル発達ハ復興ノ要義ナリ今ヤ我軍ノ支持ニ依リ編成セラレタルモノ尠カラサルモ未タ其ノ用ヲ充スニ足ラス能力モ亦極東ノ秩序ヲ維持スルコト能ハサルヲ以テ逐次之ヲ統一完備セント欲ス而シテ近時該軍ノ行動往々常軌ヲ逸シ露人ニ圧迫ヲ加ヘ農民ヲシテ過激化セシムルノ傾向ナキニアラス斯クノ如キハ露軍建設ノ目的ニ反シ延テ累ヲ我国ニ及ホスモノナリ宜シク之ヲ指導扶掖シテ健全ナル発達ヲ遂ケシメ帝国軍隊ト密接ナル協調ヲ保持セシムシ

七、我軍隊ト露官民トノ接触ヲ良好ナラシメ我出兵ノ真意ヲ露人ニ普伝スルハ帝国ノ誠意ヲ了解セシムル所以ナリ将来特ニ意ヲ用ユルヲ要ス施療其ノ他救恤等亦必要ナル手段ナリ

八、帝国軍隊ト外人トノ関係ハ其ノ風俗習慣ヲ異ニシテ言語相通セサル為従来事故ヲ発生シタルコト尠カラス将来勉メテ之ヲ防止スルト共ニ若シ事端発生セハ所在官憲速ニ適宜ノ処置ヲ講シ累ヲ国交ニ及ホササルコトニ留意スルヲ要ス

九、支那軍隊ニ対シテハ勉メテ之ト協調ヲ保ツト共ニ露国ハ勿論他ノ諸国カ北満及蒙古地方ニ政治的勢力ヲ扶殖セントスルニ方リテハ同軍ヲシテ之ヲ防圧セシムヘシ又東支沿線ニ於ケル支那軍隊ノ倨傲ナル態度ヲ戒メ我軍ノ行動ヲ妨害セシメサルコトヲ勉ムヘシ

十、軍隊ノ駐留久シキニ従ヒ或ハ軍紀風紀ヲ弛緩シ国軍ノ威信ヲ損スルコトナキヤヲ恐ル各級指揮官ハ須ク部下ヲ戒飭シテ毫モ遺憾ナカラシムヘシ又外人ニ接スルコト多キヲ以テ特ニ過激思想ノ感染ニ注意スルヲ要ス

十一、極東ノ現状ニ於ケル我軍事行動ハ固ヨリ帝国ノ外交ト順応セサルヘカラス近時「オムスク」ヘ最高外交官ヲ派遣セラルルヲ以テ特ニ之ト協同シ我政策ノ遂行ヲ容易ナラシメ効果ヲ永遠ニ収ムルヲ要ス

陸軍大臣

（欄外註記）

九月五日陸相ノ言明ニ依レハ従来ハ行政ニ関スル事項モ参謀本部ヨリ訓示シ来レルモ今後ハ一切之ヲ廃シ統帥以外ノ事項ハ陸軍大臣ヨリ訓示スルコトトセリ（内田大臣印）

（附箋一）

軍事行動地域、「作命第　号訓令」ニ於テ規定セラルルヲ以テ疑義ヲ生セス

（附箋二）

行政ハ軍憲ノミナラス「ホルワット」ノ如キ或ハ地方自治体ノ如キモノモアル故「露国官憲」トセリ

註　対露政策ニ関スル閣議決定トハ前提八月十四日ノ閣議決定ヲ指ス

六一三　九月二十四日　大井浦潮派遣軍司令官ヨリ田中陸軍大臣宛

西比利亜鉄道守備問題、過激派ニ対スル態度等ニ関シ在本邦米国大使「モーリス」氏トノ会談ニ付報告ノ件

拝啓爾後益々御清武之段奉欣賀候小生事去十四日海陸無恙当地安着仕候間御安神被下度候御地滞在中は不一方御芳情を辱ふし奉拝謝候偖当地政変に関しては公報を以て報告仕候通今回は物にならさるやと被存候

米国大使「モーリス」は「スチーブンス」を帯同し鉄道守備問題に付去二二日談話仕候に付小生は鉄道を列国にて管理する主旨より見れは鉄道守備隊は本任務の外鉄道運行に関しても及ふへき丈け之に援助を与ふるを以て主義とせさるべからず然れとも運行の障碍に関し発生する個々の事件は其の都度之を公明正大に審査し主として鉄道運行に便な

る如く処理せさる可からず唯駅長等の要求指示に因り事の如何に関らす守備兵力を之に用ゆる如きは不可なり若し此主旨に同意にして之を守備部隊に徹底せしむる希望なれは守備部隊には小生より篤と指示を与ふ可しと述へしに両人とも之に全然の満足を表せり尚該部隊には今後鉄道委員会の議事とスチーブンス等の定めたる規則等は通報あり次第之を当該部隊に移牒し可成鉄道の運行を支障なからしむる考なりと答へ置けり

右談話の後小生は大使に向ひ一個人として要旨左の如き談話を試みたり

一、鉄道内部の障碍除去に対しては前述の通なるか外部より来る過激派の鉄道妨害に対し之を排除する貴見如何

答、鉄道に妨害を加ふるものは何物たるを問はす絶対に之を排撃す如何に遠く出てて之を討伐すへきやは日米両指揮官に於て協議せらるへきものなり

二、貴官は「オムスク」より帰来せるが現下同政府の施政には満足せらるるや

答、民意を尊重する為め速に議会を召集すへきことは熱心に勧告し置けり

三、「チェック」帰還後「バイカル」以西の鉄道守備を如何にせは可なるや

答、然る時は日米両軍にて之に代るより外なけむ

四、「イシム」戦線に於て「オムスク」政府軍か目下交戦中なる過激派を撃攘する為同政府を援助する意志ありや

答、援助の意志なし若し之をなせは連合軍対露国との戦争を引起す恐れあり

五、西比利亜住民の疲弊は極度に達し物資は全然枯渇せり之を救済する良法なきや

答、浦港を列国の管理に置き委員を組織して各国より物資を輸入し之を以て窮民を救済するを可とす而して其代価は露国政府の負債に帰すへきものなり

六、幣制整理に関し貴見承り度し

答、「クレヂート」の運用に依り幣制を整理すへきも之れか為には「オムスク」政府承認問題を生す同政府は斯の如き重大問題を解決するには如何にも貧弱なり

右の談話中小生も亦独り物資の配給のみならす商事会社等を地方各要所に開設して地方物資を吸収するの便を開き又西比利亜天賦の富源を列国承認の上之を基金に擬して紙幣を発行せしむること等に就き意見を開陳せしに何れも同論なる旨を答へ候

以上「モーリス」との談話中得たる機微を綜合して彼の意中を判断せは恐らくは左の結論に達することと存せられ候

一、過激派に対しては鉄道に妨害を加ふるときは之を敵とするも否らされは之を敵とせさること故に鉄道にして妨害を加へされは西比利亜に如何なるものが政権を掌握するとも否過激派政府存立することありとするも妨げなしとの考ならん

二、西比利亜の将来は漸次国際管理の方法に導くを可とする考なるやにも了解せらる

右の談話は小生と「モーリス」と交換したる要点にして固より個人の座談に過きすと雖も目下「モーリス」が大要如何なる考を有するやを窺ひ知るを得へし現下日米の関係に於ては「モーリス」と隔意なく意見を交換するを必要なりと認むる筋も有之候に付差支なき限り小生よりも胸襟を開き候次第に御座候

以上御参考迄に御報申上候参謀総長へは別に不申上候間必要なれは御伝へ被下度候其の内天晴御慎重の程奉希上候

匆々拝具

九月二十四日

大井成元

田中大臣閣下

六一四　十月一日　在本邦露国大使ヨリ内田外務大臣宛

鉄道保護ノ為日本軍ヲイルクーツク以西ニ派遣方要請覚書送付ノ件

附属書　右覚書

October 1, 1919.

AMBASSADE DE RUSSIE

TOKIO

My dear Viscount,

I send you herewith, as you have asked me this afternoon to do, a "résumé" of the contents of the telegram which I have received from Omsk on the question of guarding the railway line to the west of Irkutsk.

Yours most sincerely,

B. Kroupeusky

(附属書)

在本邦露国大使ヨリ内田外務大臣宛覚書

AMBASSADE DE RUSSIE.

Le Général Janin a prévenu par écrit le Commandement en Chef Russe que l'évacuation de la Sibérie par les tchéco-slovaques allait être accelérée et a insisté sur la nécessité de les remplacer sans délai par d'autres troupes, faute de quoi les lignes de communication risqueraient d'être sous le coup d'une interruption.

D'autre part, les autorités militaires russes déclarent que la situation actuelle des opérations militaires non seulement ne permet pas d'employer à cet usage des troupes qui se trouvent sur la linge d'action, mais rend même absolument nécessaire de recourir à la concentration sur le front de toutes les unités disponibles.

Dans ces circonstances M. Sazonow a été chargé de s'adresser au Censeil Suprême des Cinq Puissances à Paris en se référant à l'article 2 de l'arrangement du 14 Mars 1919 concernant la sauvegarde du chemin de fer, et de faire ressortir la nécessité qu'un mandat pour la protection militaire de la ligne à l'Ouest d'Irkutsk soit conféré par le Conseil au Japon ou aux Etats-Unis au nom des Cinq Puissances. Tout atermoiement dans cette question pourrait placer le Gouvernement d'Omsk dans une situation sans issue et réduire à néant tous les succés reportés récemment sur le front au prix de tant d'efforts et sacrifices.

L'Ambassadeur de Russie à Tokio est, de son côté, chargé de soumettre ces faits au Gouvernement Impérial Japonais en exprimant l'espoir qu'il voudra bien les prendre en considération et consentir à envoyer ses troupes à l'Ouest d'Irkutsk pour assurer la protection du chemin de fer.

Tokio, le 1 Octobre 1919.

(欄外註記)

大正八年十月一日クルペンスキー来談ノ趣旨ヲ「パラフレーズシテ(当方ノ請求ニ応シ)同日付ニテ翌朝送リ越シタルモノナリ

(右和訳文) (註　仮訳文ナリ)

「ジャナン」将軍ハ「チェッコ、スロヴァキア」軍ノ西比利亜撤退ノ促進セラルヘキコトヲ書面ニテ露国陸軍総司令部ニ通告スルト同時ニ至急他ノ軍隊ヲシテ之ニ代ラシムルノ必要ヲ主張シ左ナキトキハ交通線ハ直チニ切断セラルルノ危険アリト言ヘリ

一方露国陸軍官憲ハ刻下ノ作戦状態ニテハ戦線ニアル軍隊ヲ之ニ代ラシムルヲ得サルノミナラス寧ロ使用シ得ヘキ一切ノ軍隊ヲ戦線ニ集中セシムルノ必要アリト言ヘリ

右ノ如キ事情ナルニ依リ「サゾノフ」氏ハ鉄道ノ保護ニ関スル千九百十九年三月十四日ノ取極第二条ヲ援用シテ在巴里五国最高会議ニ請願ヲ為シ「イルクーツク」以西ニ於ケル鉄道ノ軍事的保護ノ為同最高会議ヨリ五箇国ノ名ニ於テ日本若ハ合衆国ニ委任ヲ与フルノ必要ヲ力説スヘキ旨命令ヲ受ケタリ

右問題解決ノ延遷ハ「オムスク」政府ヲ窮地ニ陥ラシメ少ナカラサル努力ト犠牲トニ依リ最近戦線ニ於テ得タル勝利ヲ全然無効ニ終ラシムヘシ

東京駐劄露国大使モ亦本件ヲ日本帝国政府ニ照会シ帝国政府ニ於テ右ノ事実ヲ考量セラレ鉄道保護ノ為「イルクーツク」以西ニ軍隊ノ派遣ヲ承諾アランコトヲ希望スル旨申入ルル様訓令ニ接シタリ

千九百十九年十月一日東京ニ於テ

六一五　十月六日　内田外務大臣宛ヨリ在本邦露国大使

イルクーツク以西ノ日本軍派遣問題ニ関シ日本政府ノ迅速ナル決定ヲ懇請ノ件

AMBASSADE DE RUSSIE

TOKIO　　October 6, 1919.

My dear Viscount,

The Omsk Government being very anxious to have an answer with reference to the dispatch of Japanese troops for guarding the railway west of Irkutsk, I should be very grateful if you would kindly obtain an early decision of the Imperial Government in this matter, the purport of which I hope you will kindly communicate to me as soon as possible.

I may add that according to further information received by me from Omsk it is stated that foreign troops to guard the railway will be required only for a period not exceeding six months during which time a sufficient number of Russian troops will be made ready for that purpose.

Yours very sincerely

B. Kroupensky

六一六　十月十日　在日本露国大使ヨリ外務省宛

イルクーツク以西ニ日本軍派遣ノ要請ニ対シ回答ノ件

Aide-Mémoire.

Le Gouvernement Impérial du Japon se rend parfaitement compt de l'état de choses sur lequel Son Excellence l'Ambassadeur de Russie à Tokio a bien voulu attirer l'attention du Ministère des Affaires Etrangères par sa note du 1er courant, relative à l'envoi de troupes japonaises à l'Ouest d'Irkoutsk. Une note du Ministère des Affaires Etrangères en date du 22 Juillet dernier expliquait l'impossibilité d'envoyer des troupes japonaises dans cette région. Pourtant, à la suite de la récente demande russe, le Gouvernement Impérial n'a pas manqué de se livrer à un examen nouveau et minutieux, vu la portée et l'importance de la question. Mais, à son grand regret, il se voit dans l'impossibilité de se départir de l'attitude qui a été définie dans la note précitée du 22 Juillet.

Quoiqu'il doive s'en tenir à sa résolution de limiter ses opérations militaires à l'Est du Baïkal, le Gouvernement japonais n'en reste pas moins désireux de voir se réaliser en Russie une prompte reconstitution politique et économique. Et, le Gouvernement japonais espère vivement que les Autorités russes trouveront d'autres moyens pour faire face à des difficultée qui pourraient se produire et compromettre la sécurité des voies de communication à l'Ouest d'Irkoutsk, se l'armée tchécoslovaque évacue la région en question.

Tokio, le 10 Octobre 1919.

(右和訳文)（註　仮訳文ナリ）

覚　書

日本政府ハ「イルクーツク」以西出兵ノ件ニ関シ十月一日露国大使閣下ヨリ内田外務大臣ニ申出テラレタル諸種ノ事情ハ充分之ヲ諒トスルモノナリト雖「イルクーツク」以西ニ日本軍隊ヲ派遣セムトスルノ不可能ナルハ曩ニ七月二十二日附外務省覚書ニ於テ述ベタル如クナルカ今回ノ提議ニ対シテモ篤ト慎重ナル考慮ヲ加ヘタル結果依然前回ト同様ノ趣旨ヲ以テ回答セサルヲ可カラサルハ日本政府ノ深ク遺憾トスル所ナリ

日本政府ハ此ノ如ク其ノ軍事行動ノ範囲ヲ貝加爾以東ニ局限セムトスル決意ヲ守持スルノ外ナキ地位ニ在リト思惟スルモ露国ノ政治上及経済上ニ於ケル復興ヲ熱心ニ希望スル至情ヨリシテ「チェック」軍ノ撤退ニ依リ惹起セラルルコトアルベキ「イルクーツク」以西ノ交通障害ニ関シテハ該地方交通ノ安全ヲ保持スル為別種ノ方策ニ就キ露国官憲ニ於テ更ニ一段ノ考慮ヲ尽サレムコトヲ希望セサルヲ得ス

六一七　十月十四日　在米国田内外務大臣ヨリ出張時代宛（電報）

中国鉄道、中国新借款団組織及西比利亜ニ於ケル日米提携ノ諸問題ニ関スルロング国務省第三次官ノ内話報告ノ件

第七三二号　（十月十七日接受）

十三日第三次官「ロング」ヲ食事ニ招キ両人限リニテ懇談ヲ交ヘタル際彼ノ内話セル事柄中注意ス可キ点左ノ通リ電報ス

(一)先般上院ノ決議ヲ以テ支那ノ鉄道ニ関スル商務省嘱託 Paul Witham ノ報告書ヲ上院ニ廻附方大統領ニ申出タルモ大統領ハ公益ト両立セザル理由ヲ以テ之ニ応ゼザリシ処十二日上院ニ於テ Orandegee 之ニ対シ攻撃演説ヲナシ「ロッジ」ノ如キモ大統領ノ措置ハ日本ノ利益ヲ擁護スルモノナリトノ批評ヲ加ヘタルガ該報告書ハ世上ニ噂セラルルガ如ク支那ノ鉄道ヲ neutralize シ日本ノ企画ヲ妨ゲントスル趣旨ニ非ズシテ単ニ支那ノ鉄道ヲ standardize シ其ノ連絡運用ヲ充分ナラシメントスル技術的見地ヨリ記述シタルニ過ギズ従テ之ヲ世上ニ発表スルモ別段差支ナキ性質ノモノニテ商務長官ノ如キ当初直ニ公表セン考ヘナリシモ

米国政府鉄道経営方法ニ関シ研究シタル事項ヲ公表スルハ無益ノ誤解ヲ来ス虞アリト認メ国務省ニ於テ該報告書ヲ取リ上ゲ保管スルコトニ決定シタル訳合ナリ㈡満蒙除外問題ニ関シ在英大使ヨリ英国政府ニ向テ満蒙ノ地域ニ関シ具体的ニ説明ヲナシタル次第ハ国務省ニ報告到着シ居ルモ（此ノ点ハ「ロング」ヨリ切リ出シタリ」米国政府トシテハ満蒙ノ境界又ハ日本ニ於テ希望其他ノ見地ヨリ留保ヲ必要トスル事情如何等ニ付具体的説明ヲ得ルコトハ別ニ必要ト認メ居ラズ米国政府トシテハ其ノ伝来的政策及国論ノ大勢ニ顧ミ新借款団組織上如何ナル留保ニモ同意シ得ザル立場ニアリ従而日本ノ留保提議ニ対シ頗ル当惑シ居ル次第ナリ新借款ニ関シテハ既ニ巴里会議ニ於テ「サブスタンシャルプログレス」ヲナシタル事業、公衆ヨリ募集セザル公債及支那ノ個人又ハ会社トノ借款ヲ除外シ居リ従而日本ニ於テ無条件ニテ新借款団ニ加ハルモ満蒙ニ於ケル地歩擁護上格別重大ナル影響ナカル可シト思考ス尚日本ノ一部ニハ新借款団ノ動機ハ満蒙ニ於ケル日本関係ノ鉄道ヲ neutralize スルコトヲ目的トスルモノナリト誤解シ居ル向アル趣ナルガ一部米人中斯ル考ヲ有シ居ルモノナシトハ限リ難キモ米国政府ノ方針ハ支那ノ利益ノ為メ支那全部ヲ目的トシ国際財団ヲ運用シ度キ考ニテ決シテ支那ノ一地方ヲ目的トシ又ハ或一外国ノ地歩ヲ抵制セントスルガ如キ野心アル次第ニアラザルニ付日本側ニ於テ虚心担懐本問題ニ臨マレンコトヲ切望ス㈢西比利亜ニ於ケル日米提携意ノ如クナラザルハ日米国交ノ大局ニ顧ミ頗ル憂慮ニ堪ヘズ最近大井司令官ヨリ其ノ部下ニ対シ米国軍隊トノ提携ニ関シ特ニ訓令ヲ発セラレタリトノ報道ヲ耳ニシ愉快ニ感シ居ルモ右訓令ノ精神果シテ完全ニ実現セラル可キヤ既往ニ顧ミ未ダ疑ナキニ非ズ米国政府ハ原内閣ノ公正ナル方針ニ対シテハ充分ナル同情ト信頼トヲ有スルモ動モスレバ陸軍側ノ為メ其ノ方針ノ実行上ニ障碍ヲ受ケツツアルガ如ク見受ケラルルハ甚ダ遺憾ニ堪ヘズ国務省ノ見ル処ニテハ西比利亜ニ於ケル日本陸軍ノ行動ニ就テハ原総理及外相ニ於テ明瞭ニ了解シ居ラザル節アルヤニ認メラル云々

以上㈡㈢ニ対シテハ本官ヨリ夫々相当弁明ヲナシ殊ニ米国軍隊ノ不都合ナル一例トシテ彼ノ田中支隊ヲ全滅セシメタルガ如キ日本軍人ハ勿論一般国民ニ深大ナル悪感ヲ与ヘタリト述ベタルニ「ロング」ハ本事件ハ実際米国軍ニ於テ徒ニ訓令ヲ墨守シ臨機応変ノ処置ヲ誤リタルモノニテ自分一個トシテハ頗ル遺憾ニ感ジ居ル旨ヲ告白セリ其ノ事情ハ腹蔵ナキ個人的談話ノ結果ニシテ露骨ニ渡ル点アルモ御参考迄ニ其ノ儘報告スル次第ニ付絶対ニ外間ニ洩レザル様御配慮相願度シ再三ノ実例アルニ付念ノ為メ申添フ

英仏ヘ転電セリ

六一八　十月二十日　在イルクーツク二瓶領事ヨリ内田外務大臣宛

日本ノ対西比利亜経済的進出ノ方策ニ付意見具申ノ件

附記　十一月十日附在チタ古沢副領事調書

対西伯利政策管見

公第三〇号　（十一月六日接受）

大正八年十月二十日

在イルクーツク

領事　二瓶兵二㊞

外務大臣子爵　内田康哉殿

対西比利亜策卑見送付ノ件

別紙小官対西比利亜策卑見茲ニ及御送付候条御査閲相成度此段申進候　敬具

（別紙）

対西比利亜策卑見

欧露ノ商工業者ハ永ク「ウラル」ノ富源ノ開発ニ熱中シ西比利亜ヲ顧ルノ暇ナク西比利亜（欧露ニテハ具加爾迄ヲ西比利亜ト称シ具加爾以東ハ後具加爾地方、沿黒竜地方ト称シ或ハ総括シテ極東ト称ス）ハ罪人ノ流謫地、毛皮ノ産地トシテ知ラレタルニ過キス然ルニ西比利亜特ニ西部西比利亜ノ農業牧畜発達シ住民ノ購買力次第ニ増進シタルト露国ノ極東政策ニ依リ国民ノ注意力東方ニ転セラルルニ至リタル結果欧露特ニ莫斯科、「ワルシャーワ」ノ商工業者ハ西比利亜ニ於ケル販路ノ拡張ニ努メ西比利亜鉄道工事完成スルヤ彼等ハ浦潮自由港制ヲ廃止シテ西比利亜ノ市場ヲ独占シ外国製品ヲ駆逐セント企テ明治四十二年ニ至リ漸ク其目的ヲ達シ爾来西比利亜ニ輸入セラルル外国品ハ略ボ欧露ト同様ノ保護関税ヲ課セラルルニ至レリ然レトモ浦潮自由港制ノ廃止ハ西比利亜ニ保護ヲ要スヘキ工業勃興シタルカ為ニアラス欧露商工業者ノ運動ニ因リ彼等ヲシテ西比利亜ノ市場ヲ独占セシメ外国商品ヲ駆逐セントスルノ趣意ニ出

タルモノナルコト前述ノ通リナルヲ以テ其後幾年ヲ経過スルモ西比利亜ニハ殆ト何等製造工業ノ見ルニ足ルモノナク製造品ハ殆ト全部之ヲ欧露ノ供給ニ俟チ外国品トシテ主ニ貝加爾以東ニ独乙商品及僅少ノ日本及米国品ノ輸入ヲ見タルニ過キス（日本品ノ主ナルモノハ果物及米、石炭等ニシテ米国品ノ主ナルモノハ農具其他ノ機械類ナリ）西比利亜ハ依然トシテ鉱物（主トシテ金及石炭）バタ、毛皮、木材、魚類ノ産地トシテ今日ニ至レリ故ニ欧洲大戦ノ結果独逸品ノ供給杜絶シ革命ノ結果欧露ノ産業組織全然破壊セラレ昨年以来ハ過激派ニ対スル戦争ニ依リ欧露トノ交通全ク断絶シ西比利亜ハ茲ニ製造品ノ供給ヲ主トシテ日本及米国ニ仰クノ外無キニ至レリ

斯ノ如ク西比利亜ハ日本商品ヲ要シ日本亦西比利亜ニ其商品ノ販路ヲ拡張センコトヲ希望ス然ルニ実際ニ於テ日本商品ノ輸入思ハシカラサルハ何ソヤ日本商人ノ努力足ラサルカ為メカ曰ク然ラス其ノ根本原因ハ露国貨幣制度ノ紊乱ニ由リ紙幣ノ対外相場極度ニ暴落シタルト対外貿易政策当ヲ得ス之カ為メ極度ニ輸出入ノ「バランス」ヲ失ハシメ貿易ノ決済ヲ殆ト不可能ナラシメタルニ在リト謂ハサルヘカラス然ルニ西比利亜ノ実状ヲ視察シタルモノ多クハ単ニ「チューリン」、「クンスト、アリベルス」ヲ見物シ「ロマノフ」時代モ今日モ留紙幣ハ同シク留紙幣ナリト心得居ル支配人乃至店員ヨリ西比利亜ニ於ケル本邦品ニ対スル粗製濫造ノ攻撃並ニ西比利亜ニ於テ需要セラルル本邦商品ノ多種多量ナルヲ聞キ西比利亜発展ノ美名ノ下ニ商民ヲ駆リテ対西比利亜貿易ニ依リ支払ヲ拒絶セラレタル手形ニ等シキ現在ノ「オムスク」紙幣ヲ握ラシメント努メツツアルハ吾人ノ了解ニ苦シム所ナリ対西比利亜貿易不振ノ原因ハ決済ノ困難ニ在リ西比利亜住民ノ対外支払能力増進シ対外貿易決済ノ途立タハ本邦商品ハ自ラ西比利亜ニ流入スルニ至ルヘシ而シテ此ノ目的ヲ達スルノ途ハ

（第一）　兵力ノ援助ニ依リ西比利亜ノ秩序ヲ維持スルコト

（第二）　オムスク政府ヲ承認シ借款ニ依リ其財政ヲ援助シ特ニ貨幣制度ノ確立ヲ計ラシムルコト

（第三）　オムスク政府ニ交渉シ食料品ヲ除ク一般物資ノ輸出ヲ自由ニシ貿易ノ決済ヲ容易ナラシムルコト尚出来得ヘクンハ従来ノ保護関税ヲ廃止シ適度ノ財政関税ヲ課スルニ止メシムルコト

（第四）　外国特ニ日本ノ資本及労力（朝鮮人）ヲ輸入シ富源ノ開発ヲ計ラシムルコト

（第五）　市街地ノ土地所有権ヲ認メシメ以テ外国商人ノ居住営業ノ根底ヲ安固（西比利亜一般ニ家屋欠乏シ無謀ナル家屋ノ徴発行ハレツツアリ）ナラシムルト同時ニ土地建物ノ価格ヲ維持シ都市経済界ニ活気ヲ与フルコト

ニ在リト思考ス西比利亜ノ富ハ土地ニ在リ西比利亜ノ住民カ将ニ破産セントシツツアル今日外国人ニ土地ノ売買ヲ許スハ依テ以テ彼等ノ支払能力ヲ増シ破産ヲ免レシムルト同時ニ外国人ノ居住営業ノ根底ヲ確実ナラシメ都市経済界ニ生気ヲ添フル所以ナリ（第五）西比利亜ノ富ハ土地ニ在リ外国資本及労力ヲ利用シ鉱山森林等土地ノ富源ヲ開発スルハ住民ノ富ヲ増シ対外決済ヲ容易ナラシメ物資ノ窮乏ヲ免レシムル所以ナリ（第四）保護ノ目的物ヲ有セサル保護関税ヲ廃シ収入ヲ目的トスル適度ノ関税ヲ課シ輸出禁止品ヲ最少限度ニ制限シ輸出入ヲ自由ナラシムルトキハ必要ナル外国品ヲ容易ニ且安価ニ輸入スルコトヲ得ヘシ（第三）オムスク政府ヲ承認シ借款ニ依リ財政ヲ援助シ貨幣制度ヲ確立セシメ（第二）武力ニ依リ秩序維持ヲ助クルハ（第一）政権ヲ確立シ社会生活ノ根底ヲ確実ナラシムル所以ナリ

西比利亜経済援助ハ露国民ノ自助心ヲ萎縮セシムルノミナラス今日ノ援助程度ニテハ忘恩性ノ顕著ナル彼等ヲシテ援助ノ不十分ナルヲ批難セシムルノ結果ヲ招キ関係官公吏ニ破廉恥行為ヲ為スノ機会ヲ与ヘ折角ノ援助モ其効少キハ今日迄ノ実例ノ示ス所ナリ然レトモ従来ノ行掛リ上其継続ヲ必要ナリトセハ宜シク其事業ヲ赤十字ノ活動範囲ニ局限シ西比利亜ノ重要都市ニ赤十字救療所ヲ設ケテ若干ノ傷病兵ヲ収容シ或ハ各地ニ医員ヲ駐在セシメテ施療ヲ為サシメ若クハ単ニ調剤所ヲ設ケ医師ノ処方箋ヲ持参シタル一般人民ニ無代ヲ以テ医薬ヲ与フルト共ニ其成績ヲ時々地方新聞ニ発表スルノ程度ニ止ムルトキハ経費比較的少クシテ後日日本医師薬種店ノ西比利亜発展ノ基礎ヲ作リ一挙両得ナリト思考ス

（附　記）

十一月十日附在チタ古沢副領事調書

対西伯利政策管見

在チタ

副領事　古沢幸吉

本篇ノ要領

オムスク放棄後ノ西伯利政府

オムスク占領後ノ「ソヴィエート」政府

欧露ノ反過激派軍

日本ノ対西伯利政策

最近オムスク政府ハ赤衛軍ノ圧迫ニ耐ヘズシテ十月二十八日ノ閣議ニ於テ最高執政官、内閣及司令部以外ノ諸官衛ヲ「イルクーツク」ニ撤退スルコトニ決シタリト

赤衛軍ハ既ニ久シク中央亜細亜ノ同軍ト聯絡ヲ取ランコトヲ希望シ居タルモノ最近同軍ガ「ペトログラード」及莫斯科方面ニ於テ着々失敗ヲ重ネタル結果ハ反抗力ノ稀薄トナレル西伯利方面ニ向テ其活路ヲ見出シ且右聯繫ヲ容易ナラシメントスル素ヨリ当然ノ勢ナリト謂フベシ

吾人ハ「コルチャク」軍カ能ク頽勢ヲ挽回スルノ余力アリヤ否ヤヲ知ラズト雖モ各種ノ情報ヲ綜合スルニ「オムスク」ハ到底之ヲ赤衛軍ノ手中ニ委セザルベカラズト予想ス乃チ此ノ予想ノ下ニ吾人ハ西伯利乃至欧露一般ノ形勢ガ如何ニ変化スベキカ之ニ対スル帝国ノ政策如何ニ就キ以下聊カ研究ノ要領ヲ陳ベント欲スルモノナリ

従来西伯利政府ガ外国ノ援助ノ下ニ維持セラレ以テ今日ニ至リタルハ固ヨリ言ヲ俟タザル処ナルガ「イルクーツク」ヘ撤退後ニ於ケル同政府ノ運命ハ益々這般ノ援助ヲ必要トナシ之レ無クテハ到底一日モ存立シ能ハザルノ状態トナルベシト推測セラル而シテ聯合国モ従来ノ努力ヲシテ水泡ニ帰セシメズ将来之ヨリ何等カノ成果ヲ収メント欲セバ飽クマデ当初ノ政策ノ徹底ヲ期シ依然西伯利政府ニ向テ援助ヲ与フヘキコト固ヨリ其ノ処ナリトスベシ

抑々西伯利政府ガ「トムスク」及「クラスノヤルスク」ノ大都市要衝ノ地ヲ抛テ一挙ニ「オムスク」ヨリ「イルクーツク」ニ撤退セントスルハ単ニ万一ノ場合ヲ憂慮シタルモノニ過ギズシテ近ク大勢ノ挽回上同政府ノ当局ニハ何等カ成算ノ存スルモノアリヤハ素ヨリ知ルニ由ナシト雖モ這般撤退ニシテ一旦決行セラレ「オムスク」ヲシテ赤衛軍ノ手ニ委スルニ至ラン乎烏拉爾以東ノ回復ヲ図ランコト決シテ容易ノ業ニアラズ是ニ於テ吾人ハ西伯利政府ノ「イルクーツク」撤退ヲ以テ持久策ヲ意味スルモノトナスヲ至当ト認ム何トナレバ前記ノ事情アルノ外同政府ハ之ニ依リテ前方「アーチンスク」ニ至ルノ険要ヲ擁シテ戦線ヲ緊縮シ兵力ヲ節約シテ休養ニ就カシムルヲ得ベク又後方トノ距離ヲ短縮シテ其ノ聯絡ヲ緊密安固ナラシムルヲ得ベク而シテ従来ニ比シ政府ノ存立ヲ脅威セラルルノ危険内外共ニ著シク減省セラレ多少ノ安定ヲ贏チ得ベキヲ以テナリ

若シ右ノ推定ノ誤ラズシテ仮リニ西伯利政府ガ「アーチンスク」以東ヲ其勢力下ニ置クモノトナシ此際大ニ考慮ヲ要セザルベカラザルハ糧食問題トス「アーチンスク」ヨリ「イルクーツク」ニ至ル間ハ丘陵起伏露国人ノ所謂山地ヲ形成シ随テ耕地少ナキヲ以テ其糧食ハ従来多ク之ヲ西部地方ニ仰ギタリ近年「エニセイ」河ノ上流「ミヌシンスク」ヲ中心トスル肥沃ノ平原開拓セラレ穀物ノ産出高頓ニ劇増シ啻ニ「エニセイ」県住民ノ需要ヲ充スニ止マラズ「イルクーツク」県及後貝加爾州ヘモ其過剰部分ヲ搬出スルノ盛況ヲ呈スルニ至リタリト雖モ過激派騒乱ノ余殃田園荒蕪シ加之目下多数ノ避難民ヲ抱込ミタル此等一帯ノ地方ニ対シ単ニ同平原ノ産穀ノミニ依頼シテ需給ノ円満ヲ期シ得ベキヤ頗ル疑ナキ能ハズ現ニ昨今「オムスク」政府ハ「イルクーツク」「クラスノヤルスク」及「トムスク」ノ三市ニ対シテ五十万布度ノ麦粉及粒穀ヲ配給シタル事実アリ即チ此ノ一事ニ徴スルモ糧食欠乏ノ状況ハ之ヲ推断スルニ難カラザラン然ラバ此等ノ欠陥ハ何処ヨリ之ヲ補充スベキヤト云フニ極東各地就中北満州ヲ措キテ他ニ適当ノ地アルベシトモ思ハレズ此ノ意味ニ於テ今後西伯利政府ハ西方ニ於テハ「ミヌシンスク」平原ヲ扼スル「クラスノヤルスク」ヲ固守スルハ勿論東方ニ於テハ特ニ北満ノ中心市場タル哈爾賓ヲ重要視シ彼是経済関係ノ改善発展ニ就キ大ニ考慮スベキ必要ヲ生ズルニ至ラン

飜テ「オムスク」占領後ノ過激派ノ状態ハ如何アルベキヤト云フニ即チ東方「エニセイ」県地方ニ於テ西伯利政府ト接触ヲ保チ西方「ウォルガ」河ヲ前線トシテ欧露反過激派軍ト相対峙シ南方土耳機斯坦ヲ其勢力下ニ収メ是亦暫ク休養状態ニ入リ以テ欧露ニ於テ受ケタル創痍ノ恢復ヲ計リ又其政治的「プログラム」ノ修正整理ニ従事スベシ「オムスク」附近及其南方「ステップ」地方ガ農産畜産ノ無尽蔵ヲ以テ夙ニ国際市場ニ著名ナルハ玆ニ吾人呶々ノ言ヲ要セザル処又土耳機斯坦ガ近年忽チ棉花ノ一大産地ト化シ欧洲開戦前既ニ外国棉花ノ大部分ヲ露国内地ノ市場ヨリ駆逐シ近

ク棉花市場ノ独立ヲ見ルベク期待セラレタルハ経済界ノ驚異トシテ吾人ノ記憶ニ新ナル処乃チ過激派政府ハ欧露ノ労農ヲ招徠シテ此等各地ノ生産業ニ従事セシムベク而シテ烏拉爾地方ニ於テハ多年無限ノ宝庫トシテ西欧ノ企業者ヲ吸収シタル鉱業施設ヲ復興シ採鉱冶金ノ事業ヨリ兵器製造其他各種ノ製造工業ニ至ルマデ之ヲ自己ノ掌中ニ収ムルヲ得ベキヲ以テ同政府ハ茲ニ略ホ完全ナル自給自衛ノ鞏固ナル国家的基礎ヲ保有スルニ至ルベシト思惟セラル

唯此際欧露ヲ唱ヘタル反過激派軍ノ態度如何アルベキヤハ吾人ニ取リ又大ニ研究ノ余地アルベシ即チ稍具体的ニ之ヲ言ヘバ「ペトログラード」ヲ占領スベキ「ユデーニチ」軍乃至莫斯科入ヲ為スベキ「デニキン」軍等ニ於テ西伯利ニ入リタル過激派ニ対シ引続キ決定的討伐ニ従事スベキヤ否ヤト謂フニアリ吾人ノ観ルトコロヲ以テスレバ欧露ノ統一事業ハ旧帝都ノ占領位ニテ直チニ成就スベク爾ク容易ノモノニアラズ今後モ引続キ幾多ノ曲折ヲ経波瀾ヲ重ネ而モ果シテ如何ナル形式ノ下ニ実現セラルベキヤ蓋シ何人ト雖モ予測シ易カラザルトコロナランサレド右ハ此際暫ク之ヲ措キ差当リ実際問題トシテ内部ノ秩序ヲ維持シ「ソウェート」政府ノ暴虐苛政ヨリ辛ウジテ脱ガレタル困憊疲労ノ無数国民ヲ如何ニシテ堵ニ安ゼシムベキカハ極メテ重大且至難ノ事業トス殊ニ概括シテ欧露ト称スルモ地方ニ依リテ人種的歴史的文化的ニ差異甚シク従テ総テノ方面ニ於テ利害関係ノ一律ニ論ジ難キ事情ノ存在スル益々這般善後策ヲシテ複雑多難ナラシムルハ明確ニ予想セラルベク此点ニ於テハ「ソウェート」政府ガ植民地ヲ以テ自ラ許ス西伯利ノ住民ヲ駕御スルノ寧ロ便宜多キヲモ看過スベキニアラザルナリ

斯ク観察シ来レバ今後ノ露国ハ兎ニ角欧露ト西部西伯利（土耳機斯坦ヲ含ム）ト東部西伯利トノ三大部分ニ分裂シ当分全露ノ統一結合ヲ見ルノ希望ナク個々対峙ノ形勢ヲ持続スベシ而シテ欧露対西欧列強ノ関係ノ緊密ナルガ如クニ「ソウェート」露国ガ英国ニ対シテ特ニ重大ナル関係ヲ有スルハ彼ガ漸次其勢力ヲ蓄積シ波斯、亜富汗ヲ席巻シテ印度ノ脅威タルニ至ルベク予期セラレザルニ非ザルヲ以テナリ

形勢ノ推移以上ノ如クナルニ於テハ東部西伯利ニ割拠スル「コルチャク」政府ガ何時迄モ全露政府ヲ以テ自ラ居ルベキ理由ナキハ言フマデモナク寧ロ同政府ハ欧露ノ中心勢力ニ把握セル同志ヲ以テ新ニ全露ヲ統一スベキ政府者ト認メ之ト東西策応シ以テ両者間ノ中断勢力タル「ソウェート」露国ノ排除ニ努ムルヲ至当トスベシ而シテ此際聯合国ノ欧露若クハ西伯利ニ対スル政策ニハ多少ノ消長ヲ見ルベキモ元来反過激派的方針ハ夙ニ聯合国ノ一致スルトコロ各国内部ノ社会的情勢及対露ノ利害関係ヨリ打算スルモ今日ノ処何国ト雖モ無造作ニ該方針ヲ豹変シ露国援助ヨリ手ヲ引カンコト事情ノ許ストコロニアラザルベシ

日本ノ対露政策ハ東部西伯利ノ現状ガ維持セラルル限リ亦暫ク現状維持ヲ以テ進ムベシ蓋シ帝国ノ西伯利出兵ガ聯合国ノ顰ニ倣ヒ「チェック」救援ニ在リシト雖モ右ハ頗ル不徹底ノ理由ニシテ当時苟モ一隻眼ヲ有スルモノノ首肯セザリシ処率直ニ言ヘバ開ハ単ニ表面上ノ理由ニ止マリ実ハ列国ニ伍シテ相互ノ均衡ヲ保チ露国問題ニ対スル有力ナル地歩ヲ占メントシタルモノト解スベキナリ乍去西伯利ト我国トハ地理上聯合諸国ニ比シ甚ダ近邇セルガ如ク政治的ニモ経済的ニモ亦頗ル緊密ナル関係ニ在リ乃チ東部西伯利ニ於ケル治安ノ保持セラルルト否トハ同地方ハ勿論満蒙方面乃至朝鮮ニモ影響シ我国民ガ多年此等方面ニ扶植シ来リタル苦心ノ結果ヲ軽重スルニ至ルベク而モ是レ直チニ国家自衛ノ問題ニ触ルルモノナルヲ以テ帝国ノ対西伯利政策ハ将来聯合国ノ態度ノ冷熱如何ニ関セズ徹頭徹尾正々堂々ノ態度ヲ持シ帝国ノ利害ヲ標準トシテ打算セラルベク或ハ更ニ積極的行動ニ出ヅルノ必要ヲ認ムル機会アルベキヲ予想セザルヲ得ズ但シ西伯利政府ニハ最近「ガイダ」ヲ中心トスル反政府運動等モアレバ今次「オムスク」ノ放棄ニヨリ政府ノ威望益々失墜シ取テ之ニ代ラントスル野心家ノ続出スルコトナキヲ保セズ然レドモ吾人ハ決シテ這般方針ヲ変更スルノ必要ヲ認メズ蓋シ今日ノ露国ニ於テハ何人ヲシテ国柄ヲ把ラシムルモ其成績ニハ著シキ軒輊ナカルベキヲ以テ吾人ハ依然西伯利政府ヲ国際的目標ト定メ置クコトヲ便宜トスベク而シテ同政府モ結局其ノ東遷ニ依リテ勢力ヲ集約シ長鞭馬腹ニ及バザルガ如キ従来ノ境地ヨリ脱却シ得ベキヲ以テ吾ニ於テハ益々之ヲ鼓舞激励シ内部ノ結束ニ対シテ直接間接ニ援助ヲ与ヘ東部西伯利ニ於ケル自治ノ基礎ヲ鞏固ニスルニ努メ露国民心ノ帰嚮ヲ誤ラシメザルヲ緊要トスベシ

従来我国ガ露国ニ対シテ与ヘタル援助ハ精神的ニモ物質的

ニモ甚ダ広汎ナルモノニシテ国帑ヲ消燼シタルコト従テ大ナリ単ニ西伯利出兵以来ノ軍事費ノミニテモ既ニ二億円ニ達スベク而モ今日ノ処我カ撤兵ノ時期全然不明ニシテ将来此ノ方面ノ負担ガ更ニ幾何ニ達スベキヤ殆ド予測セラレザルナリ斯ノ如キハ帝国ノ財政上吾人ノ実際耐ユベカラザルトコロ此際何トカ我カ物質的損失ノ幾分ニテモ之ヲ補フノ方法ヲ講ズルハ緊急必要ノ事ニ属ス然リト雖モ吾人ハ隣邦ノ危機ニ当リ直チニ或種ノ利権ヲ要望スルガ如キハ固ヨリ多少ノ遠慮ヲ要スベク又国際的関係上日本ノ利権独占ガ到底不可能ナル事情ニモ鑑ミ吾人ハ唯東部西伯利ニ於ケル一般的経済状態ノ改善発展ヲ図リ之ニ依リテ自然大勢上ヨリ日本国民ノ利益ノ伸張ヲ期スルヲ以テ満足セザルヲ得ズ当方面ニ於ケル過激派ノ運動ヲ観察スルニ確乎タル主義ニ立ツモノト云ハンヨリハ寧ロ衣食ノ欠乏ヨリ来ル生活ノ不安ニ基クモノ多キガ如シ故ニ彼等ニ生活上ノ安定ヲ与フルニ於テハ彼等ハ化シテ良民トナリ地方ノ騒擾ハ自然鎮静ニ帰スルヲ得ベシ此ノ見地ヨリスルモ西伯利内地ノ産業ヲ復興シ経済状態ノ改善ヲ計ルコト亦焦眉ノ急務ナリトス

東部西伯利ノ経済発展策トシテ吾人ハ第一ニ自由港制ノ復活及内地商工業ノ自由開放ヲ主張セザルヲ得ズ而シテ這般ハ直接露国財政ノ根本策ニモ交渉ヲ有スルヲ以テ帝国政府ハ最近適当ノ機会ニ於テ西伯利政府ニ対シ何等腹蔵隔意スル処ナク最モ懇談的ニ前記日本ノ財政的事情ヨリ国民ノ希望ニ及ビ又露国住民ヲシテ生活上ノ安定ヲ得セシメンニハ尋常姑息ノ手段ニ依リ一時ヲ弥縫スルノ刻下ノ危機ニ処スル所以ニアラザルコトヲ切実ニ忠告シ同政府ノ諒解ノ下ニ断然右ニ問題ヲ解決セシムルヲ以テ得策ト認ム但シ本問題ニシテ解決セラレンカ西伯利ノ経済界ニハ一層激烈ナル国際的競争ヲ誘起スベキコト固ヨリ自然ノ勢ナリト雖モ吾人ハ日本ガ其地理的絶好ノ位置ト最近露人ノ心胸ニ哺育シツツアル良好ナル感情トヲ利導シ這般競争場裏ニ於テ最モ優勝ノ地歩ヲ占メ極メテ大胆ニ馳駆スルコトヲ得ベシト信ズルモノナリ

六一九　十月二十九日　在オムスク加藤大使ヨリ内田外務大臣宛（電報）

オムスク政府ノ依頼ニ依リ仏国ジャナン将軍ヨリ西部西比利亜ヘノ日本軍派遣方申出ニ付請訓ノ件

第二五七号　（十月三十一日接受）

十月廿八日仏国将軍「ジャナン」来訪「オムスク」政府ヨリ非公式依頼ヲ受ケタリト前置シテ曰ク

当方面ノ戦況ハ頗ル不利ニシテ目下全線ニ亘リ退却シツツアリ昨今「デニキン」軍ノ成効ハ却テ「オムスク」ノ危険ヲ増スノ勢アリ故ニ政府ハ此際日本ノ兵力援助ヲ切望シテ已マス

華盛頓ヨリノ来報ニ依レハ米国政府ハ日本ノ増兵ニ対シテ何等異議ナキニ付日本ハ相当ノ報償ヲ条件トシテ出兵ヲ承諾セラルル様致シタシ右報償ニ関シテ当国政府カ如何ナル具体案ヲ有スルヤノ点ニ付テハ自分ヨリ其ノ底意ヲ内探スルニ躊躇セスト

之ニ対シ本使ハ帝国政府カ両度迄貝加爾以西ノ出兵ヲ断リタルハ米国ノ異議ヲ顧慮スルニモアラス報償問題ノ如何ニモアラス実ニ帝国ノ立場ト国論ニ基クモノト信ス故ニ報酬条件ノ内探ハ暫ク見合セタシト答置キタリ

本件ニ関シ本使ノ心得置クヘキコトアラハ折返シ何分ノ儀御返電アリタシ

松平ヘ転電セリ

六二〇　十一月四日　在オムスク加藤大使ヨリ内田外務大臣宛（電報）

オムスク政府大蔵大臣日本軍ノ西部西比利亜派兵ヲ要望シ同大臣及仏国ジャナン将軍ヨリ其報償ニ付申出ノ件

第二六二号　（十一月五日接受）

往電第二五七号末段ニ関シ「ジャナン」将軍ハ本使ノ注意ニモ拘ラス露国側ニ向ヒ報償問題ヲ持出シタルモノト見エ其ノ後本使ヲ来訪シ「イルクーツク」以西鉄道守備ノ為日本ヨリ出兵セラルルニ於テハ露国政府ハ㈠樺太 Due 鉱附近ノ炭礦ヲ日露合辦及石炭ノ一部ヲ露国ニ供給スルコトヲ条件トシテ日本資本家ニ経営セシムルコト㈡日本政府希望ノ通漁業協約ヲ改訂スルコト礦山及森林開発ノ為日露合辦会社組織ニ関シ協議ヲ開始スヘシト申出タリ尚十一月一日大蔵大臣ハ本使ヲ来訪シ左ノ通内話シ且書面ヲ送附セリ

北満及極東露領ニ於ケル日露間経済的協力ニ関スル自分ノ計画即チ客年六月来横浜正金銀行ヲ経テ日本政府ニ交渉セル東支鉄道ノ各支線ノ敷設及北満及極東露領ニ於ケル鉱山森林ノ開発ニ関スル件ハ露国政府ノ全然承認スル所ナリ賓黒鉄道ニ関スル合辦契約ハ既ニ成立シタルモ極東ニ於ケル

現状ハ其ノ実行ノ延期ヲ余儀ナクセシムルニ至レルニ付此際該計画ノ一部即チ北満及極東露領ノ鉱山森林開発ノ件ヲ協議致シ度シ依テ露国政府ハ喜ビテ北樺太ニ於ル炭坑ノ日露合辦及漁業協約ノ改訂ヲ承諾スベシ茲ニ露国政府ノ最モ希望スル所ハ目下危険ヲ感ジツツアル地方即チ「クラスノヤルスク」ヲ中心トスル地方ニ於ケル西比利亜鉄道守備ノ為日本政府ガ直チニ出兵セラレン事及オムスク撤退ノ場合ニ政府ノ根拠地タルベキ「イルクーツク」市ニ駐兵セラレン事是ナリ尚右出兵ニ対スル費用ハ露国政府之ヲ負担スベシ云々

十一月六日外務大臣代理ニ面会シ前記大蔵大臣ノ書面ハ政府ヲ代表セルモノナリヤヲ質シタルニ同代理ハ政府ガ本件ノ交渉ヲ大蔵大臣ニ委任シタルハ彼ガ極東ニ於ル経済問題ニ通暁シ居ルニ鑑ミ便宜ナリト思考シタルガ為ナリト明言シ更ニ政府ノ名ニ於テ同書ヲ確認スル書面ヲ送リ越セリ右出兵ニ関シ両大臣ハ極力本使ノ助力ヲ求メタルニ付彼ガ熱心ナル希望ハ委細我政府ニ電報シテ其回訓ヲ請フベキモ斯ル遠隔ノ地ニ於ケル出兵ハ極メテ困難故政府ノ承諾ハ期待シ難シト申置タリ

本件ニ関スル帝国政府ノ御意向可成速ニ御回電相成度尤モ本使等撤退ノ場合電信遅着ノ虞アルベキニ付本使ニ対シ御発電ト同時ニ在日露国大使ヲシテ露国外務省ヘ電報セシムル様御取計相成度シ

松平ヘ転電セリ

六二一　十一月六日　内田外務大臣ヨリ在オムスク加藤大使宛（電報）

西部西比利亜ニ日本軍派遣方オムスク政府ノ要望ニ対スル我方ノ態度電報ノ件

第一二三号

貴電第二五七号ニ関シ

増兵拒絶ニ就テハ貴官御申越ノ通ナルカ最近帝国政府ハ「オムスク」政府ニ小銃弾薬被服通信器材等価格約二千九百万円ノ軍需品ヲ供給スルコトトナリ已ニ其ノ実行ニ着手シ居ルノミナラス尚貴官モ御承知ノ通最近朝鮮銀行及正金銀行ヨリ約五千万円ヲ「オムスク」政府ニ貸与スルコトニ契約整ヒ着々「オムスク」政府援助ノ実ヲ挙ケツツアリ右御含迄

六二二　十一月七日　大井浦潮派遣軍司令官ヨリ参謀次長宛（電報）

過激派軍ノ急進撃ノ前ニオムスク防禦ノ見通シ極メテ困難ナル状況ニ付報告ノ件

陸同文　十一月九日

電報　十一月七日

次長宛　在浦潮軍司令官

浦参第一九八二号

一、過激派軍ノ進撃依然急ニシテ「オムスク」軍ノ後衛ハ十一月四日「イシム」附近ニ於テハ「イシム」右岸ニ其ノ以南ニ於テハ概ネ「イシム」河ニ平行シ東方約三〇吉ノ線ヲ占領シセリ

二、「オムスク」軍ガ占領ヲ企図シアル陣地ハ「イシム」鉄道上「マスリヤンスカヤ」停車場（「イシム」東方四〇吉米）ヨリ「タルダ」河「シエレギノ」湖「クルガン」鉄道上六十二待避線「ペトロパウロフスク」東方約五〇吉ヲ経テ「チヤブルイコ」ニ亘ル線ナルモ敵ノ追撃急ナルガ為メ方面軍司令部ニ於テハ此陣地占領ハ殆ド不可能ナルヘシト思惟セリ

三、右陣地ノ後方ニ於テハ「オムスク」ヲ中心トシ「イルティシュ」河左岸ニ於テハ半径約二〇吉ノ薄弱ナル既設橋頭堡アルニ過ギス而モ「オムスク」ニ於テ整備スヘキ戦略予備四箇師団モ今尚整備ノ中途ニ在リ又「オレンブルグ」軍モ冬ニアラサレバ作戦行動ヲ開始シ得サル状態ナルヲ以テ「オムスク」西方ニ於テ永ク敵ヲ拒止スルノ見込殆トナシ

四、過激派軍ハ今ヤ全力ヲ尽シテ「オムスク」占領ヲ企画シ脅威ヲ以テ無頼不逞ノ徒ヲ徴発シテ軍ノ補充ニ当テ其ノ勢頗ル猖獗ナリ之ニ対スル政府軍ハ今ヤ軍ノ後方ニ予備ヲ欠キ到底「オムスク」ヲ支持スル能ハサル状況ニ在リ

之ヲ以テ「ヂーデリックス」ハ此際「オムスク」ヲ捨ツルモ尚持久作戦ヲ行ヒ予定ノ計画ニ従ヒ軍ノ背後ニ新軍ヲ編成ヲ行ヒ後方地区ヲ確保スルト共ニ来春攻勢ニ転シテ敵ヲ全滅スルヲ必要トシ今若シ「オムスク」防禦ノ為メ軍隊ノ大部分ヲモ失セハ「チェック」去リ仏兵ハ其援助ヲ見限リ日本モ亦貝加爾以西ニ出動セサルノ今日遂ニ露国ノ復興ヲ期スルノ日ナキニ至ラント

ノ意見ヲ有ス之ニ反シ「コルチャック」ハ今若シ「オムスク」ヲ捨テンカ復立ツ能ハサルニ到ルヘク之ヲ以テ一切ノ手段ヲ尽シ「オムスク」ヲ防衛シテ最後ノ決戦ヲ試ミント欲シアリ如斯両者ノ意見一致セス為ニ「ヂーデリックス」ハ断然職ヲ辞セント欲シ辞意極メテ堅ク「コルチャック」亦四囲ノ事情ニ制セラレテ「オムスク」防禦ノ意ヲ変スル能ハス総司令官「ヂーデリックス」ノ職ヲ免シ第三軍司令官「サワロフ」ヲ総司令官ニ任スルコトトナリタルモ政府ハ「ヂーデリックス」ノ軍功ヲ認メ極東総督ニ任命シ「ロザノフ」「ホルワット」「セメノフ」等ヲ之ニ隷属セシムルコトニ内定セリト云フ

五、「ヂーデリックス」中将ノ辞職ニ伴ヒ参謀長「リヤビコフ」少将及総司令部作戦部長「イノストランツイフ」少将亦辞職ス如斯刻下危急存亡ノ秋ニ当リ統帥部主脳ノ更迭ハ極メテ不利ナル影響ヲ与ヘ戦面ヲシテ一層困難ナルニ陥ラシムルハ素ヨリ其所ナリ

六二三　十一月十日　在英国珍田大使ヨリ内田外務大臣宛（電報）

在西比利亜チェック軍波蘭軍等ノ急速帰国ノ為大連港使用許可方英国外務省ヨリ申越ノ件

第四九二号　（十一月十二日接受）

在西比利亜「チェック」、波蘭、「ユーゴゥスラブ」及羅馬尼軍隊並追而独墺俘虜ヲ出来得ル限リ速ニ帰国セシムルノ件ハ巴里講和会議ニ於テ一致ヲ見タル所ナルガ右送還ヲ進捗シ該諸軍隊ノ正当ナル帰国希望ニ添ヒ度キト冬期中氷結ス可キ浦潮一ヶ所ヲ以テシテハ到底急速引揚ゲヲ行ヒ難キトニ顧ミ右目的ノ為メ聯合軍ニ於テ大連使用方承諾アリ度ク敢而帝国政府ノ考量ヲ求ムル次第ナル旨外務省ヨリ八日附公文書ヲ以テ申越セリ何分ノ儀至急御電示ヲ請フ

在仏大使ヘ転電セリ

六二四　十一月十三日　内田外務大臣ヨリ在イルクーツク二瓶領事宛（電報）

イルクーツク以西ニ日本ガ出兵シ難キ事情ハ従前ト変ラザル旨加藤大使ニ回訓ノ件

第四四号

加藤大使ヘ

第一二九号

帝国政府カ「イルクーツク」以西ニ出兵シ難キ事情ハ既ニ御承知ノ通リニテ利権ノ代償ヲ得ンガ為メ出兵ヲ承諾セザル次第ニ非ズ而シテ前記ノ事情ハ唯今ノ処従来ト異ル処ナキニ付乍遺憾今日迄ノ態度ヲ変更シ難キ次第ニ付右様御含ノ上重テ先方ヨリ督促アリタル節ハ右ノ趣旨ニテ可然応答アリタシ

六二五　十一月十五日　在浦潮松平政務部長ヨリ内田外務大臣宛（電報）

イルクーツク軍管区司令官ガ反政府的社会党員ヲ逮捕シチェック代表者ガ其釈放ヲ要求シタル旨二瓶領事ヨリ報告ノ件

第五三七号　（十一月十六日接受）

在「イルクーツク」二瓶発本官宛電報第四七号

大臣ヘ転電アリタシ

第一二六号

当地軍管区司令官ハ去ル十二日朝社会党員中反政府的色彩明瞭ナリト認メラルル県会議員其他十数名ヲ逮捕シタルガ何等反政府運動ヲ企テタル具体的証拠ナク其ノ一部ハ既ニ釈放セラレタリ「チェック」代表ハ右ノ報ニ接スルヤ直ニ軍管区参謀長ニ対シ被逮捕者ノ釈放ヲ要求シタル趣ナリト察スルニ当地軍憲ハ「オムスク」政府ノ威信地ニ墜チ民心ノ帰趨計リ知ル可カラザルヲ虞レ知事「ヤコウキフ」ヲ始メ民党有力者全部ヲ逮捕シ自己ノ立場ヲ安全ナラシメント欲シ其ノ手始メトシテ今回ノ逮捕ヲ行ヒタルモノノ如シ

六二六　十一月十五日　在浦潮松平政務部長ヨリ内田外務大臣宛（電報）

チェック代表ノ民党釈放運動ニ関シイルクーツク軍管区司令官ヨリ日本兵三中隊派遣ノ要請アリタル旨二瓶領事ヨリ報告ノ件

第五四〇号　（十一月十六日接受）

在「イルクーツク」二瓶発本官宛第四九号左ノ通リ

大臣ヘ転電有リ度シ

第一二八号

「チェック」代表ノ民党釈放運動ニ付テハ当地軍憲ハ予テヨリ「チェック」軍ニ快カラザル関係モ有リ内政干渉ナリトテ大ニ憤慨シツツ有ルト今回ノ民党逮捕ハ何等正当ノ根拠無キヨリ内心頗ル狼狽シ軍管区司令官ハ第十四師団長ヲ伴ヒ十二日我特務機関ニ来リ本官及加納大尉ニ対シ事件ノ

大要ヲ説明シタル後「チェック」代表ノ釈放要求ハ知事「ヤコウキフ」ノ依頼ニ依リタルモノノ如ク若シ「チェック」軍ガ武力ヲ以テ民党ヲ庇護スル事トナラバ自分等ノ安全延テハ日本始メ聯合国ノ支持スル「コルチャック」政府ノ運命ニモ影響スル次第ナリトテ本官等ノ同情ヲ求メ日本兵ヲ「イルクーツク」ニ増派スル事ヲ懇請シ若シ三個中隊ノ日本兵ヲ増派セラルル時ハ日本軍ノ威力ニ依リ「チェック」軍ノ横暴ヲ制シ自分等ノ力ニ依リ反政府運動及過激派分子ノ活躍ヲ抑制スル事ヲ得ベシト述ベタルニ付本官等ハ内政不干渉ヲ本義トスル帝国政府ノ立場上民党及地方軍憲ノ何レヲモ援助スル事能ハズ本官トシテハ「チェック」代表ガ民党ノ釈放ヲ要求スルニ至リタル事情ヲ承知シ置ク必要有ルモ日本側ト「チェック」軍ト対立スルガ如キ事態ヲ作ルハ好マシカラザル旨ヲ説明シ単ニ加納大尉ヨリ日本兵増派ニ関スル軍管区司令官ノ希望ヲ上官ニ伝達スル事トシテ引キ取ラシメタリ

六二七　十一月二十二日　日本外務省ヨリ在本邦仏国大使館宛

在西比利亜チェック軍波蘭軍等ノ帰還ノ為大連港使用許可方申出ニ対シ回答ノ件

覚　書

従来西比利亜ニ駐在セルチェック、スロヴァック、波蘭、羅馬尼等ノ軍隊ノ一部帰還ニ付大連港使用方ノ件ニ関シ曩ニ御申出ノ次第アリタル処右目的ノ為メ同港使用方ノ儀ハ帝国政府ニ於テ異存無キモ目下貸物輻輳ノ折柄ニ付輸送人員約一万期間約一月ヲ要スル計算ニテ輸送方融通ノコトニ取計ヒ度尤モ長春ニハ宿舎ノ設備無ク又大連ニハ約二千人ヲ収容シ得ベキ「バラック」アルモ設備不完全ニ付成ルベク汽車ヨリ直チニ汽船ニ移乗セシメ度希望ナルニ付テハ右ノ方針ニ依リ輸送計画ヲ立テラレタル上更ニ詳細御通報アラムコトヲ希望ス

六二八　十一月二十八日　内田外務大臣ヨリ在米国幣原大使宛（電報）

オムスク政府軍ガ過激派ノ攻撃ニ対抗シ得ザルガ如キ事態ニ於ケル聯合国側ノ対策ニ関シ在本邦米国大使ト会談ノ要領通報ノ件

別　電一　同日内田外務大臣発幣原大使宛第八〇一号

右聯合国側ノ対策ニ関シ米国政府ト協議方訓令ノ件

二　十一月二十九日内田外務大臣発幣原大使宛第八〇二号

在本邦米国大使ガ作成セル内田外務大臣トノ会談要領

第八〇〇号

十一月二十三日米国大使ヲ招キ本大臣ノ私見トシテ大体別電第八〇一号ノ趣旨ヲ述ヘ其腹蔵ナキ意見ヲ求メタル処同大使モ全然個人間ノ私話トシテ腹蔵ナク意見ヲ開陳スル旨ヲ断リテ曰ク実ハ自分去九月西比利亜ヨリ帰任後間モナク本国政府ニ宛テ西比利亜ノ現状報告旁々「コルチャック」ノ周囲ニハ感服シ難キ人物多キモ「コルチャック」自身ハ信頼スルニ足ルベキ人物ニテ他ニ之ニ代ルベキモノナキニ付最後迄「コルチャック」政府ヲ支持シテ西比利亜ノ時局ヲ収拾スルノ方針ヲ継続スルヲ得策トシ西比利亜ヨリ撤兵スルガ如キハ更ニ事体ヲ混乱ニ導クヘキコト明カナルガ故撤兵ノ実行スベカラザルハ勿論前記ノ方針ヲ貫徹センガ為ニハ此上聯合側ノ兵力ヲ五万内外増加スルノ必要アリ然ラスンバ「コルチャック」ハ結局「オムスク」ヲ引揚ケ「イルクーツク」ニ後退スルノ已ムナキニ至ルヘク又住民ノ惨状極メテ寒心スベキモノアリ聯合側ニ於テ徹底的ニ且協同的ニ経済援助ノ途ヲ講セサルニ於テハ滔々相率キテ過激派ニ投スベク其結果測リ知ルベカラザルモノアリ若シ米国ニシテ此儘成行ヲ観望スルニ於テハ事体益々悪化スベク結局日本ハ自衛策ヲ講セサルヲ得サルニ至ルヘク之ニ対シ米国ヨリ苦情ヲ提起スルノ資格ナカルベキニ付「コルチャック」政府ニ対スル関係列国共同ノ信用ヲ開キ以テ支払ノ途ヲ立テタル上物資ノ供給ヲ為スコトトスルヲ得策ト認ムル旨禀申シ置キタルコトアリ尤モ右ノ如キ方案ニ付テハ議会ノ協賛ヲ要スルガ故其成否ハ予測シ難キトコロ米国側ニ於テハ従来赤十字社ニ於テ多大ノ救恤ヲ為シ居レル次第ナルガ日本側ニ於テ今後此方面ニ対シテモ一層努力セラルルニ於テハ兵力不足ノ補助トモナリ一般状態ノ改良上裨益スルトコロ尠ナカラサルヘシ将又鉄道ノ運行ヲ円滑ニシ其経営ヲ忽セニスベカラザルハ勿論ナルト同時ニ其出発点タル浦潮ハ頗ル重要ナル地点ナル処同地ハ陰謀腐敗ノ巣窟ナルニ付真ニ西比利亜ヲ救済センガ為メニハ列国側ニ於テ露国ニ代テ一時行政ヲ為スコトトシ税関等モ共同管理トナスノ要アルヘク別電第八〇一号記載ノ趣旨ハ全然同感ナル旨述ベ

タルニ付本大臣ハ我方ニテハ西比利亜問題ニ付テハ種々ノ意見アリテ政府反対党首領ノ如キハ現在ノ兵数ヲ以テ過多ナリトシ鉄道守備ニ必要ナル兵数迄減兵スベシトノ説ヲ唱フルモ現在ノ兵数ニテモ尚鉄道守備ニ不十分ナル実況ニ付此上兵数ヲ減スルコト困難ニテ又各所散在ノ守備兵ヲ一地方ニ集中スル方然ルベシトノ説アルモ右ノ如キ説ヲ実行スルコトトシ例ヘバ黒竜鉄道守備ノ軍隊ヲ撤シテ東支鉄道方面ニ移スニ於テハ黒竜鉄道沿線ノ過激派モ従テ東支鉄道方面ニ襲来スベク旁々是亦実行シ難キ旨述ヘタル処同大使ハ右ハ全ク其通リニテ「チェックスロワック」救援前ノ状態ニ復帰スヘシト答ヘタリ尚本大臣ヨリ同大使ニ対シ貝加爾以東ノ過激派軍ハ約一万六千五百以西ノ分ハ約二万四千八百ナル旨ヲ告ケタル上為念万一「コルチャック」没落スルガ如キ場合ニ関スル同大使ノ意見ヲ叩キタル処同大使ハ其場合ニハ之ニ代ルベキ政府ヲ組織セシムルヨリ致方ナカルベキ旨答ヘタリ将又翌二十四日「モリス」大使ト再会ノ折必要已ムヲ得サル場合ニ米国ヨリ軍隊ヲ増派シ得ルヤ否ヤヲ尋ネタルトコロ此等ノ事柄ニ関スル国務省ノ約束ハ仮令之ヲ為シタリトテ結局当テニナラヌモノト承知アリタク平

和条約事件カ証明スルガ如ク全ク上院ノ態度如何ニ依ルモノナルガ米国カ西比利亜ヨリ全然撤兵セサル限リハ日米間従来ノ協調ニ忠実ナルモノト見做サレタシト答ヘタリ

以上ハ本大臣ト米国大使トノ会談要領ナルガ同大使ハ右会談ノ次第ヲ別電第八〇二号ノ通リ本国政府ニ電報シタル筈ニ付貴官ニ於テモ右様御含ノ上別電第八〇一号ノ趣旨ニ依リ米国政府当局ト適宜御接衝ノ上米国政府ノ腹蔵ナキ意見突留メラレ結果詳細電報アリタク尚別電第八〇一号末段英仏両国政府ノ対露政策ヲ確ムル為メ米国政府ニ於テモ至急適当措置方可然申入レラレタシ

本電及別電為参考英仏伊ニ転電セラレ英仏ニハ別電第八〇一号ノ趣旨ヲ任国政府ニ内告シ前記対露政策ヲ確ムル様交渉方本大臣ノ訓令トシテ附記セラレタシ

（別　電一）

十一月二十八日内田外務大臣発在米国幣原大使宛電報第八〇一号

オムスク政府軍ガ過激派ノ攻撃ニ対抗シ得ザルガ如キ事態ニ於ケル聯合国側ノ対策ニ関シ米国政府ト協議方訓令ノ件

第八〇一号

「オムスク」政府軍隊ノ形勢先般来頗ル思ハシカラス在本邦露国上使ヨリモ往電第七七六号ノ通リ通牒シ来リタル始末ニテ我方トシテハ此際此危局ニ対スル対策ヲ講スルノ極メテ必要ナルヲ認ムル処「コルチャック」ニシテ今後形勢ヲ挽回シテ赤衛軍ヲ撃退スルニ於テハ兎ニ角若シ此上敗戦ヲ重ヌルニ於テハ或ハ帝国軍隊ヲ始メ聯合軍側ニ於テ直接赤衛軍ト相接触スルニ至ルヤモ難計又如此形勢ニ至ラハ自然聯合側軍隊現在ノ守備区域ニ於テモ所在過激派ノ蜂起ヲ見ルコトナシトセズ此場合ニ於テ聯合側ノ執ルベキ態度三アリ第一、軍隊ヲ増派シテ反過激派ト相策応シ進デ赤衛軍ヲ撃破スルコト第二、赤衛軍トノ接触ヲ避ケ一部又ハ全部ノ撤退ヲ行フコト第三、赤衛軍ニ対シテ攻勢ニ出テサルモ現在ノ守備区域ヲ固守シテ赤衛軍ノ東進ヲ防クコト是ナリ而シテ第一案ヲ実行セントセバ聯合軍ハ現在ノ駐屯地ヨリ更ニ西進スルノ覚悟ト多大ノ増兵ヲ為スノ決心ナカルベカラザル次第ノ処帝国政府トシテハ此上多大ノ増兵ヲ為シ更ニ西進セシムルガ如キハ我国論ニ顧ミ到底実行シ難ク第二案ニ出ツルニ於テハ仮令一部撤退ニセヨ過激派ノ勢力ヲ夫レ丈増大セシメ結局全部撤退ノ已ムナキニ至ルヘク其結果反過激派ノ全滅ヲ来シ東部西比利亜モ遂ニ過激派ノ天地ト化スルノ虞アルトコロ本案最終ノ決定ハ今後時局ノ発展ヲ待ツノ外ナク差向キ応急ノ対策トシテハ第三策ニ出テ守備ノ比較的薄弱ナル地点ニ対シ必要已ムヲ得サル場合ニ多少ノ増援ヲ加ヘ以テ現状ヲ維持スルヨリ致方ナカルヘシ（我軍事当局ノ意見ニ拠レハ現下ノ状況ヲ以テセバ必要ノ地点ニ五六千ノ増兵ヲ要スルコトアルヘシト云フ）

右ハ西比利亜ノ現状ニ対スル当方差向キノ意向ノ概要ナルガ対露問題ノ根本的解決ニ関シテハ追テ関係聯合国間ニ協議ヲ要スルコトト思ハルルモ当面急要ノ問題トシテ右増兵ノコトニ付テハ差向キ米国政府ノ了解ヲ得度ニ付其積ニテ国務卿ニ交渉セラレ結果電報アリタシ又当方トシテハ此際聯合側殊ニ米国ガ果シテ現状維持ノ方針ヲ固持スルヤ否ヤ必要已ムヲ得サル場合ニハ多少ノ増援隊派遣ヲモ辞セサル意向ナルヤ或ハ之ニ反シテ撤兵又ハ減兵ノ意向ナキヤヲ知ルノ必要アリ将又英仏ニ関シテハ我方入手ノ報道ニ拠レハ十一月八日倫敦市長就任披露会ニ於テ英国総理大臣ハ冬季中露国内各政府熟慮ノ結果来春ニ及ヒ関係列強ハ同国内乱鎮定ヲ促進スルノ機会可有之旨演説セラレタルニ対シ議会ニ於テ幾多ノ質問提起セラレタル為メ同大臣ハ是等質問ニ

対シ英国政府ノ対露政策ハ従来ト異ル処ナキモ一億磅ノ支出ヲ為セル今日是以上救援ヲ為スハ到底英国財政ノ許サザル処ナル旨答弁セラレタル趣又巴里新聞紙ノ報道ニ拠レバ仏国大統領及外務大臣倫敦訪問ノ結果対露政策ニ関シテハ此上反過激派政府ニ対シ武器竝ニ金銭上ノ補給ヲ継続セザルベキコトニ英仏両国間ニ意見ノ合致ヲ見タル趣ナルガ英仏当局ノ真意果シテ右ノ通リナルヤ否ヤ未ダ確知セサル処ナルモ果シテ右ノ通リトセバ右二国政府ニ於テハ西比利亜ニ於ケル赤衛軍ノ勢力今後益々増大スルコトアルモ反過激派ニ対スル援助ハ此上之ヲ与ヘラレザル方針ナリヤ此際此点ヲ確知シ置クノ必要アリ就テハ貴官ハ前述米国政府ノ方針意向ヲ確メラルルト同時ニ国務卿ニ於テ異存無キニ於テハ米国政府ニ於テモ我方ト共同シテ英仏両政府ニ右ノ点ヲ確ムル様可然措置アリタシ

註　本訓電案ハ十一月二十八日閣議決定ヲ経タリ

(別　電二)

十一月二十九日内田外務大臣発幣原大使宛電報第八〇二号

在本邦米国大使ガ作成セル内田外務大臣トノ会談要領

第八〇二号

STRICTLY CONFIDENTIAL

Viscount Uchida sent for me today. He told me that the Cabinet had recently discussed the critical conditions in Siberia but had reached no conclusion pending a personal and informal exchange of views between us. He explained that the Ministry faced the necessity of formulating a definite Siberian Policy and in particular referred to Viscount Kato's recent criticism and the demand which Kato made for the withdrawal from Siberia of a substantial portion of the Japanese troops. I asked him if Kato's statement was not made for political reasons. He thought not, as Kato had to weigh his words carefully because, as a responsible party leader, he might at any time be called upon to form a Ministry. He then gave me a detailed description of military conditions in Siberia as reported to the Cabinet by the General Staff which indicated that there were some twenty thousand Bolsheviks organized in bands and operating between Omsk and Irkutsk; and that there were some seventeen thousand east of Baikal, chiefly along the Amur Railway. He then stated that the retirement of Kolchak to Irkutsk had greatly heartened all Bolshevik elements east of Omsk and that Japan could not view the continued eastward advance of the Bolshevik without concern. If the Red Army should reach the Baikal and come in contact with Japanese troops it would be serious; if on the other hand Japan should withdraw it would mean the surrender of Eastern Siberia to Bolshevism and create at once a serious menace to Korea, Manchuria, and indirectly to Japan itself. He then outlined the three possible plans of action:

First,—entire withdrawal, which seemed to him impossible,

Second,—the sending of reinforcements at once in such quantities as effectively to crush Bolshevism now.

Third,—the maintenance of the status quo while awaiting developments, only sending such reinforcements as future conditions might imperatively require.

After repeating that I was expressing simply my personal view I stated that in the first place I thought we should avoid all participation in local intrigues and continue earnestly to support Kolchak. I told him that I had reason to believe that my Government fully shared this view. In the second place, I was personally convinced that Japan and the United States should maintain their present force to protect and continue railway operations, and that I had no reason to believe that the United States contemplated the withdrawal of its troops. Finally, I emphasized my personal conviction that some comprehensive plan of economic relief must be undertaken by our two Governments, acting in the closest cooperation. Without such relief I was certain that the population would become increasingly restless and antagonistic, and that there would be no limit to the number of additional troops required.

I expressed my appreciation of Japan's natural fear of the spread of Bolshevism in Eastern Siberia and the dangerous propaganda which might follow among the masses of China and Korea and possibly to a limited degree in Japan.

Viscount Uchida expressed his satisfaction that our personal views were so fully in accord, and stated that he intended to discuss the subject further in a Cabinet meeting. If the cabinet approved, he proposed to instruct Ambassador Shidehara to discuss the entire subject with you in the hope that our Governments might be able to agree on a united policy. He suggested that it might be wise for our two Governments to enquire of Great Britain and France what effect their present policy toward Russia would have on the situation in Siberia.

註　此ノ会談要領ハ内田外務大臣トノ約ニ基キ十一月二十四日在本邦米国大使ヨリ内田外務大臣ニ送附シ越セルモノナリ尚本要領和訳文モ十一月二十八日第八〇二号ニテ幣原大使

〈電報セラレタリ和訳文ヲ省略ス

六二九　十一月二十八日　内田外務大臣ヨリ在米国幣原大使宛（電報）

聯合国側ニ依ル西比利亜住民救済ニ関スル在本邦米国大使ノ進言ニ対スル本国政府ノ意向確メ方訓令ノ件

第八〇三号

往電第八〇〇号中西比利亜住民救済ノ件ハ我方ニ於テモ主義トシテ固ヨリ結構ナル事柄ト思考スルモ帝国政府ニ於テハ已ニ多数ノ軍隊ヲ派遣シテ過激派ノ暴挙抑圧鉄道ノ運行保護等ノ任ニ当ラシメ尚其他軍器及軍需品等ノ供給ニモ努メ経費ヲ負荷シツツアル今日更ニ新ナル財政上ノ負担ヲ重ヌルハ我財政ノ現状之ヲ許ササル所ナルノミナラス目下我国自ラ食料品其他生活必需品ノ欠乏ニ苦ミツツアル際外国ニ向テ此上供給救済ノ途ニ出ツルカ如キハ実際上頗ル困難トスル処ナリ本件救済問題ニ対スル帝国政府差向キノ内意ハ前顕ノ通ナル処本件ニ関スル在本邦米国大使ノ進言カ本国政府ノ採納スル所トナリタル上同国議会ニ附議セラレタル節其協賛ヲ得ヘキヤ否ヤハ尚予測シ難キモ差詰メ議会附議ノ結果如何ハ之ヲ別トシ米国政府側ニ於テハ本件経済援助ヲ遂行スルノ意図ヲ有スル次第ナルヤ将又物資供給上ノ困難ハ米国ニ於テモ我方ト類似ノ事情ナキ次第ナルヤ其辺ニ関スル実情御確ノ上結果電報アリタシ

六三〇　十一月二十九日　在浦潮松平政務部長ヨリ内田外務大臣宛（電報）

在西比利亜チェック軍ノ反露国政府的行動ヲ非難セル電報ヲコルチャックヨリ日英仏米各代表者ニ発セル旨二瓶領事ヨリ報告ノ件

第五九三号

在「イルクーック」二瓶領事発閣下宛電報第一五一号左ノ通転電ス

「チェック」代表ノ覚書ニ対シ「コルチャック」ハ日英仏米各代表者ニ宛テ大要左ノ如キ電報ヲ発セリ

反政府分子ト連絡シ露国政府ニ反抗シタル「チェック」軍ノ行動ハ過激派ノ夫レト選ブ所ナシ先ニハ「ウラル」戦線ヨリ「チェック」軍ヲ撤退セシムベシト威嚇シ内閣組織問題ニ干渉シ今復戦況不利ナルニ乗ジ公然政府反対ノ態度ヲ取リ露国復興ノ大業ヲ妨害セリ

本年八月露国政府ハ「チェック」共和国政府ニ対シ「ガイダ」「ギルザ」外数名ヲ召還スベキコトヲ要望シタリシガ彼等ハ遂ニ浦潮ニ過激派ト異ナラザル一派ト連絡シ叛乱ヲ企テタリ「ガイダ」ハ露国軍籍ニ在リシモ陰謀及破廉恥行為ニ依リ軍籍ヨリ除カレタルモノナリ「チェック」代表ト称スル「ギルザ」及「パウル」ハ余及余ノ政府ト何等ノ関係ナク本国政府ノ正当ナル委任ヲ有スルヤ否ヤ不明ナリ彼等ハ極東ニ於テ露国政府ニ反対スル謀反人ナリ

余ハ「チェック」代表ト自称スル「パウル」「ギルザ」ノ署名セル覚書ヲ以テ「チェック」共和国政府又ハ其ノ軍憲ノ公文書ト認ムルコトヲ得ズ随テ之ニ対シテハ何等回答ノ必要ヲ認メズ右覚書ハ浦潮ニ於ケル過激派暴動ト関聯スルモノニシテ彼等ハ之ニ依リテ武力ヲ以テ露国ノ内政ニ干渉スルコトニ付列国ノ承認ヲ求メントスルモノナリ余ハ斯ノ如キ武力干渉ヲ過激派援助行為ト認メ（脱）テモ之ニ対抗スルヲ辞セズ余ハ余ノ政府ニ於テ今後右覚書署名者ト凡テノ交渉ヲ停止スルト共ニ「チェック」共和国政府ニ対シ彼等ヲ召還シ新ニ適当ナル代表者ヲ派遣セシムルノ処置ヲ取ルベキコトヲ命ジタリ（十一月二十五日最高司令官列車内

ニテ「アドミラル、コルチャック」）

六三一　十一月二十九日　在浦潮松平政務部長ヨリ内田外務大臣宛（電報）

日本政府ノ対西比利亜政策ニ関シ二瓶領事ヨリ意見具申ノ件

第五九四号　（十一月三十日接受）

在「イルクーツク」二瓶発閣下宛電報第一五五号左ノ通転電ス

帝国政府ノ対西比利亜政策ハ㈠撤兵㈡現状維持㈢「バイカル」以西出兵ノ三通ノ場合ヲ想像シ得ルノミ㈠撤兵ノ場合ニ於テハ西比利亜全土ハ忽チ過激派ノ蹂躙スル処トナリ帝国ハ過激派ト境ヲ接シ其ノ「プロパガンダ」ト避難民ノ処置ニ窮スルニ至ルベク結局過激派政府ト妥協スルカ或ハ自衛上単独又ハ支那ト共同シテ再ビ出兵スルノ止ム無キニ至ルベシ而シテ再出兵ノ場合ニ於テハ軍ノ後方ニ無力ナル自称（脱）現ハレ出テ露国ノ名ニ於テ帝国ノ行動ヲ束縛スルニ至ルベシ

㈡現状維持ノ場合ニ於テハ現西比利亜政府ハ「クラスノヤルスク」辺ヲ境トシテ一進一退其ノ命脈ヲ維持スルカ然ラスンバ次第ニ「イルクーツク」方面ニ圧迫セラレ過激派各地ニ蜂起シテ具加爾以西ハ遂ニ過激派ノ手ニ帰スルニ至ルヘシ後ノ場合ニ於テハ帝国政府ハ現西比利亜政府ノ残党若シクハ「セメノフ」ヲ擁護シテ「バイカル」以東ヲ守リ避難民ノ救済地方過激派ノ討伐ニ忙殺セラルベク若シ過激派本隊ノ来襲ニ合ハバ更ニ兵ヲ繰リ出スニ非ザレバ之ニ対抗スル事能ハザルベシ

㈢具加爾以西出兵ノ場合ニ於テハ過激派軍ヲ少クモ「クラスノヤルスク」以西ニ食止メ得ルノミナラズ民心ノ動揺ヲ防ギ紛糾セル政界モ鎮静シ西比利亜政府ノ基礎ヲ確実ニシ以テ西比利亜ノ秩序ヲ維持スル事ヲ得ベシ

「ノックス」「ジャナン」ハ最早西比利亜政府ヲ援助スルノ意気無シト伝ヘラレ「チェック」帰心矢ノ如ク加フルニ覚書ノ発表「ガイダ」事件等ノ為メ露軍トノ関係円満ヲ欠クニ至リ過激派ノ追及頗ル急ニシテ西比利亜軍ハ引続キ退却シツツ有ルモ「チェック」軍ハ彼等ヲ援助セズ順送リニ後退セントシツツ有リ「カンスク」「ミヌカインスク」「ユウナウル」方面ノ過激派ハ次第ニ鉄道線路ニ迫リ各地ノ民党ハ益々政府反対ノ気勢ヲ高メツツ有リ新内閣ノ組織ハ遷延ヲ免レザルベク形勢混沌タリ

六三二　十二月八日　在浦潮松平政務部長ヨリ内田外務大臣宛（電報）

イルクーツクニ於ケル親日的気運ニ付二瓶領事ヨリ報告ノ件

第六〇七号　（十二月一〇日接受）

在「イルクーック」二瓶発本官宛電報第七八号大臣ヘ転電アリ度シ

第一六二号

「オムスク」陥落前後ヨリ軍人ト謂ハズ政治家ト謂ハズ政府党ハ一般ニ著シク親日トナリ新聞紙ヲ通ジテ極端ナル親日論ヲ発表シ社会ヲシテ彼等ハ「ジャパノフィル」ナリト評セシムルニ至レリ是レ当局者ガ日本ニ倚ルニアラザレバ極東ノ平和ヲ維持スルコト能ハザルヲ自覚セル結果ニシテ一面ニ於テハ軍事上経済上ノ危機切迫セルコトヲ示スモノト謂フベシ

市会ノ宣言其他ヨリ察スルニ当地社会党ハ悲観論ニ傾キ「オムスク」ノ陥落シタル今日過激派トノ戦争ヲ継続スルハ無益ニシテ結局妥協スルノ外ナシト為シ妥協ニ至ル階梯トシテハ人権尊重、内政ノ民主的革新ノ美名ノ下ニ純（二字不明）内閣ノ組織ヲ主張シ居ルモノノ如シ国民ハ今ヤ戦乱ニ倦ミ生活難ニ疲レ偏ニ外国ノ援助ヲ希望シツツアルモ中ニハ密ニ過激派トノ妥協ヲ希望シ居ルモノ尠カラズト謂フ

最近当地ニ「イルクーツク」政教同盟ナルモノ組織セラレ「コルチャック」政府ノ援助地方ノ秩序維持軍隊ノ後援ヲ標榜シ去ル四日大会ヲ開キタルガ会スルモノ中産階級労働者農民避難民等数千ニ達シ軍管区司令官哥薩克代表者モ出席シ内争ヲ止メ挙国一致祖国ノ復興ニ殉スベシト叫ビタルガ結局日本ノ従来ノ援助ヲ謝シ将来ノ徹底的援助ヲ希望スル決議ヲナシ君ガ代ヲ歌ヒ万歳ヲ叫ビ散会後我ガ特務機関及「チェック」司令部ニ押寄セ感謝ト信頼ノ意ヲ表シタリ

六三三　十二月九日　在米国幣原大使ヨリ内田外務大臣宛（電報）

オムスク政府ノ危機ニ際スル聯合国側ノ対策ニ関シ訓令ニ基キ国務長官ニ申入ノ件

第八五五号　（十二月十一日接受）

貴電第八〇一号ニ関シ

十二月八日国務長官ニ面会ノ上御訓令ノ趣ヲ申入レタリ右本使ノ説明中第三案ニ関シ五六千ノ増兵ヲ要スルコトアル

ベシトノ点ニ言及スルヤ長官ハ口ヲ挾ミ右ハ日本ヨリノ増兵ヲ意味スルヤト質問セルニ付本使ハ右ハ聯合側一般ノ見地ヨリ第三案実行上結局聯合側ニ於テ前記ノ如キ増兵ヲ必要トスルコトアルベシトノ日本軍事当局ノ意見ナリト答ヘ置キタリ長官ハ本使申入レノ次第ヲ熱心ニ聴取シタル上本件ニ関シテハ曩ニ「モリス」大使ヨリ至急電報ニ接シタルガ何分事軍事ニ関係アリ同官一存ヲ以テ回答シ得ザルニ付何レ陸軍官憲ト協議ヲ遂ゲ且時宜ニ依リテハ大統領ニモ上申ノ上挨拶ヲナスベシト答ヘタリ

次デ本使ヨリ帝国政府ニ於テ斯ク腹蔵ナク所見ヲ開陳スルハ日米提携ノ精神ニ重キヲ置キ篤ト米国政府ノ了解ヲ得ントスルノ趣旨ニ外ナラズト附言セルニ長官ハ満足ノ色ヲ示シ両国間ニ此種ノ問題ニ付完全ナル了解ヲ必要トス右ハ従前ニ於テモ当ニ然ルベキ筈ナリシト述ベタリ尚御訓令ノ要旨ハ長官心覚迄ニ書付トシテ残シ来レリ将又参謀本部ヨリ井上陸軍武官ニ到達セル電報ニ依レバ去ル九月第十三師団ヨリ歩兵一旅団及工兵二個中隊ヲ西比利亜ニ派遣セル趣ノ処右増兵ニ関シテハ其当時日米両国間ニ何等打合セアリタル次第ナリヤ若シ打合セナカリシモノトセバ今回ノ交渉ト関連シ或ハ先方ヨリ質問シ来ルヤモ計リ難キニ付右増兵ノ際米国政府ノ了解ヲ求ムルノ措置ニ出デラレザリシ事情至急御電示ヲ請フ

六三四　十二月十一日　在仏国松井大使ヨリ内田外務大臣宛（電報）

オムスク政府ノ危機ニ際スル聯合国側ノ対策ニ付仏国政府ノ意向問合ノ件

講第二五一五号　（十二月十三日接受）

在米大使宛貴電第八〇〇号関係電報漸ク昨九日纏リタル処「ピション」氏ハ目下微恙ニテ事務ヲ執ラズ「クレマンソウ」氏ハ本夕「ベルトロウ」ヲ帯同シ再渡英スルヲ以テ本日「ベルトロウ」ヲ往訪シ在米大使宛貴電第八〇一号ノ趣旨ヲ記載セル覚書ヲ手交シテ之ヲ敷衍説明シタル処「ベルトロウ」ハ結局帝国政府見解通リ其第三案ヲ採ルノ外無シト思考スルモ仏国政府ニ於テハ此上兵力ヲ増派スルコトハ困難ナル可ク財政経済的援助ニ至リテハ与国全体ノ協議ヲ経サル可カラスト思考スル旨ヲ答ヘタリ依テ本使ハ本件ニ関シ帝国政府ニテ英米政府ノ意嚮ヲモ確メ中ナルカ英国ニテ「クレマンソウ」ト「ロイドジョウジ」トノ間ニ孰レ本問題ニ付テモ談合アル可キニ付「ベ」氏ヨリ篤ト総理ニ右ノ次第内談アリタク同氏帰仏後更メテ本件ニ関スル仏国政府ノ意見ヲ承ルコトヲ得可シト述ヘタルニ同氏モ之ヲ快諾シタリ在欧米各大使ヘ転電セリ

六三五　十二月十二日　在米国幣原大使ヨリ内田外務大臣宛（電報）

約四万ノ在西比利亜波蘭人帰国ノ船便ニ付日本政府ノ配慮ヲ得タキ旨在米波蘭公使ヨリ申出アリタル件

第八七〇号　（十二月十四日接受）

十一日在米波蘭公使ハ本使ニ向ヒ西比利亜ニ在ル約四万ノ波蘭人ハ成ル可ク速ニ之ヲ本国ニ送還スルノ必要アル処適当ナル船便ナキ為メ当惑シ居ルニ付日本政府ニ於テ特別ノ配慮ヲ以テ事情ノ許ス限リノ船腹ヲ融通セラレタキ旨懇望アリ右ニ対シテ本使ヨリ船腹欠乏ノ折柄其希望ニ応ズルコト事実困難ナルベキヲ告ゲ且仮ニ条件次第ニ依リテハ傭船ノ見込アリトスルモ其条件ニ付当地ニ於テ同公使ト本使トノ間ニ協議スルコトハ不可能ナリト答ヘタルニ同公使ハ先ヅ主義上ノ問題トシテ日本政府ニ於テ若干ノ船腹ヲ融通セラルルヲ得バ本邦駐劄ヲ命ゼラレ現ニ当地ニ在ル波蘭公使ヲ直ニ出発セシメ委細帝国政府トノ間ニ協議セシムルコトトシタキ考案ナリト語レリ右ハ同公使達テノ希望ニ付何分ノ儀御電示相願ヒ度シ

六三六　十二月十二日　在米国幣原大使ヨリ内田外務大臣宛（電報）

米国ノ対西比利亜政策ニ関スル「フード」氏ノ観測報告及西比利亜ニ関スル我方ノ提言ニ対スル米国回答ハ手間取ルベキ旨報告ノ件

第八七一号　（十二月十四日接受）

十二月十一日聯合通信ノ「フード」本使ヲ来訪シ同人ガ最近「ランシング」ニ面会ノ結果得タル感想ニ依レバ「ラ」氏ハ西比利亜問題ニ関スル日米両国ノ関係近来著シク改善セラレタルコトニ付満足シ居ルモノノ如ク且今回日本ヨリ提議セル増兵問題ニ関シテモ同様一己ノ意見トシテハ此ノ際日本ト共同シテ西比利亜ノ現状ニ必要ナル兵力ヲ維持スルノ必要ヲ認メタルコト疑ナキモ近来米国有力政治家間ニハ講和条約問題ニ関連シテ米国ガ米大陸以外ノ問題ニ干与スルヲ好マザルノ傾向強ク他ノ一方ニ於テ大統領病気ノ為

メ之等機微ナル政治問題ヲ決定スルニ当惑シツツアルモノノ如シト内話セリ将又陸軍長官ハ過日来巴奈馬ニ出張中ニテ来ル十五日ナラデハ帰着セザル予定ニ付吾提議ニ対スル米国政府ノ回答ハ相当手間取ルノ外ナカル可キカト察セラル

英、仏、伊ヘ転電セリ

六三七　十二月十六日　内田外務大臣ヨリ　在米国幣原大使宛（電報）

本年九月我方ガ西比利亜ニ歩兵一旅団及工兵一大隊ヲ臨時派遣セル事情通報ノ件

第八七二号

貴電第八五五号末段ニ関シ九月補充ノ件陸軍ニ問合セタル処其ノ回答ニ拠レバ東支鉄道沿線地方ニハ曩ニ南満ヨリ歩兵一旅団ヲ臨時派遣シアリシカ満洲ノ守備ハ永ク之カ派遣ヲ許ササル事情アルニ依リ之ト交代セシムルカ為本年九月内地ヨリ歩兵一旅団及工兵一大隊ヲ派遣シタリ然ル処当時黒竜鉄道及烏蘇里鉄道沿線ノ状況ハ此ノ派遣部隊ヲ臨時ニ該方面ニ使用スルニ至ラシメタルカ其ノ後状況依然改善ノ域ニ向ハサル為其ノ儘之ヲ留置シ居ルモノナリトノ事ナリト問ヒタルニ付右ハ出兵問題ニ対スル日本ノ主義ハ先頃申述ベ置キタル通ナレバ今更急ニ変化スベシトハ思ハレザルガ兎ニ角御来示ノ趣ヲ早速政府ヘ電報シ置クベシト答ヘ置キタルモ当地以西ノ形勢刻々危殆ニ瀕シツツ有ル趣ニテ若シ当地ヲモ過激派ノ手ニ委スル場合ニハ極東各地ニ暴動ノ勃発ヲ免レザルベク一方我軍ハ之ガ鎮圧ニ忙殺セラルル間ニ他方「バイカル」湖畔ニ於テ過激派ノ正面ニ当ラザルベカラザルニ至ルベキヲ以テ今速ニ相当有力軍隊ヲ当地ニ派遣シテ当地ヲ敵手ニ委セザル事得策ナリト思考スルモ若シ右不可能ナリトセバ在当地各公館及居留民保護ノ名ノ下ニ至急後「バイカル」地方駐屯軍中ヨリ二大隊位ノ兵力ヲ派遣シ依テ以テ漸ク擡頭セントシツツ有ル過激派ノ気勢ヲ抑圧シ同時ニ全線ニ於ケル西比利亜軍ノ士気ヲ鼓舞スル事然ルベク之ノ一面ニ於テ「コルチャック」政府援助ノ趣旨ニ副フモノト信ズ至急御詮議ノ上折返シ何分ノ儀御回電有リタシ

松平ヘ転電セリ

六三九　十二月十九日　内田外務大臣ヨリ　在米国幣原大使宛（電報）

就テハ先方ヨリ質問アリタル節ハ前記ノ事情ニテ其ノ儘不得已留置キタルモノナル旨淡泊ニ御説明ノ上其ノ諒解ヲ得ラルル様致度シ尚貴電前段増兵ノ件ハ聯合側一般ノ見地ヨリ之ヲ為スヲ必要トスルコト貴見ノ通ナルモ五六千ノ増兵ナルモノハ帝国軍隊ヲ意味スル次第ニ付右様御承知アリタク貴官ニ於テモ右様御諒解ノ上国務長官ニ対シ態ト貴電御記載ノ通リ説明セラレタルモノカト察セラルルモ為念申添ユ

六三八　十二月十六日　在イルクーツク加藤大使ヨリ　内田外務大臣宛（電報）

イルクーツクヘノ日本軍緊急派遣方外務大臣代理ヨリ願出ニ付請訓ノ件

第二八六号　至急　（十二月十八日接受）

十二月十八日外務大臣代理緊急閣議ノ結果ヲ齎シテ本使ヲ訪問シ「イルクーツク」附近ノ形勢甚ダ険悪ニシテ何時事変ノ勃発ヲ見ルヤモ計リ難キニ付此ノ際至急千乃至二千ノ日本兵ヲ当地ニ派遣シ秩序ノ維持ニ任ゼラレ間敷キヤ本件ハ在日本露国大使ニモ電訓シテ帝国政府ヘ懇請セシムベシト述ベタル後帝国政府ノ本件ニ対スル意向如何有ルベキヤ

イルクーツク危殆ノ形勢ニ鑑ミ我方ノ増兵計画ニ対スル米国政府ノ意向問合方訓令ノ件

第八七八号　至急

貴電第八五五号ニ関シ

西比利亜ニ於ケル増兵計画ニ対スル米国政府ノ意嚮ニ付テハ未タ回答ニ接セサル折柄「イルクーツク」加藤大使ヨリ十二月十八日別電（註）第八七九号ノ通リ電稟アリタル処帝国政府ニ於テハ貝加爾以西出兵ノ件ハ予テ御承知ノ通ノ方針ニ顧ミ到底応諾シ難キ次第ナルモ右全露政府軍ノ頽勢支ヘ難ク万一「イルクーツク」市ニシテ陥落スル場合ニハ直チニ「チタ」市以東モ亦危殆ノ状ニ瀕スルノ惧アリテ事態頗ル切迫シ居ルモノノ如ク右ノ形勢ニ対シテハ帝国政府ニ於テモ特ニ考慮ヲ払フノ必要アリ旁々至急増兵計画ニ対スル米国政府ノ意嚮ヲ承知シ置度ニ付貴官ハ米国政府ニ右ノ事情ヲ説明ノ上成ルヘク速ニ其ノ回答ヲ得ラルル様取計ハレタシ

本電及別電在欧各大使ヘ参考ノ為転電アリタシ

註　別電第八七九号ヲ省略ス右ハ前出加藤大使来電第二八六号全文ナリ

六四〇　十二月十九日　内田外務大臣ヨリ在イルクーツク加藤大使宛（電報）

イルクーツクヘノ出兵応ジ難キ旨回訓ノ件

第一三四号　至急

貴電第二八六号ニ関シ

別電ノ通幣原大使ヘ電訓シタル処委細右ニテ御承知相成ルヘキ通リ「イルクーツク」ヘ出兵ノ件ハ遺憾ナカラ応諾致シ難ク尚米国政府トノ打合済次第更ニ何分ノ儀申進スヘキモ取敢ヘス右ノ次第御含ノ上一応先方ニ然ルヘク回答アリタシ

註　在イルクーツク加藤大使宛別電第一三五号ヲ省略ス右ハ前出幣原大使宛往電第八七八号全文ナリ

六四一　十二月二十一日　大井浦潮派遣軍司令官ヨリ参謀総長宛（電報）

コルチェック政府ノ内部事情ニ鑑ミ其変転ニ対処スベキ方策ニ関シ意見具申ノ件

（十二月二十三日写外務省ニ接受）

軍機至急陸同文

浦参第二一九一号

西伯利ノ現状ニ対シ左記観察ヲ具申ス

現時西伯利ニ於ケル勢力中最モ重大ナル問題ハ「コルチャック」カ「ペペリヤエフ」ヲ首相トスル現内閣ヲシテ果シテ能ク其施政方針ヲ実行セシメ得ルヤ又万一「コルチャック」ニシテ失脚スルニ至ランカ残存ノ「ペペリヤエフ」内閣ハ果シテ能ク其施政方針ヲ遂行シ得ルカ如キ実力ヲ有スルヤ否ヤニ在リ而シテ現内閣ノ施政方針ハ概ネ西伯利一般民衆ノ意思ニ副ヒ且与国ノ輿望ニ合スルモノアルニ拘ラス「コルチャック」ノ之ヲ断行セシメ得サルノ事情アルハ蓋シ資産階級側及哥薩克団等カ国家自治団会議ヲ目シテ有害無効ノモノトナシ尚暫ク過去ヨリノ政状ヲ維持セントスルニ反シ民党側（「イルクーツク」市会ヲ中心トス）ハ之ニ対シ極端ナル意見ヲ持シ現内閣ヲ倒シテ所謂統一社会主義的政府ヲ建設セントシ両々相降ラス「コルチャック」ハ之カ中間ニ立チテ今ヤ如何トモナシ得ザル窮境ニ在ルモノノ如シ

斯クシテ彼ノ失脚ハ自然ノ帰納タルヘキカ。事此処ニ至ラハ其善後策ハ即チ現内閣ノ処断ニ俟タサルヲ得ス然ルニ之カ決行ニ当リテハ有力ナル兵力ノ後援ヲ必要トス而モ政府軍及「チェック」軍及日本軍等ノ状勢現況ノ如キニ於テハ之ヲ日本若クハ極東露領哥薩克ニ俟ツノ外他ニ手段ナカルヘシ軍トシテハ未タ正確ナル報ニ接セサルモ此度大臣会議カ秩序維持ノ為「イルクーツク」ニ増加兵ヲ懇請スルコトニ議決シタルカ如キ以テ其一般ヲ窺フニ足ル可シ而シテ「ペペリヤエフ」ニシテ日本又ハ極東露領哥薩克ヨリ兵力ノ支持ヲ受クル能ハサランカ其政権ハ遂ニ統一社会主義者ノ手ニ帰スルヤモ計リ難シ此場合ニ於テハ「イルクーツク」以西ニ在ル正規露軍ハ多クハ解体若クハ過軍ニ投シ其残存者ハ恐ラク統一社会主義政府ノモノトナリ此処ニ此正規軍ト哥薩克軍トノ衝突ヲ惹起シ地方ノ不秩序其度ヲ高メ其影響ハ引イテ極東露領ニ及フヘキヲ思ハシム其レノミナラス政権ノ一度統一社会主義政府ニ帰センカ該政府カ其組成上過激派政府ト妥協スルコトナキヲ保シ難シ故ニ此等忌ムヘキ状態ノ発生ヲ顧慮セハ出来得ル限リ現政府ノ支持ニ努メ之ヲシテ速ニ国家自治団会議ヲ解散セシムル（成立ノ誤リナラスヤ）ヲ急務ト認ム而シテ尚且現政局ヲ保持スルコト能ハサルトキハ勢ヒ極東露領ニ一ノ独裁官ヲ立タシメ時局ヲ収拾セシムルノ外途ナキカ如シ而シテ現況ニ於テハ此局ニ当ルモノハ「アタマン、セメノフ」ヲ以テ最モ適当ト認ム然レトモ「アタマン、セメノフ」ヲシテ独リ政権ヲ把握スル野心ヲ懐カシムヘカラス何処迄モ其政治ハ露国ノ実況ニ適応セル選挙ニ依リ選挙セラレタル国家自治団会議ノ節制ニ俟ツヘキ覚悟ヲ有セシムルヲ緊要トス

六四二　十二月二十二日　内田外務大臣ヨリ在米国幣原大使宛（電報）

在西比利亜波蘭人ノ本国送還ノ為目下日本ヨリ船腹提供シ得ザル旨回答方ノ件

第八八二号

貴電第八七〇号ニ関シ

西比利亜ニハ目下「チェック」其他ノ聯合諸国軍計九万残留シ何レモ帰国ヲ急ギツツアリ此等ノ送還方法ヲ第一ニ攻究スヘキハ与国トシテノ義務ナルカ為目下各国間ニ於テ協議中ナルカ我国ノ現状ハ之ニ対シテスラ必要船舶ノ提供ヲ許ササル次第ニ付帝国政府ニ於テハ在西比利亜波蘭人ノ送還ニ関シ充分ノ同情ヲ有シ将来事情ノ許スニ於テハ之カ為ニ助力ヲ与フルヲ惜マサルヘキモ目下之カ為ニ船舶ヲ提供スルハ貴官御説示ノ通事実上全然不可能ニシテ如何ナル条件ヲ以テシテモ目下ノ処右四万人ノ輸送ヲ引受クルノ望ナ

キヲ遺憾トス右御含ノ上可然先方ヘ回答セラレ度シ

六四三　十二月二十三日　在浦潮松平政務部長ヨリ内田外務大臣宛（電報）

在浦潮大井司令官ハ加藤大使ノ要求アレバイルクーツクヘ日本軍派遣ノ意向ナル旨報告ノ件

第六三一号　（十二月二十四日接受）

加藤大使ヘ左ノ通リ電報セリ

第二六四号

「イルクーツク」ニ於ケル形勢不穏ノ為メ増兵方福田大佐ヨリ軍司令部ニ電禀アリタル処右ニ関シ十二月二十三日大井司令官ハ「ベレヨゾフカ」ヨリ以西ニ出兵スルコトハ司令官ニ於テ随意ニ行ヒ難キモ若シ加藤大使ニ於テ同地我官民ノ保護又ハ聯合側代表者ノ保護上必要ト認メラレ司令官宛要求セラルルニ於テハ歩兵一箇大隊騎兵、砲兵、工兵各一箇小隊ヲ即時「チタ」ヨリ派遣スルコトヲ得ベキニ付其旨福田大佐ニ電報シタル旨本官ニ語レリ右ニ関シ参謀長ノ附言スル処ニ依レバ「イルクック」方面ニ出兵方ニ関シテハ既ニ本部ヘ上申シ置キタル為メ大使又ハ居留民保護ノ為メ緊急ノ必要アルニ於テハ司令官ニ於テ派兵ヲ取計ヒ得ルモ右ニ対シテハ単ニ福田大佐ノ上申ノミニテハ決行シ難ク大使ヨリ司令官ニ要求セラルレバ直ニ実行シ得トノコトナリ何レ福田大佐ヨリ申出ヅベキモ説明旁々報告ス

大臣ヘ転電セリ

六四四　十二月二十三日　在ハルビン佐々木総領事代理ヨリ内田外務大臣宛（電報）

東部西比利亜総軍司令官ニ「セメノフ」任命ニ関シ在チタ古沢副領事ヨリ報告ノ件

第一一五〇号　（十二月二十四日接受）

古沢ヨリ本官ヘ第二四一号ヲ以テ左ノ通リ

大臣ヘ転電アリ度シ第一九七号

十九日夜半接到最高執政官幕僚「スボヤルスキー」大佐発「セメノフ」宛電報ニ依レハ最高軍事会議ハ現下ノ時局ニ鑑ミ東部西伯利ノ兵権ヲ一有力者ノ下ニ統一スルノ必要ヲ認メ「セメノフ」ヲ以テ「イルクーツク」「チタ」及沿黒竜三軍管区ヲ包括スル東部西伯利総軍司令官タラシムルコトニ決定シタル趣ニテ之ニ関シ「セメノフ」ノ意見ヲ求メ来リタル処「セメノフ」ハ国歩艱難ノ際右カ如何ニ重大責任タリトモ之ヲ避クルハ自己ノ意思ニ反スルコトナリトテ断然之ヲ引受クルコトニ同意シタリトノコトナリ

尚「コルチャック」カ「セメノフ」ヲ推戴セントスルハ堅実ナル彼ノ意思ヲ尊重スルニアルモ（不明）ニ依リテ更ニ日本ノ積極的援助ヲ期待スルモノト察セラル

大使ヘ転電セリ

六四五　十二月二十四日　在浦潮松平政務部長ヨリ内田外務大臣宛（電報）

イルクーツクノ状勢危険ニ付引揚希望ノ在留民ヲ引揚ニ決定セル旨二瓶領事ヨリ報告ノ件

第六三四号　（十二月二十五日接受）

在「イルクーツク」二瓶発本官宛第三八六号左ノ通

大臣ヘ転電アリ度シ

第一七二号

「チェレムホオ」（西方百二十露里）「オリゾン」村（北方百露里）一両日前過激派ノ手ニ帰セリ市内ニハ過激派ヲ迎フベシトノ声アリ何時暴動起ルヤモ知レズ兵卒ハ信頼スベカラズ将校ハビクビクシテ僅一中隊ノ我軍ヲ唯一ノ援ト頼ミツツアリ「コルチャック」「ペペリヤエフ」ハ未ダ到着セズ「トレチャコフ」ハ「チタ」ニアリ「ブルシキン」「オダリ」ハ我ガ特務機関ニ万一ノ場合一身ノ保護ヲ願出ヅル有様ニテ政府ハ最早何事モ為ス力無ク事実上消滅シタルニ等シク僅一中隊ノ兵ニテハ市中ニ散在スル在留民ヲ保護シ難クサリトテ全部集合セシムベキ場所モナシ一方鉄道ノ状態ヲ見ルニ燃料欠乏ノ折柄「チェレムホオ」炭坑過激派ノ手ニ帰シ機関車客車ハ不足シ従業員ハ「ストライキ」ヲナスノ虞アリ愈々暴動起ラバ到底汽車ノ配給ヲ受クル見込無キニ付福田大佐山本大尉（交通部）トモ協議ノ上引揚ヲ希望スル在留民全部ヲ最近ノ機会ニ於テ引揚ゲシムルコトトセリ右御含迄ニ、尚加藤大使一行ハ護衛隊ト共ニ車中ニアリ本官及小柳夫婦ハ市中ニアリ停車場トノ交通容易ナラズ

六四六　十二月二十四日　在米国幣原大使ヨリ内田外務大臣宛（電報）

西比利亜ヘノ日本軍増派問題ニ関シ米国政府ノ回答ヲ促スタメ国務長官ト会談ノ件

第九〇四号　（十二月二十七日接受）

二十二日国務長官ニ面会シ貴電第八七八号及第八七九号ノ趣旨ヲ説明シ今ヤ事態急転ノ徴アルニ顧ミ往電第八五五号

ノ件速ニ回答ヲ得タキ旨申入レタル処長官ハ西比利亜ニ於ケル形勢ノ険悪ナルハ国務省モ報告ニ接シ居リ（長官ハ「イルクーツク」ニ於ケル不穏ノ原因ハ「チェッコ、スロバック」兵ノ動揺ニアルガ如キ報告アリタルヤニ記憶スト申居レリ）殊ニ日本国民ニ於テ著シク不安ヲ感ズルハ自分モ能ク了解シ得ル所ナリ仮ニ米国ノ手近ニ於テ斯ル事態発生センカ米国人モ神経鋭敏トナルハ必然ナルベシ従ッテ自分ハ素ヨリ本件ニ注意ヲ怠ルモノニ非ザルモ何分米国ニ取リテハ重大問題ニシテ自分一存ヲ以テ如何トモスルコトヲ得ズ諸関係方面トモ篤ト意思疎通ノ必要アル為メ未ダ方針確答ノ運ビニ至ラザル次第ナリ仍テ本使ハ本件ハ迅速決定ヲ要スルノ実況ニアルモノト認メラルルニ付若シ米国政府ニ於テ急ニ方針ヲ決定シ得ザル事情アルニ於テハ右決定ニ至ル迄臨機ノ措置トシテ日本ニ於テ刻下ノ須要ニ応ズル為メ何時ニテモ日本軍隊五、六千ノ増兵ヲ行フコトニ了解ヲ遂グルノ途ナキヤト本使ノ私見トシテ申述ベ且本件増兵ヲ必要トスル事態ノ一例トシ西比利亜ノ形勢今日ノ如ク険悪ナラザリシ時ニアリテサヘ日本守備区域内ニ過激派ノ襲撃ヲ受ケ鉄道電信ノ破壊セラレタルコト二ケ月ニ四百三十件ニ達シタル事実ヲモ挙ゲ尚西比利亜地方ノ警備ハ巨額ノ経費ト人命ノ犠牲トヲ要スルモノニシテ何国ニ取リテモ愉快ナル任務ニアラズト雖モ露国人民ノ利益ノ為メ将又列国全体ノ利益ノ為メ絶対ニ必要ナル以上ハ何国カ其任務ニ当ラザルヲ得ズ然モ其任務ノ実行上今ヤ急速ノ措置ヲ要スルノ事態ニアルモノト認メラルル旨ヲ敷衍説明シタルニ長官ハ十分事態ヲ了解シタルニ付本使申出デノ次第ハ急速詮議スベシト答ヘ且加藤大使電稟ノ要旨ヲ書付トシテ所望スル旨述ベタルニ付直ニ送付シ置キタリ

英仏伊ヘ転電セリ

六四七　十二月二十六日　在浦潮松平政務部長ヨリ内田外務大臣宛（電報）

居留民保護ノ為イルクーツク方向ヘ日本軍派遣ニ関スル件

第六四〇号　（十二月二十七日接受）

加藤大使ヘ左ノ通電報セリ

第二六九号

往電第二六四号ニ関シ福田大佐ヨリノ回電ニ依レバ加藤大使出兵ノ希望ハ居留民保護ノ目的ヲ主トスルモ副産物トシテ「コルチャック」政府ノ支持ヲ含ミ居レリトアリタル為メ軍司令官ハ政策上ノ意味ヲ有スル出兵ハ中央部ノ命令ナクシテ実行スルヲ困難トシ差当リ「チタ」ヨリ歩兵一個大隊砲工兵各一小隊ヲ「ムイソワヤ」ニ派遣シ更ニ其一中隊ヲ「クルトック」ニ派遣シ万一ノ場合ニ居留民撤退ノ保護ニ任ゼシムルコトトシ既ニ命令ヲ発シタル由

本電大臣ヘ転電セリ

六四八　十二月二十六日　在米国幣原大使ヨリ内田外務大臣宛（電報）

西比利亜ヘノ日本軍増派問題ニ関スル米国政府ノ回答遷延ノ事情ニ付報告ノ件

第九〇八号　（十二月二十八日接受）

西比利亜増兵問題ニ関シ本使ニ於テ国務長官ノ態度トシテ直接間接ニ聞及ビタル所ニ依レバ同官ハ帝国政府ガ日米協調ニ重キヲ置クノ方針ヲ諒トシ同官ノ関スル限リ成ルベク速ニ両国間ニ本件了解ノ成立ヲ期シテ努力中ナルハ疑ヲ容レズト雖モ目下上下両院共ニ政府反対党ニ於テ多数ヲ占メ且大統領ハ病気引籠リ中ナル為国務長官トシテ自然本問題ノ決定ニ躊躇シツツアルモノノ如シ特ニ本日ヨリ「クリスマス」休暇ニ入リ当国政務ノ進行ハ事実上数日間中止スルノ已ムヲ得ザルニ至レリ尤モ右決定ノ非常ナル遷延ヲ許サザル次第ハ先方ニ於テ充分了解シ居ルコトト信ゼラレ尚本使ヨリモ随時督促ヲ加ヘ日米協調ノ趣旨ヲ徹底スル様出来得ル限リ速ニ取付クルニ努ムベキニ付右御含置アリ度シ